

ビュー

目 次

1.ビューとは.....	2
ビュー	
カレントビュー	
2.ビューの作成.....	6
新規作成	
既存のビューからの複製	
登録したレイアウト集からビューの作成	
ビューの表現	
3.ビューの編集.....	19
サイズ変更	
移動	
削除	
縮尺変更	
ビュー内の図面表示位置の変更	
視点方向の変更と回転	
ビュー名の変更	
余白	
固定	
ワイプ	
ビューのプロパティ	
4.ビューに表示する要素の制御.....	41
「ビュー共通」「平面ビュー共通」「ビュー専用」で表示を制御	
レイヤーで表示を制御	
フロアで表示を制御	
クリップで表示を制御	

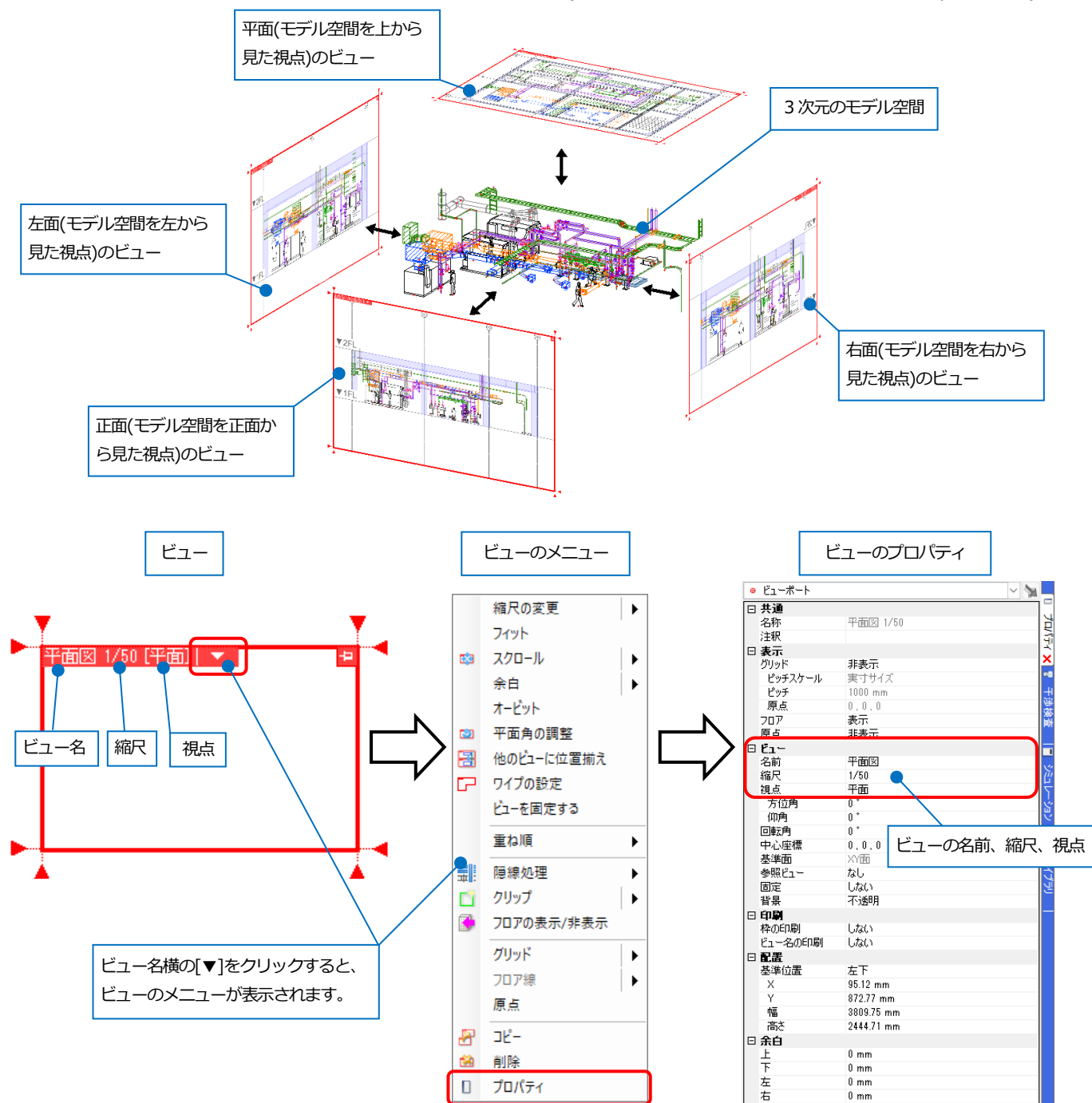
更新日：2026/7/31 Rebro2026 対応

1.ビューとは

ビュー

レプロには2次元のペーパー空間と3次元のモデル空間があり、モデル空間を表示する赤枠がビューです。ファイル内のすべてのビューは、同一のモデル空間を表示しているため、作図などの編集作業をどのビューから行っても、すべてのビューで編集内容が連動します。

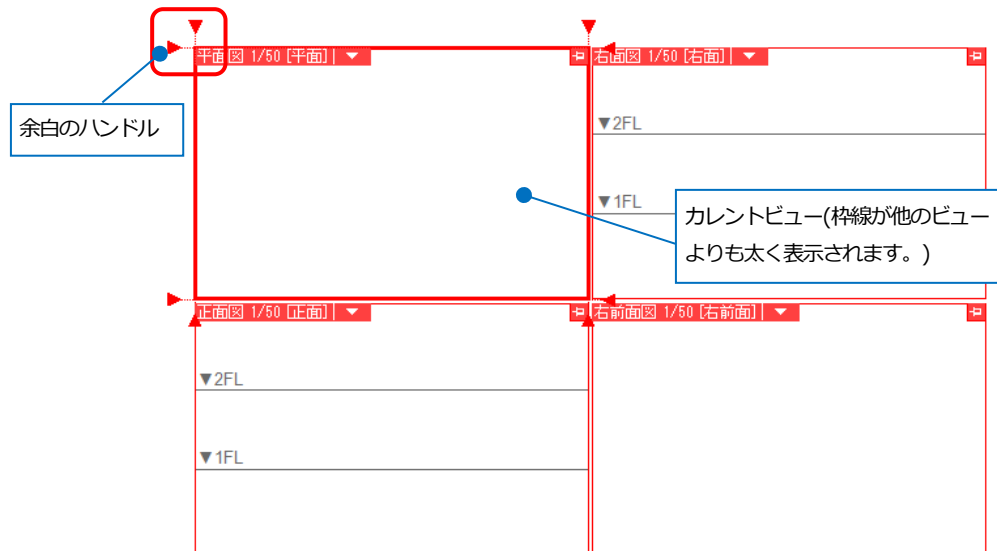
また、ビューには名前と視点方向(平面、正面など)、縮尺が設定できる他、ビュー専用などの属性やレイヤーなどの機能を使用してビューに表示する要素を絞ることができます。(ビューに表示する要素の制御についてはp.41 参照)



カレントビュー

ビューはレイアウト上に複数配置することができます。複数あるビューの中で、現在操作中のビューをカレントビューと呼びます。カレントビューは他のビューよりもビューの枠が太く表示され、余白のハンドル(赤い三角)が表示されます。(余白についてはp.35 参照)

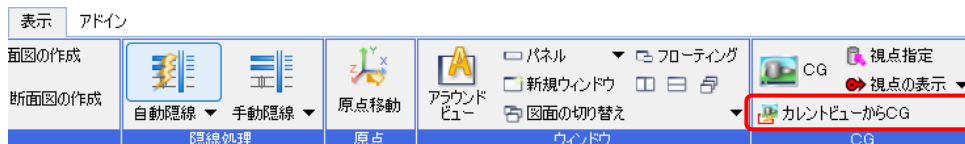
ビュー上でマウスのボタンやホイールを操作することで、カレントビューが切り替わります。



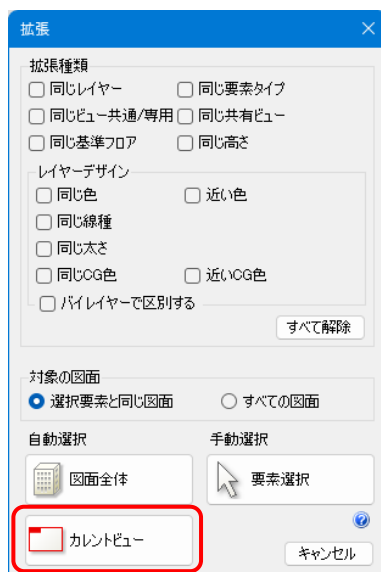
CGの起動時や要素選択の拡張時など、一部のコマンドではコマンドを実行する対象をカレントビューに表示されている要素に絞ることができます。

(例)

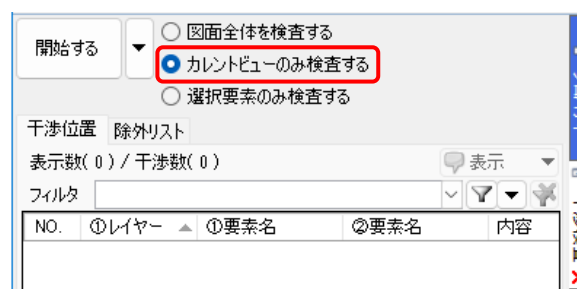
[表示]タブ-[カレントビューからCG]



[オプション]-[選択要素の拡張]



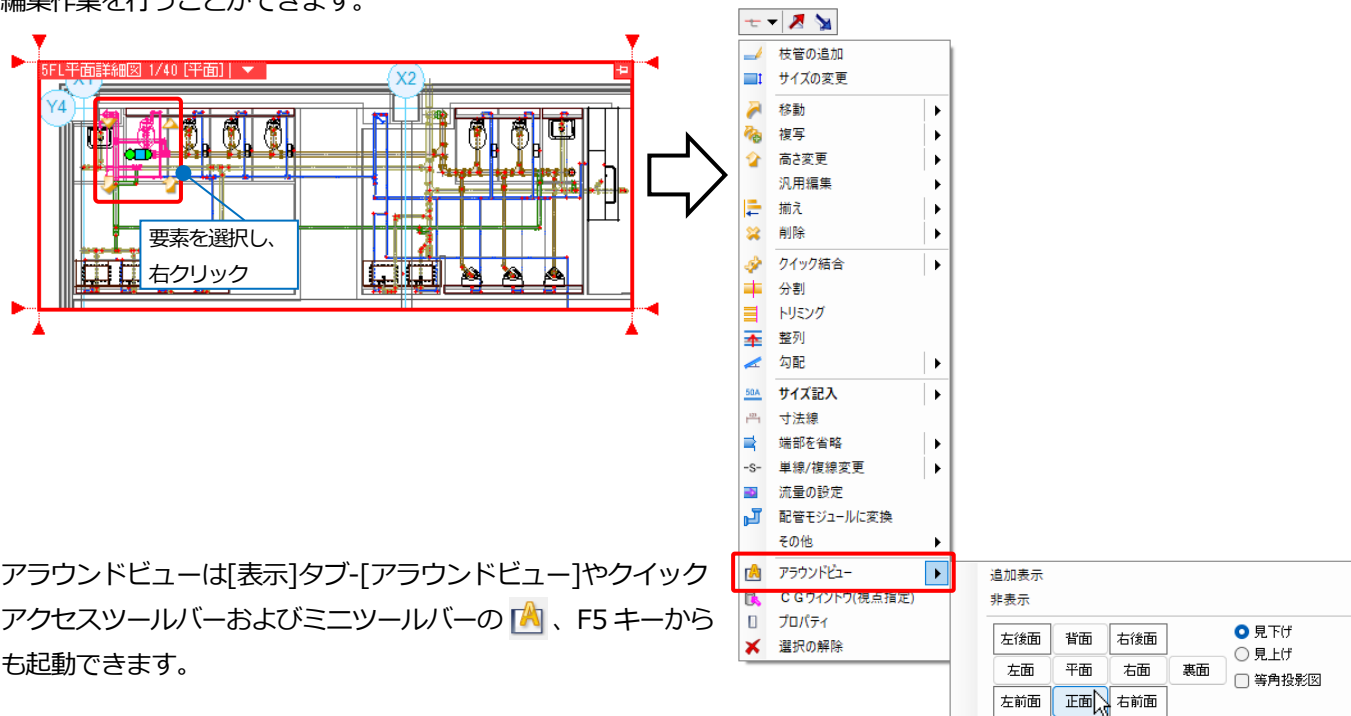
[ツール]タブ-[パネル]-[干渉検査]



● 補足説明

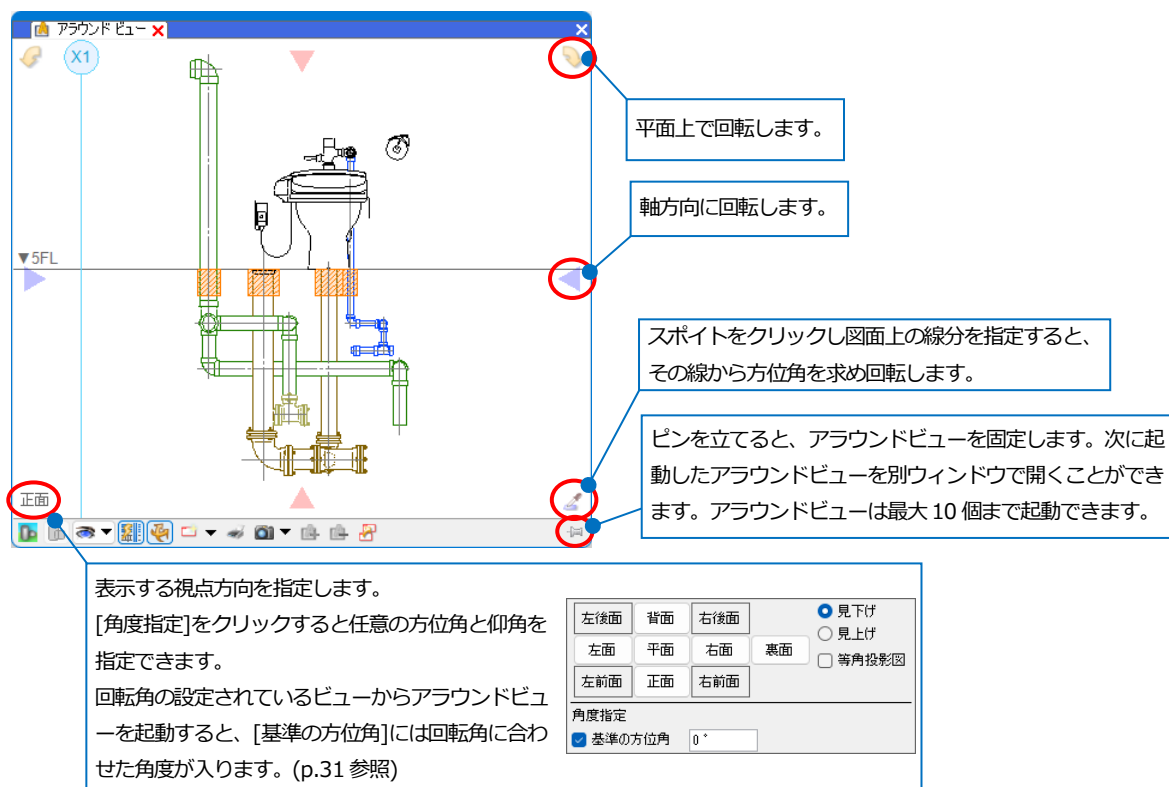
アラウンドビュー

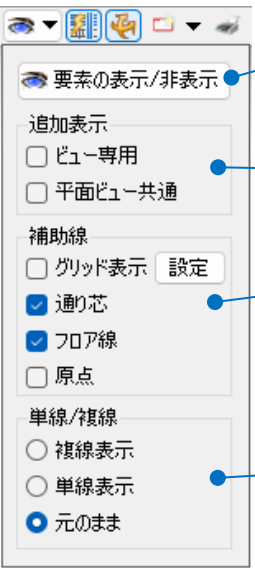
アラウンドビューは選択した要素を一時的に任意の視点で表示できるポップアップウィンドウです。アラウンドビューを活用することで、図面上に作成するビューの数を減らすことができます。アラウンドビューからも、作図などの編集作業を行うことができます。



アラウンドビューは[表示]タブ-[アラウンドビュー]やクイックアクセスツールバーおよびミニツールバーの 、F5 キーからも起動できます。

アラウンドビューの機能



	アラウンドビューのCG	アラウンドビュー内の要素をCG表示に切り替えます。
	アラウンドビューのCG表示の透明度	アラウンドビューのCG表示をしている場合、[要素の表示/非表示]で透明度を設定した要素の表示を[不透明][半透明][透明]の順で切り替えます。
	アラウンドビューの表現	アラウンドビューの表現を設定します。  要素タイプごとにアラウンドビュー上での表示/非表示の切り替えや透明度の設定をします。 チェックを入れると、アラウンドビュー上にビュー専用要素や平面ビュー共通要素を表示できます。 各項目のチェックを入れるとグリッド、通り芯、フロア線、原点を表示します。 配管・ダクト・機器の単線/複線表示の設定をします。 「複線表示」「単線表示」：複線または単線を指定して表示します。 「元のまま」：アラウンドビュー起動時に要素を選択したビューと同じ表現で表示します。
	アラウンドビューの自動隠線	アラウンドビュー内の要素を隠線処理します。
	オービット	右ドラッグでアラウンドビューの視点方向を任意に変更できます。要素を選択している状態で操作を行うと、要素を中心に視点を旋回できます。
	アラウンドビューからビューの作成	アラウンドビューに表示された内容でビューを作成します。(p.11 参照) [▼]-[ビューの作成(汎用図形に変換)]を選択すると、アラウンドビューに表示された要素を汎用図形に変換したビューを作成します。変換した要素はビュー専用の汎用図形のため、他のビューには影響しません。また、元の要素も残ります。
	印刷	アラウンドビューの表示状態を印刷します。
	キャプチャ	アラウンドビューの表示状態を画像ファイルやクリップボード、PDF ファイル、PDF(3D)ファイルに保存します。メールソフトを起動して画像を送信することもできます。
	アラウンドビューに追加表示	選択した要素を現在のアラウンドビューに追加表示します。
	アラウンドビューから非表示	選択した要素を現在のアラウンドビューから非表示にします。
	アラウンドビューのコピー	現在のアラウンドビューと同じ表示状態のアラウンドビューを別ウィンドウで起動します。

2.ビューの作成

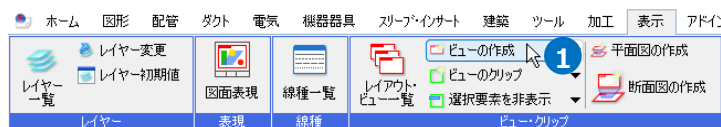
図面を作図するためには、レイアウト上にビューを作成します。ビューを作成するには、新規で作成する方法、既存のビューをコピーする方法、登録したレイアウト集から呼び出す方法があります。

新規作成

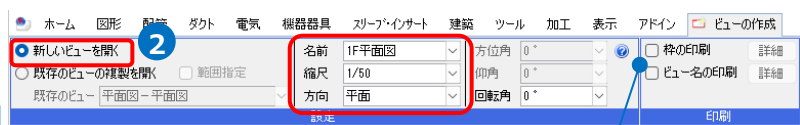
ビューの作成

[ビューの作成]では、視点方向とビューの大きさを任意に指定して新しいビューを作成します。作成したビューは、図面の原点位置をビューの中心に表示します。

- 1 [表示]タブ-[ビューの作成]をクリックします。



- 2 「新しいビューを開く」を選択し、[名前][縮尺][方向]を指定します。



Memo

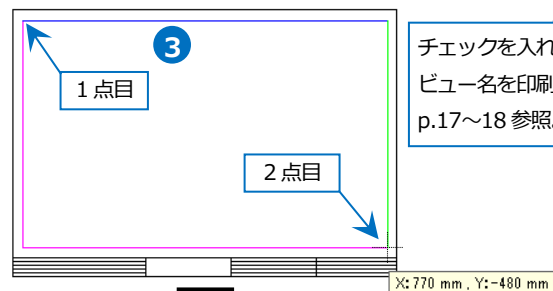
[方位角][仰角][回転角]も必要に応じて入力します。

※[方位角]、[仰角] は、[方向]を「カスタム」に設定すると入力できます。

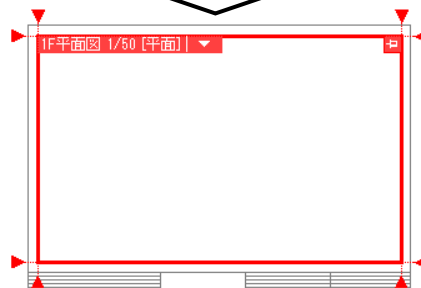
名前	カスタム(1)	方位角	0°
縮尺	1/100	仰角	0°
方向	カスタム	回転角	0°

(ビューの視点と角度については p.30 参照)

- 3 作成するビューの範囲を対角2点でクリックします。
→ビューが作成されます。

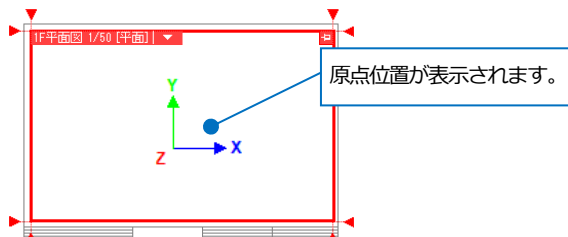
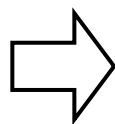
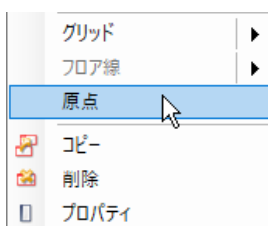


チェックを入れると、ビュー枠やビュー名を印刷時に出力します。
p.17~18 参照。



● 補足説明

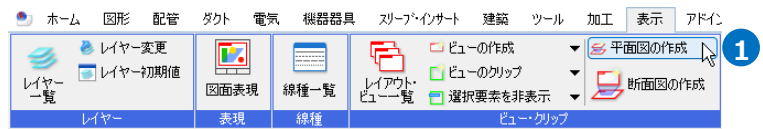
ビュー名横の[▼]-[原点]をクリックすると、原点位置を表示します。(P.16参照)



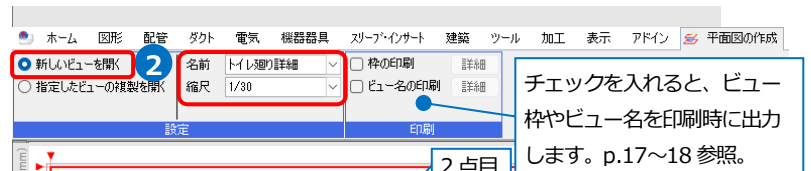
平面図の作成

[平面図の作成]では、既存の平面ビューから表示する範囲を指定して平面方向のビューを作成します。ビューに表示したい範囲を指定して作成できるため、平面詳細図などの作成に適しています。

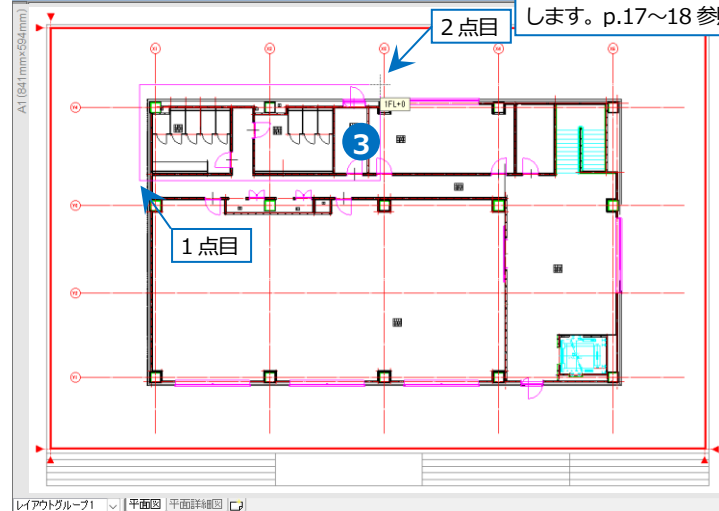
- 1 [表示]タブ-[平面図の作成]をクリックします。



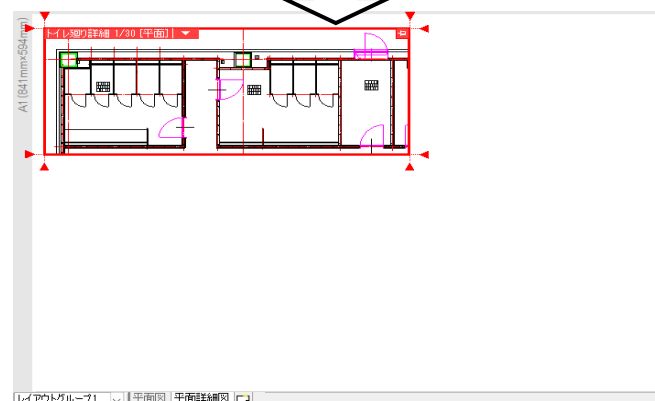
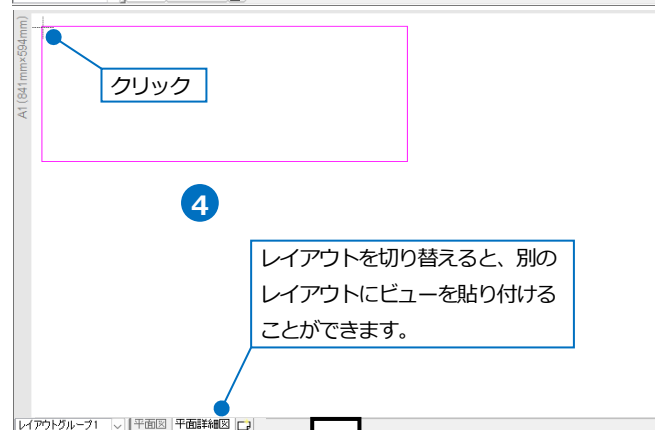
- 2 「新しいビューを開く」を選択し、[名前][縮尺]を指定します。



- 3 ビューに表示する範囲を対角2点でクリックします。



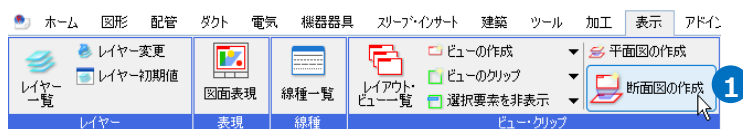
- 4 ビューを配置する位置でクリックし、Enterキーで確定します。
必要の場合は、ビューの大きさを調整します。(ビューの大きさ変更についてはp.19を参照)



断面図の作成

[断面図の作成]では、ビューに表示する高さと平面範囲を指定して断面方向のビューを作成します。視点方向が「正面」「右面」「左面」「背面」のビューから選択し、作成と合わせて平面図に断面図記号を表記できます。作成したビューは、指定した範囲内に含まれる要素のみが表示されるため、断面詳細図などの作成に適しています。

- 1 [表示]タブ-[断面図の作成]をクリックします。



- 2 断面ビューの[名前]と[縮尺]を設定します。



チェックを入れると、断面図記号を作成します。

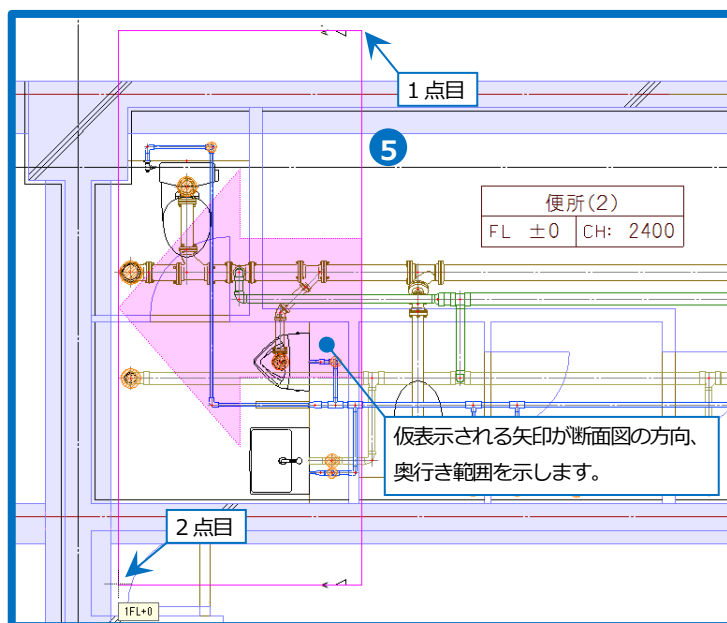
チェックを入れるとビューの角度を選択した方向に合わせます。

- 3 断面ビューの方向を選択します。

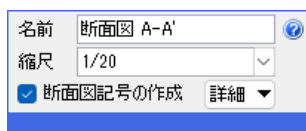
- 4 断面ビューに表示する高さを指定します。



- 5 断面ビューに表示する範囲を対角2点でクリックします。
→作成するビュー枠が仮表示されます。



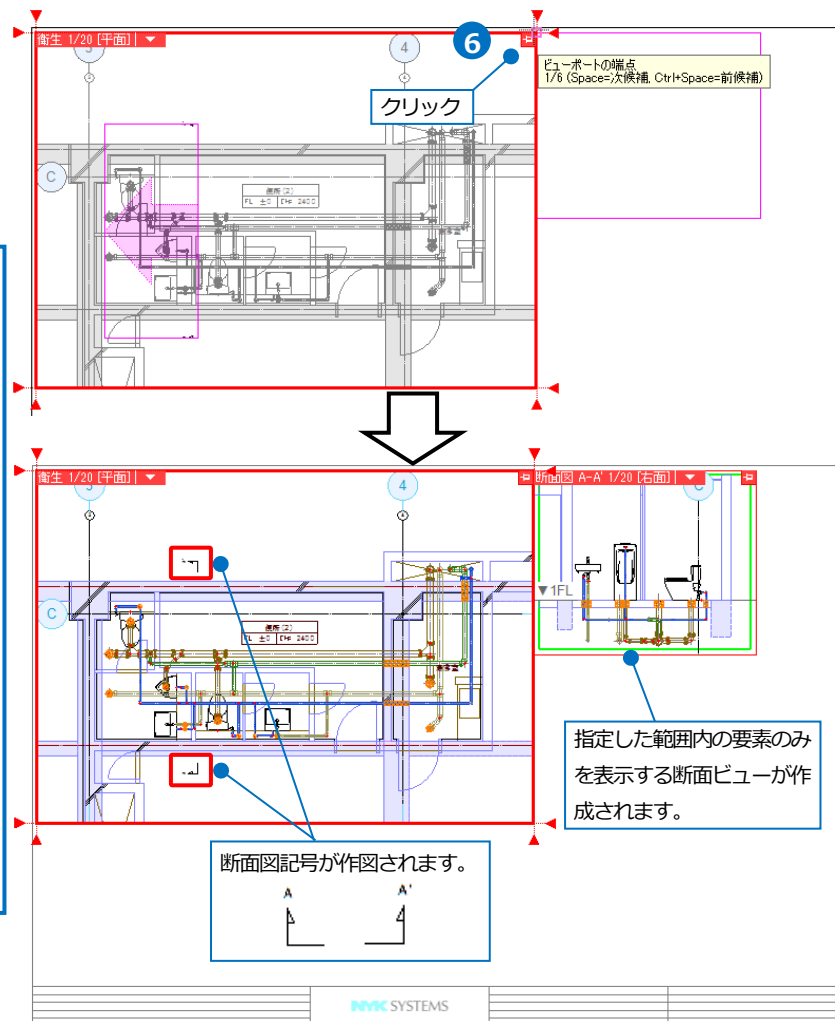
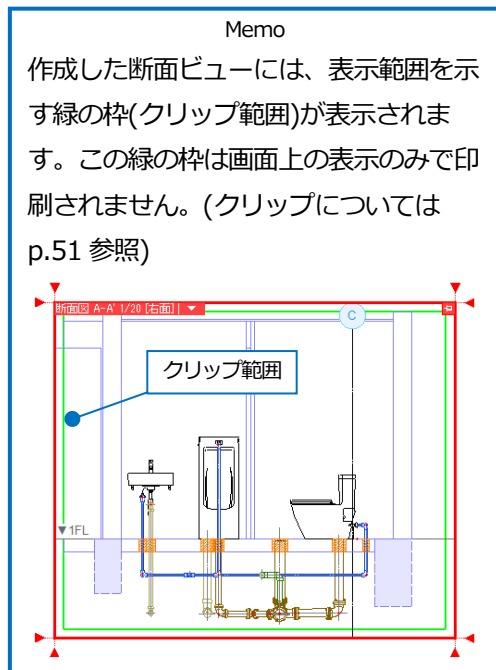
● 補足説明



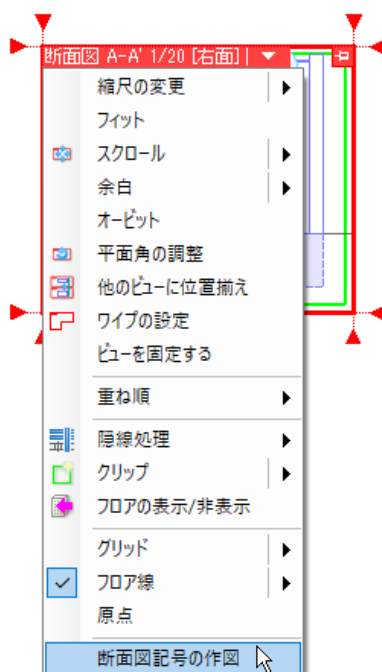
[名前]を「断面図 A-A'」にすると、断面図の作成を行うごとに自動でアルファベットが繰り上がります。また、[名前]に「○-○」形式の文字が含まれていると、断面図記号に「○」が表示されます。

し、Enter キーで確定します。
必要な場合は、ビューの大きさを調整
します。(ビューの大きさ変更につい
ては p.19 を参照)

必要な場合は、ビューの大きさを調整
します。(ビューの大きさ変更につい
ては p.19 を参照)

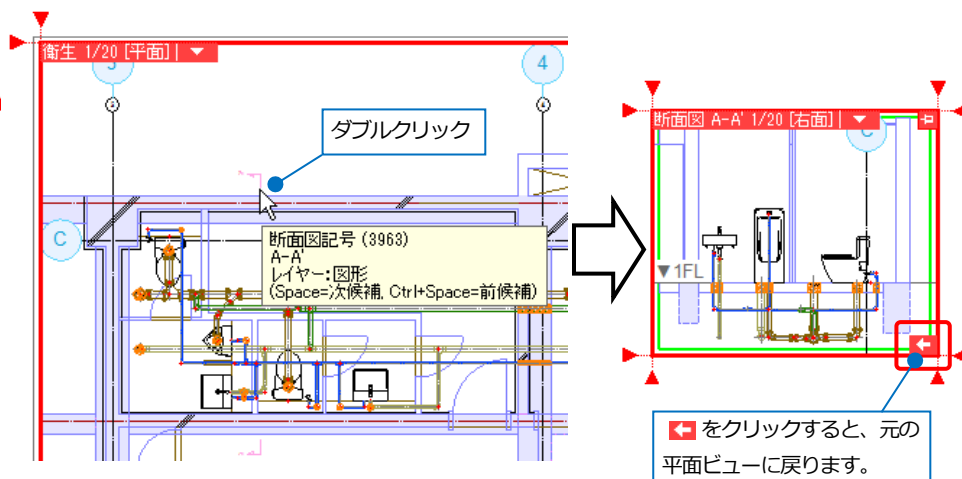


● 補足説明

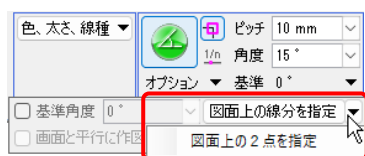


クリップを設定している断面ビューのビュー名横の[▼]-[断面記号の作図]からも、指定した平面ビューに断面図記号を作図することができます。

また、断面図記号をダブルクリックすると、連動した断面ビューに移動します。
(クリップについては、p.51 参照)

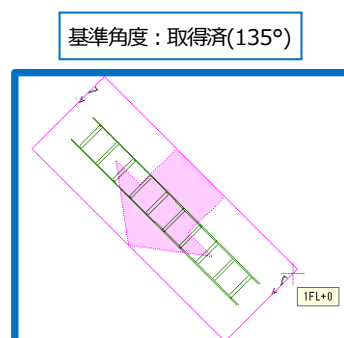
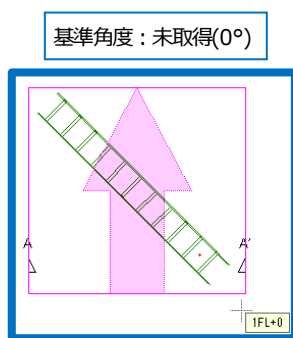
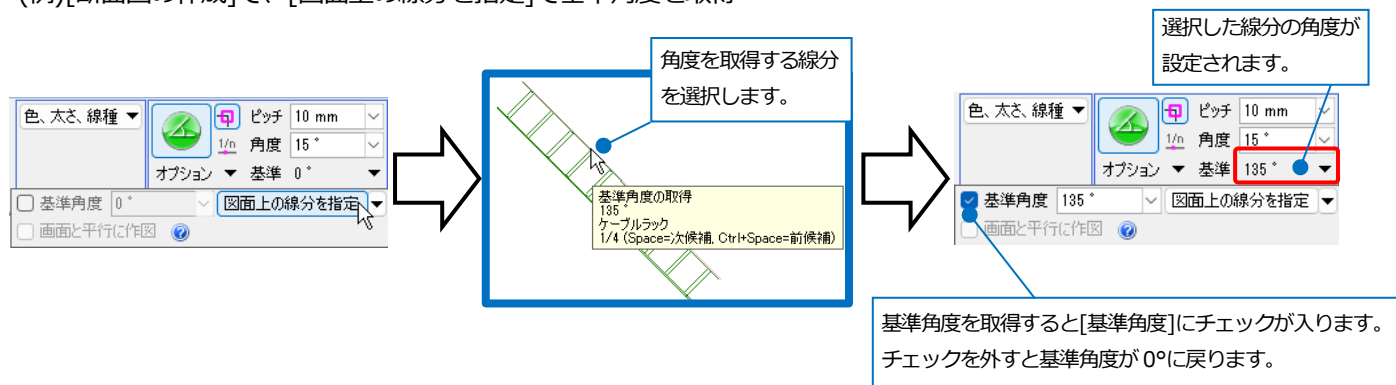


● 補足説明



[平面図の作成]、[断面図の作成]でビューに表示する範囲を指定する際、[座標指定]パネル[基準]横の[0°]-[図面上の線分を指定]、または[図面上の線分を指定]横の[▼]-[図面上の2点を指定]で図面上の線分、2点から基準角度を取得し、取得した角度に合わせて表示範囲を指定することができます。

(例)[断面図の作成]で、[図面上の線分を指定]で基準角度を取得

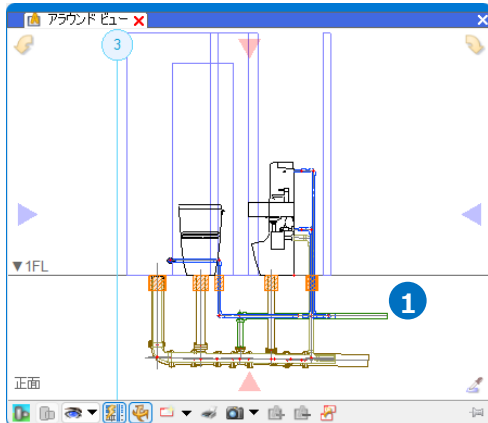


アラウンドビューからビューの作成

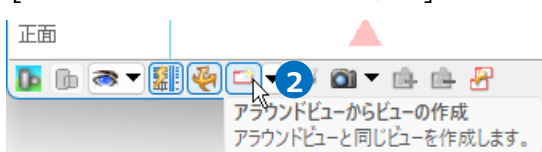
[アラウンドビューからビューの作成]では、アラウンドビューと同じ表示状態のビューを作成します。

作成したビューには、アラウンドビューの表示範囲に合わせてクリップが設定されます。設定されたクリップの範囲内に外部参照要素がある場合、作成したビューに外部参照要素が表示されます。(クリップについてはp.51、外部参照についてはテクニカルガイド「[外部参照](#)」をご参照ください。)

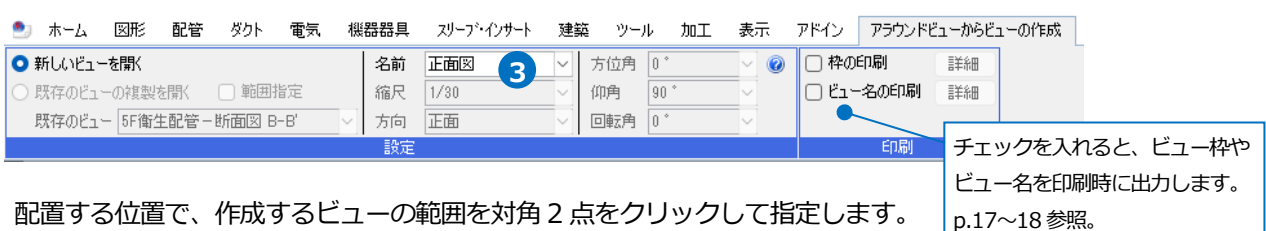
- 1 作成したいビューの視点方向で、アラウンドビューを起動します。(アラウンドビューの起動方法はp.4 参照)



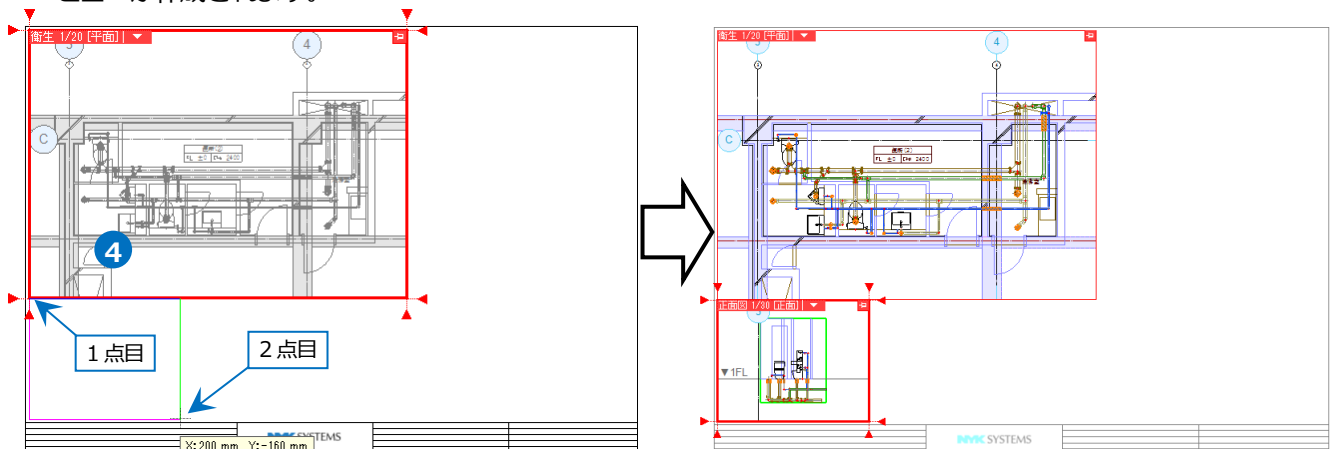
- 2 [アラウンドビューからビューの作成]をクリックします。



- 3 作成するビューの名前を入力します。



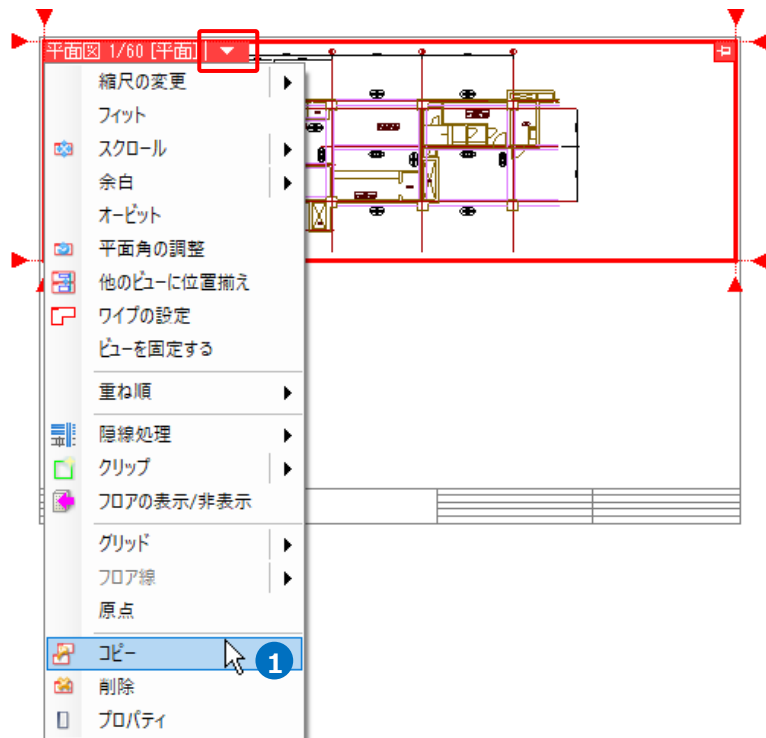
- 4 配置する位置で、作成するビューの範囲を対角2点をクリックして指定します。
→ビューが作成されます。



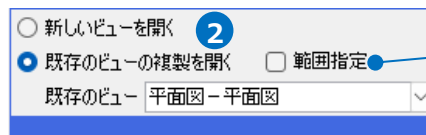
既存のビューからの複製

既存のビューをコピーして、ビューを作成(複製)します。同一レイアウトに限らず、別のレイアウトにもコピーすることができます。ビューのコピーができるのは同一図面内のみです。

- 1 ビュー名横の[▼]-[コピー]をクリックします。

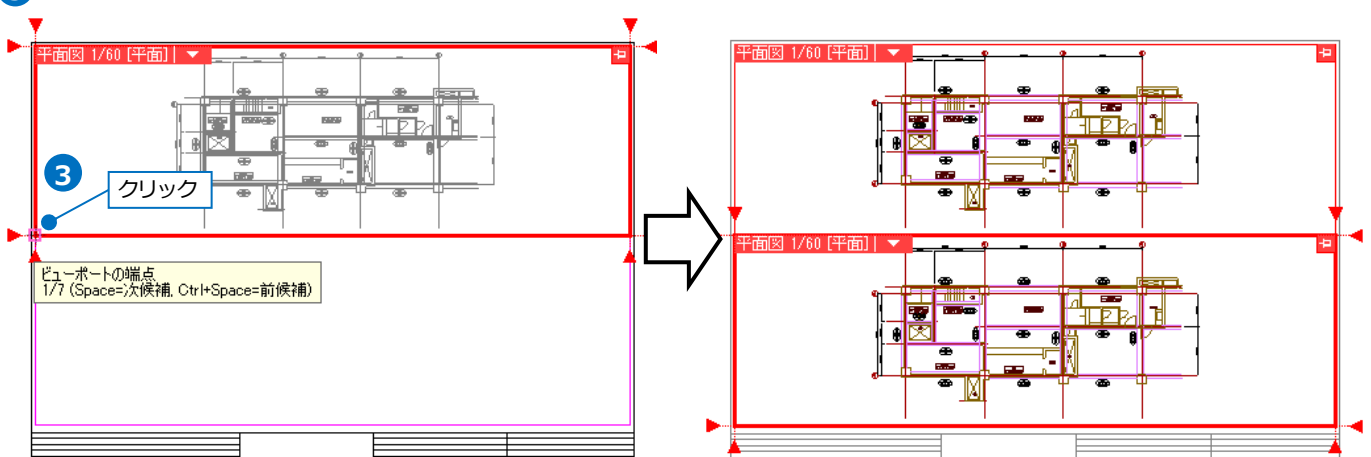


- 2 「既存のビューの複製を開く」が選択されます。



[範囲指定]にチェックを入れると、コピーしたビューのサイズを変更して貼り付けることができます。

- 3 コピーしたビューを貼り付ける位置でクリックします。

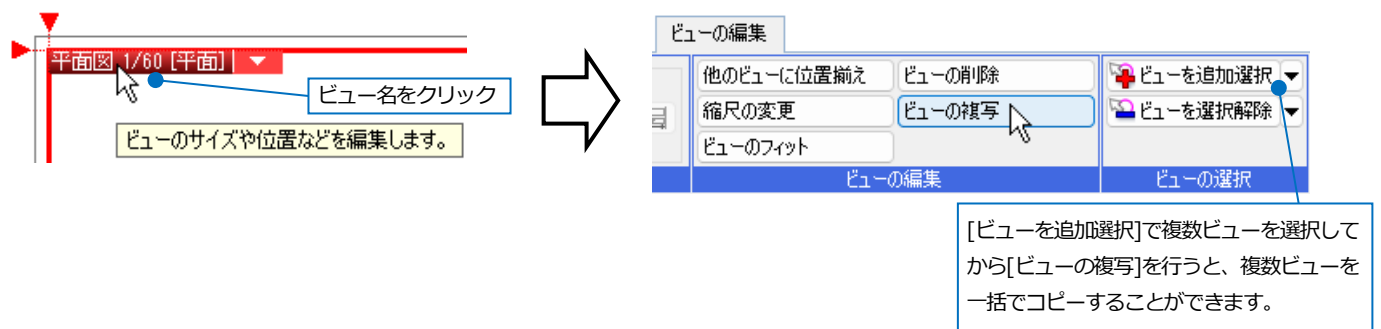


Memo

[表示]タブ-[ビューの作成]で「既存のビューの複製を開く」を選択しても同様の操作が行えます。([ビューの作成]についてはp.6 参照)

- 補足説明

ビュー名をクリックし、[ビューの編集]の[ビューの複写]からもビューをコピーすることが可能です。[ビューの編集]の場合、同一レイアウトでのみコピーできます。



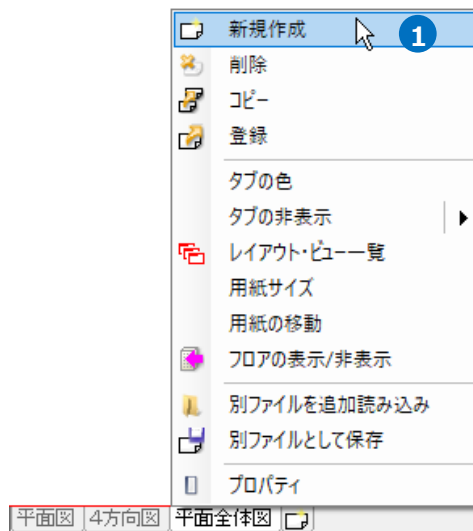
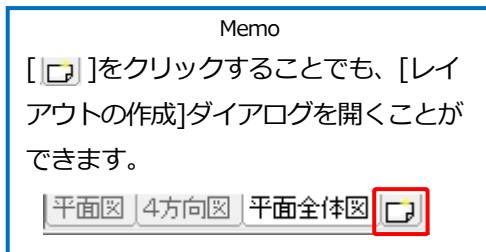
他図面にビューをコピーしたい場合は、コピー先の図面にコピー元の図面のレイアウトを読み込んでからコピーします。

他図面のレイアウトの読み込みは、[ホーム]タブ-[読み込み]-[Rebro 読み込み(レイアウト追加)]で行うことができます。[Rebro 読み込み(レイアウト追加)]についての詳細はテクニカルガイド「[図面の切り出し・図面の統合・ルート端部の接続確認](#)」をご参照ください。

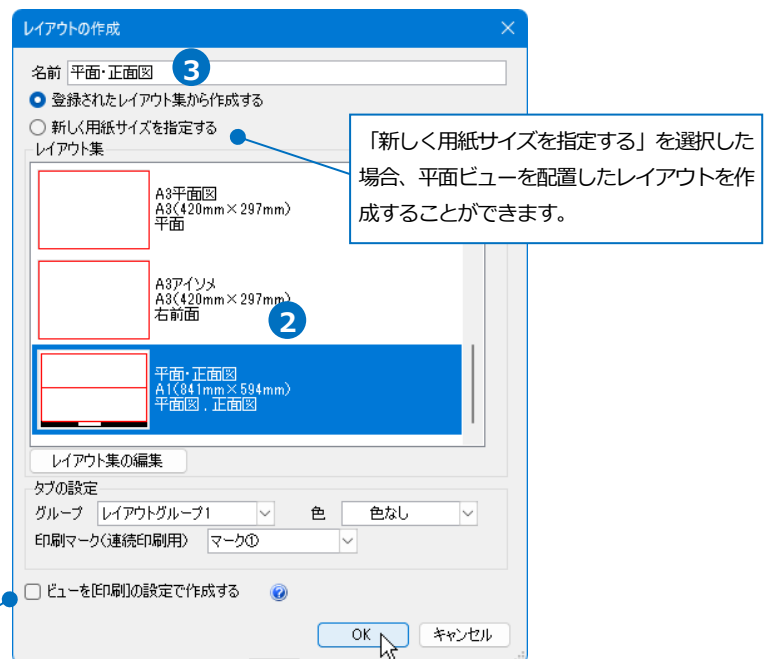
登録したレイアウト集からビューの作成

レイアウトを新規作成し、登録済みのビューを作成します。

- 1 レイアウトを追加する図面で、レイアウトのタブ上で右クリックし、[新規作成]をクリックします。

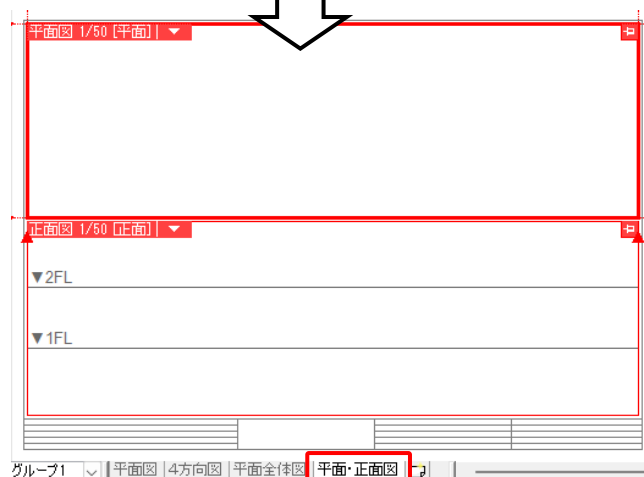


- 2 「登録されたレイアウト集から作成する」を選択し、レイアウト集から追加するレイアウトを選択します。



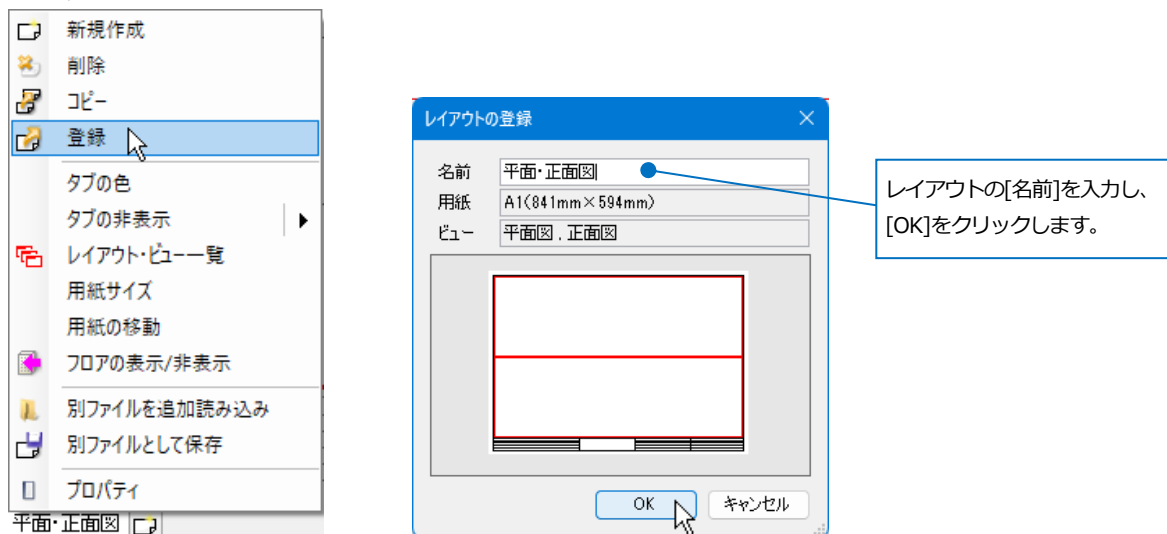
- 3 追加するレイアウトの名前を入力し、[OK]をクリックします。
→選択したレイアウトに登録されたビューが作成されます。

チェックを入れると [設定]-[図面の初期値]タブ-[コマンドの初期値]-[印刷]-[ビュー]の設定が反映されます。(p.18 参照)

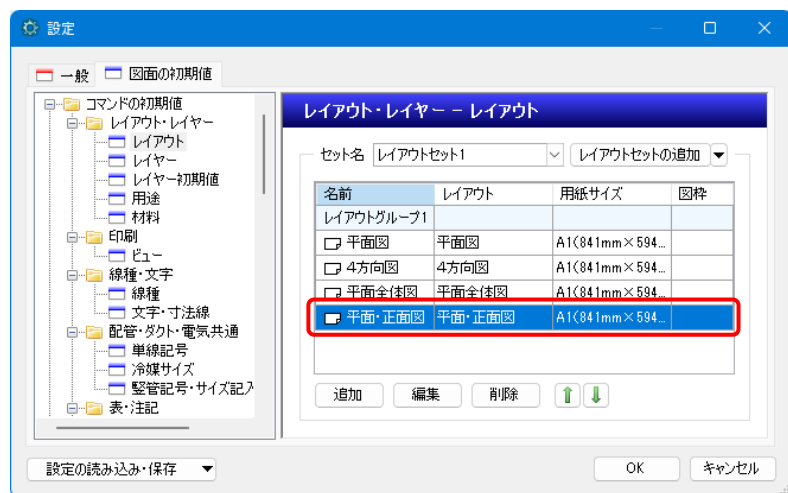


● 補足説明

レイアウトのタブ上で右クリックし、[登録]より現在のレイアウトの状態(用紙サイズやビューの内容など)が登録できます。



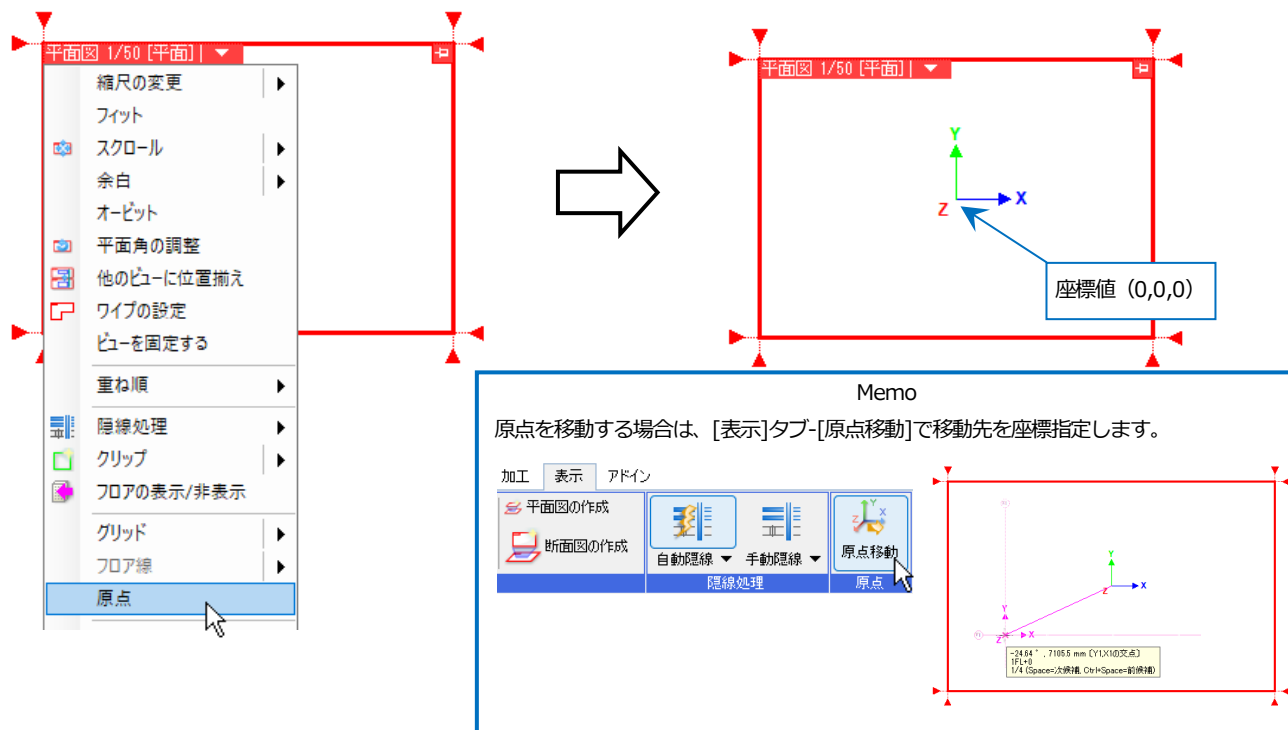
登録したレイアウトを、[設定]-[図面の初期値]タブ-[コマンドの初期値]-[レイアウト・レイヤー]-[レイアウト]でレイアウトセットに追加することで、新規図面にも同じレイアウトを反映することができます。



ビューの表現

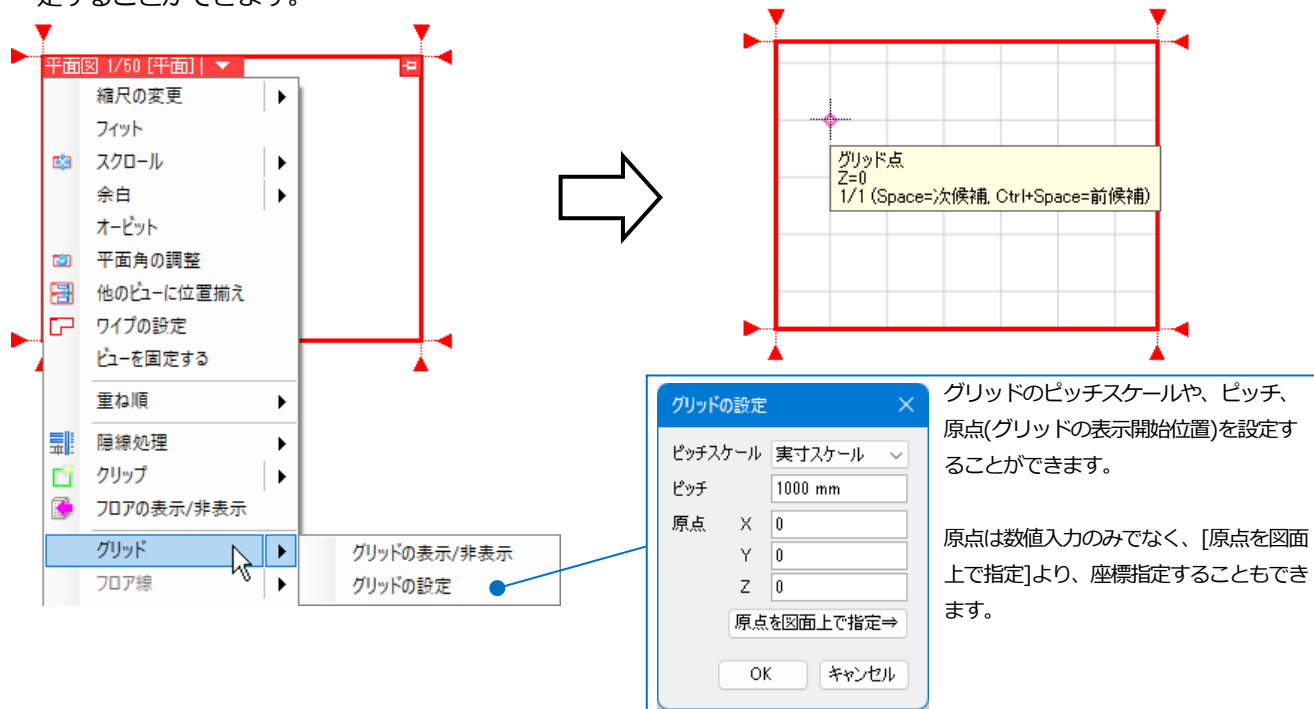
原点

ビュー名横の[▼]-[原点]で原点の表示/非表示を切り替えることができます。原点を表示すると、要素の作図時や編集時に原点を座標指定することができます。図面の読み込み、外部ファイル保存などの基準点になります。



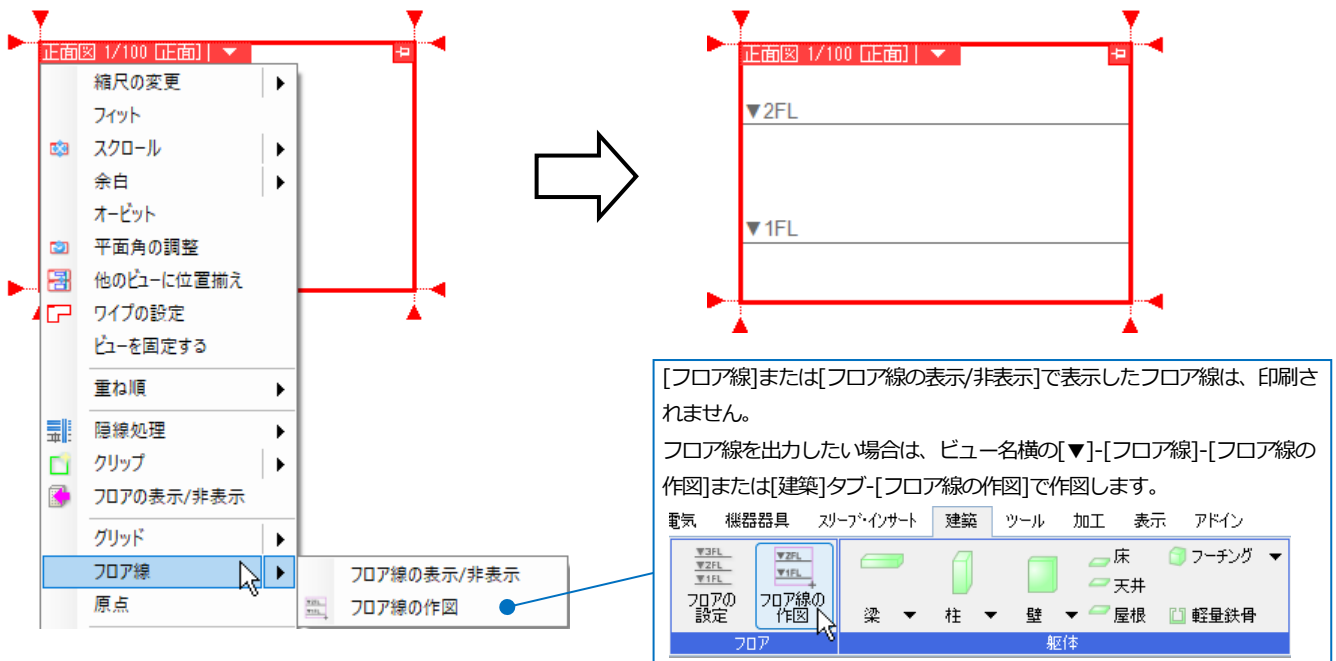
グリッドの表示

ビュー名横の[▼]-[グリッド]または[グリッド]-[グリッドの表示/非表示]でグリッド線の表示/非表示を切り替えることができます。グリッド線を表示すると、要素の作図時や編集時にグリッド線同士の交点(グリッド点)を座標指定することができます。



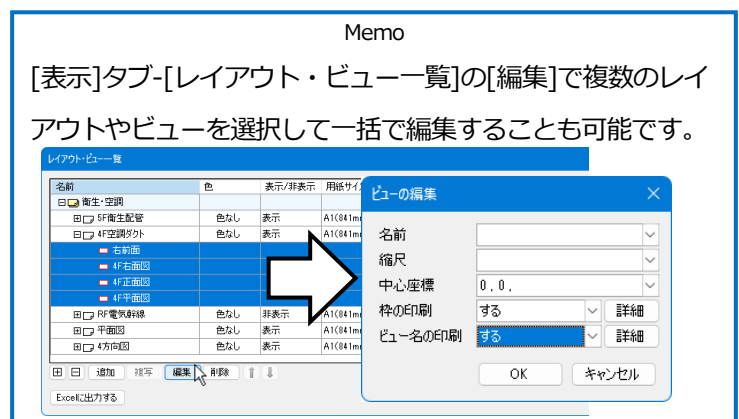
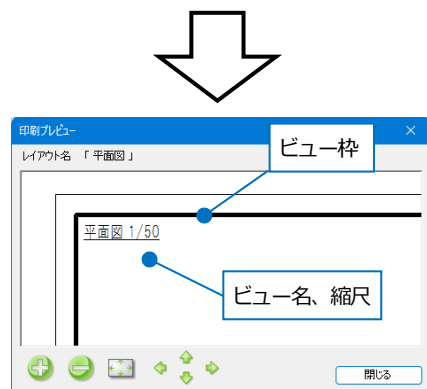
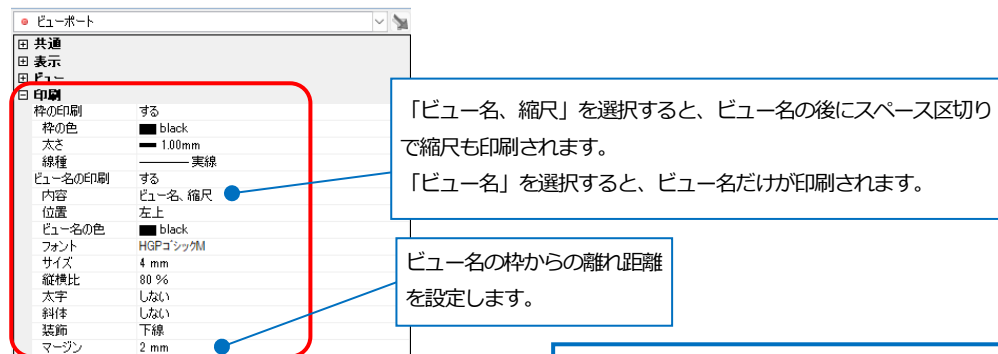
フロア線の表示

ビュー名横の[▼]-[フロア線]または[フロア線]-[フロア線の表示/非表示]でフロア線の表示/非表示を切り替えることができます。フロア線を表示すると、要素の作図時や編集時にフロア線上を座標指定することができます。



ビュー枠とビュー名の印刷

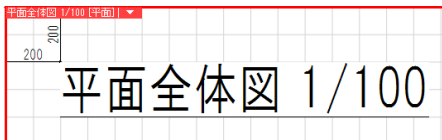
ビューのプロパティ[印刷]-[枠の印刷][ビュー名の印刷]でビュー枠とビュー名の印刷設定ができます。色や太さなどの詳細設定を行うことができます。



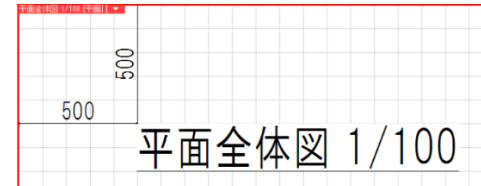
[ビュー名の印刷]で設定した内容は、ビュー内に表示され、確認ができます。

(例)[マージン]を「2mm」と「5mm」で設定した場合

日 印刷	
枠の印刷	する
枠の色	red
太さ	1.00mm
線種	実線
ビュー名の印刷	する
内容	ビュー名 縮尺
位置	左上
ビュー名の色	black
フォント	HGPゴシックM
サイズ	4 mm
縦横比	80 %
太字	しない
斜体	しない
装飾	下線
マージン	2 mm



日 印刷	
枠の印刷	する
枠の色	red
太さ	1.00mm
線種	実線
ビュー名の印刷	する
内容	ビュー名 縮尺
位置	左上
ビュー名の色	black
フォント	HGPゴシックM
サイズ	4 mm
縦横比	80 %
太字	しない
斜体	しない
装飾	下線
マージン	5 mm



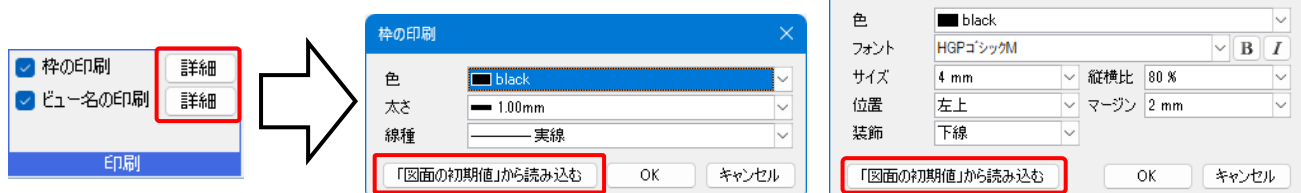
●補足説明

ビューを新規作成する際に、[枠の印刷][ビュー名の印刷]にチェックを入れると、[詳細]で印刷時のビュー枠とビュー名の色や太さなどの詳細設定を行うことができます。設定の初期値は、[設定]-[図面の初期値]タブ-[コマンドの初期値]-[印刷]-[ビュー]で設定できます。設定が反映する対象は、設定後に[ホーム]タブ-[新規図面]で下記のコマンドを使用した時です。

- ・[表示]タブ-[ビューの作成]で「新しいビューを開く」を選択
- ・[表示]タブ-[平面図の作成]で「新しいビューを開く」を選択
- ・[表示]タブ-[断面図の作成]
- ・[ビューのコピー]で「新しいビューを開く」を選択
- ・[ア라운드ビューからビューの作成]



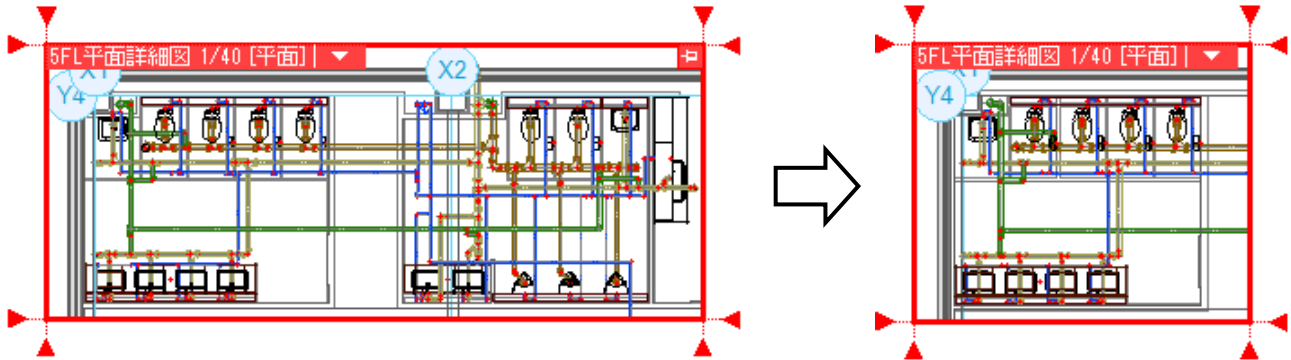
現在開いている図面に設定を反映する場合は、[枠の印刷][ビュー名の印刷]ダイアログの [「図面の初期値」から読み込む] をクリックし、初期値を読み込みます。



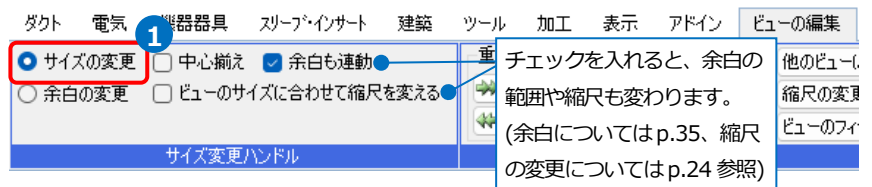
3.ビューの編集

サイズ変更

ビューのサイズを変更します。

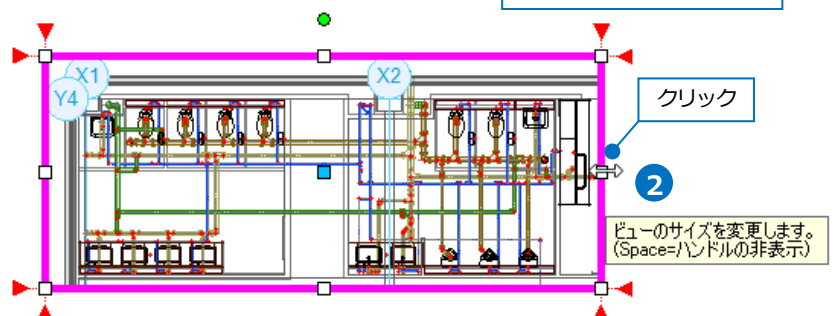


- 1 ビュー名をクリックし、[ビューの編集] で「サイズの変更」を選択します。



- 2 ビューの角と辺に表示されたサイズ変更のハンドル(白)をクリックします。

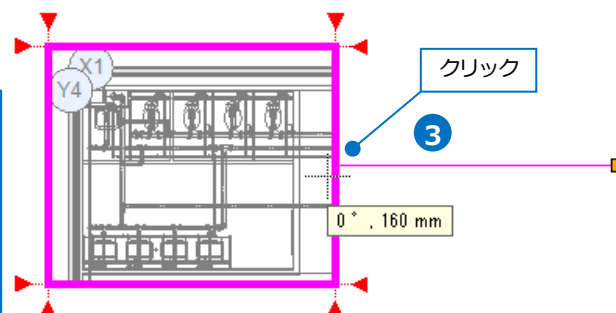
Memo
用紙を黒で表示している場合、ハンドルは黒で表示されます。



- 3 変更位置でクリックし、Enter キーで確定します。

Memo
[中心揃え]にチェックを入れると、表示しているビューの中心位置を保持してサイズを変更します。

サイズ変更ハンドル

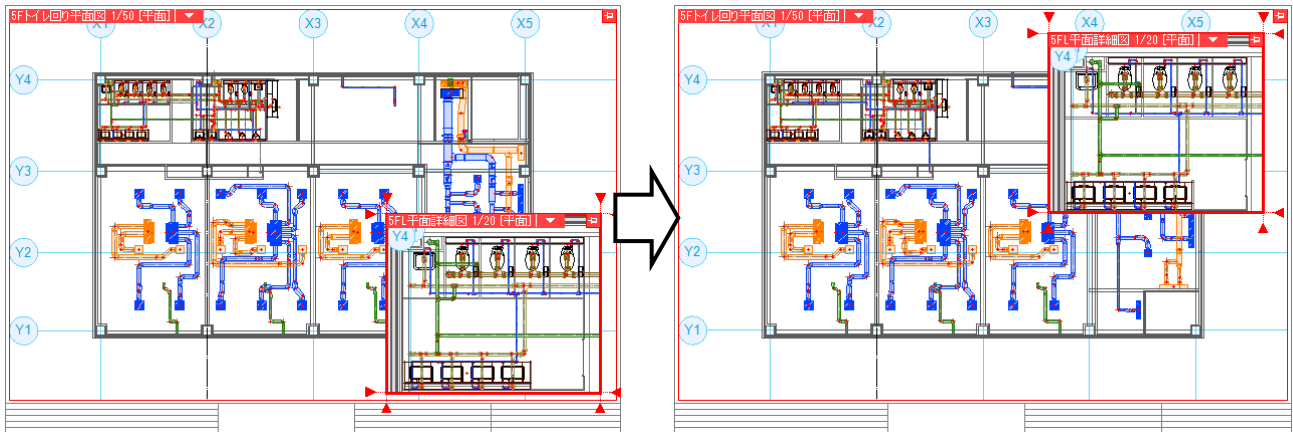


移動

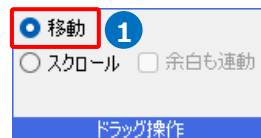
配置済みのビューは、同じレイアウト内で位置を移動したり、ビュー同士の重ね順を変更することができます。

移動

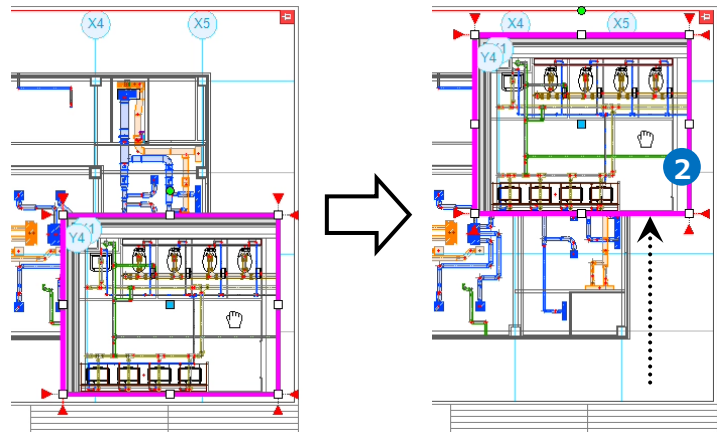
ビューを任意の位置に移動します。用紙範囲外にも移動することができます。複数のビューを選択すると、まとめて移動することもできます。(複数のビューの選択については p.21 参照)



- 1 ビュー名をクリックし、[ビューの編集]で「移動」を選択します。



- 2 ビュー内で左ドラッグして移動位置を指定します。



- 3 Enter キーで確定します。

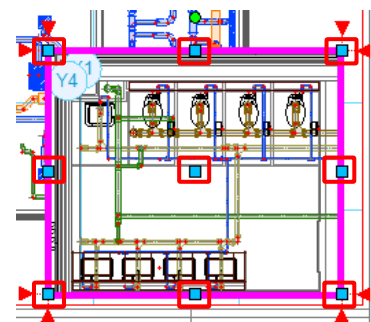
Memo

ビューの移動ができるのは同一レイアウト内のみです。他レイアウトに移動する場合はビューをコピーし、不要な場合は元のビューを削除します。(コピーについては p.12~13、削除については p.23 参照)

● 補足説明

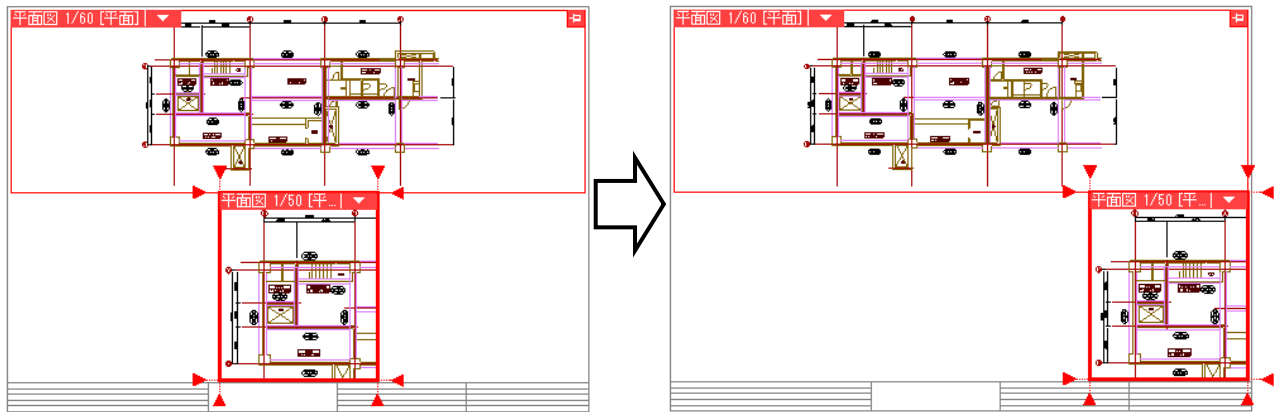
移動のハンドル(青)をクリックすると、移動の基準位置を選択してビューを移動することができます。基準位置はオレンジ色のハンドルで指定します。ビュー枠上やペーパー要素の有意点を指定できます。

[ビューの編集]起動後に Shift キーを長押しすると、ビューの四角や四辺にも移動のハンドル(青)が表示されます。

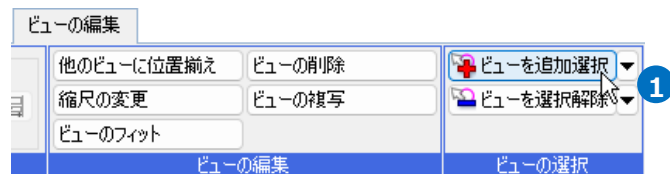


複数のビューの位置揃え

複数のビューの位置を揃えます。

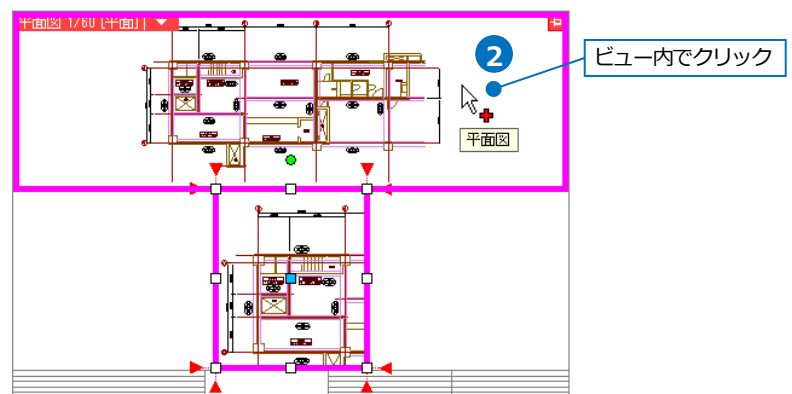


- 1 ビュー名をクリックし、[ビューの編集]で
[ビューを追加選択]をクリックします。



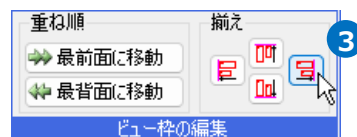
- 2 位置を揃えるビューをすべて選択します。

Memo
Ctrl キーの長押しでも、ビューを追加選
択できます。



- 3 揃えたい方向のアイコンをクリックしま
す。

Memo
選択したビューの中で揃える方向に最も
近いビューの枠線で位置を揃えます。



- 4 Enter キーで確定します。

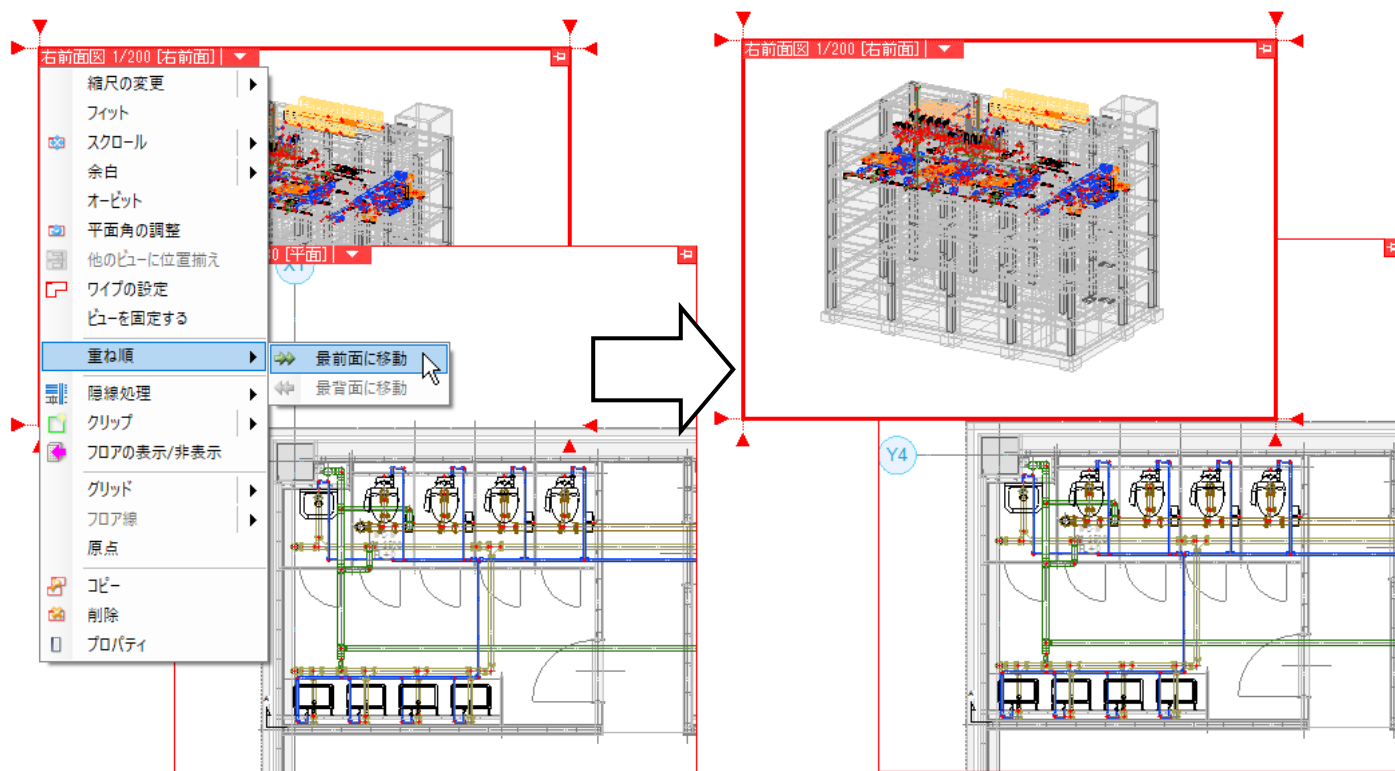
● 補足説明

[ビューを追加選択]横の[▼]-[すべてのビューを選択]をクリックすると、同一レイアウト上のす
べてのビューを選択します。

[ビューを選択解除]をクリックすると、ビューの選択を解除することができます。[ビューを選択
解除]横の[▼]-[すべてのビューを解除]をクリックするとすべてのビューの選択を解除します。

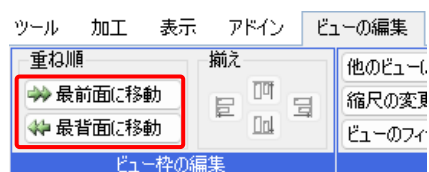
ビューの重ね順の変更

ビュー名横の[▼]-[重ね順]-[最前面に移動]または[最背面に移動]をクリックすると、ビュー同士の重ね順を変更します。

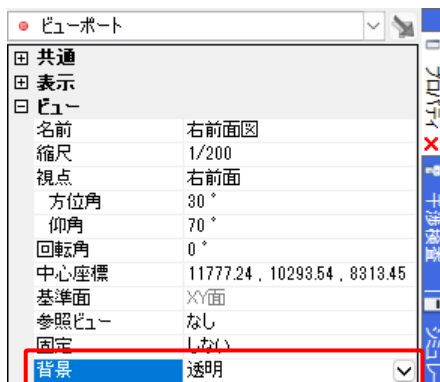


● 補足説明

ビュー名をクリックし、[ビューの編集]の[最前面に移動][最背面に移動]からも同様の操作が行えます。

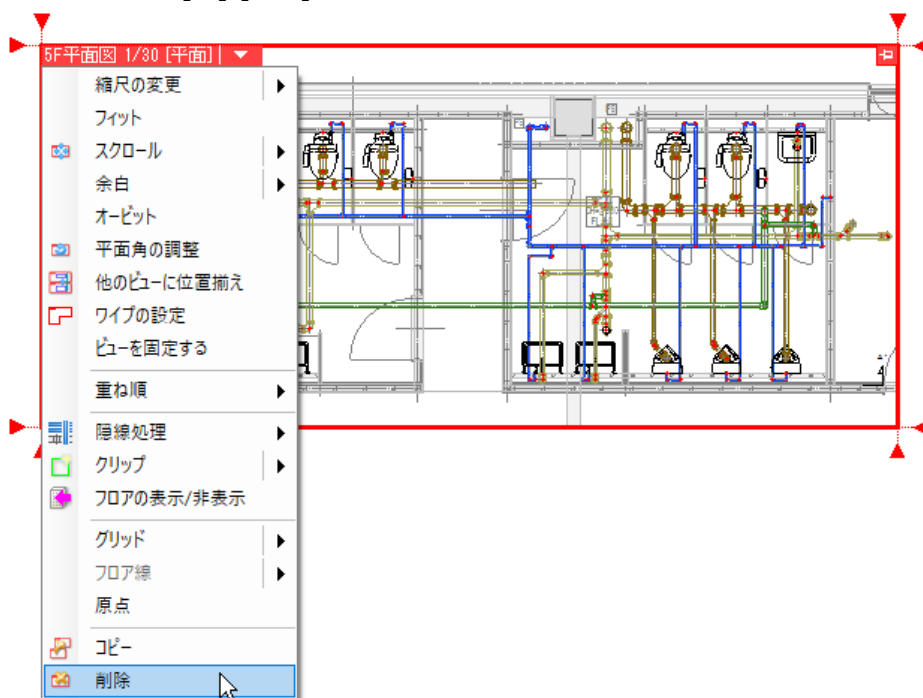


ビューのプロパティ[ビュー]-[背景]を「透明」にすると、重なっている背面のビューの要素も表示されます。背面のビューの要素は選択できません。



削除

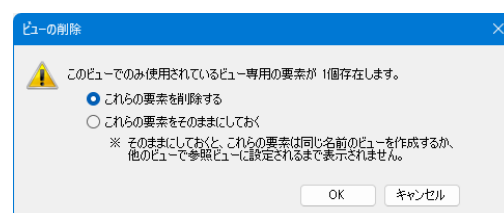
ビュー名横の[▼]-[削除]をクリックすると、ビューを削除します。



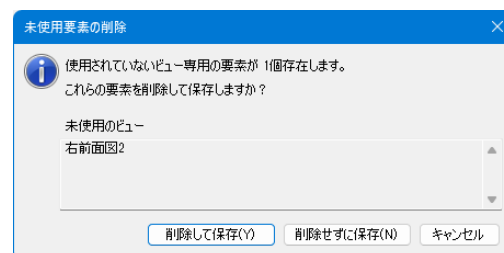
削除するビューでのみ表示されているビュー専用の要素がある場合、[ビューの削除]ダイアログが表示されます。
(ビュー専用要素については p.42 参照)

「これらの要素を削除する」：ビュー専用要素を削除します。

「これらの要素をそのままにしておく」：ビュー専用要素を残します。

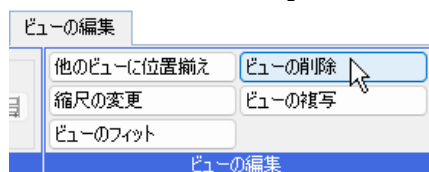


※「これらの要素をそのままにしておく」を選択した場合、
図面を保存する時に[未使用要素の削除]ダイアログが表示され、
削除せずに残したビュー専用要素を再度削除するか選択することができます。



● 補足説明

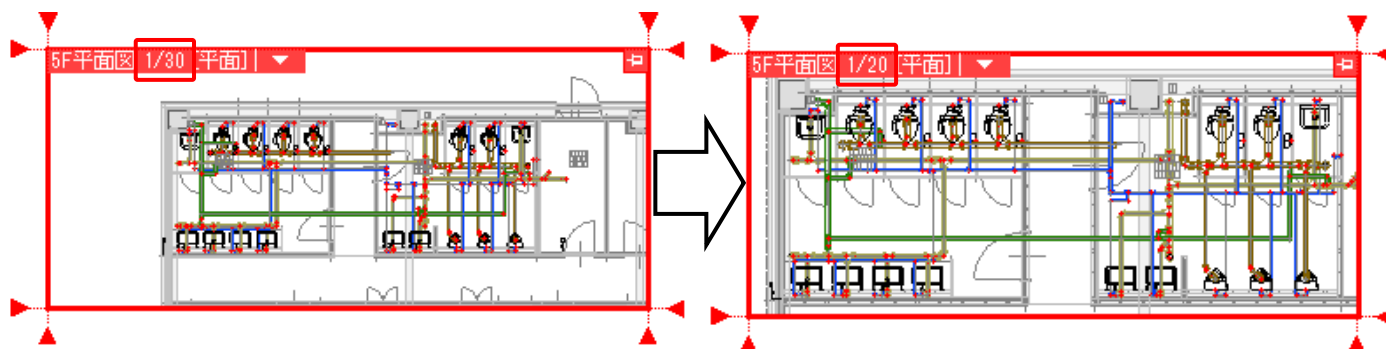
ビュー名をクリックし、[ビューの編集]の[ビューの削除]からも同様の操作が行えます。



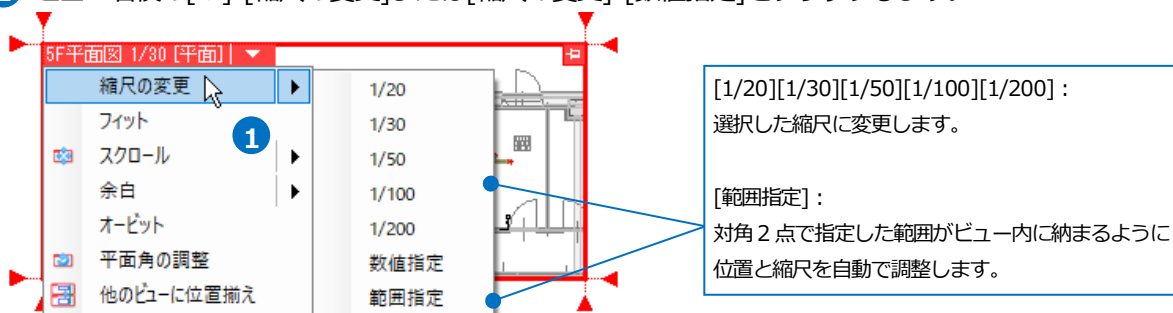
縮尺変更

縮尺の変更

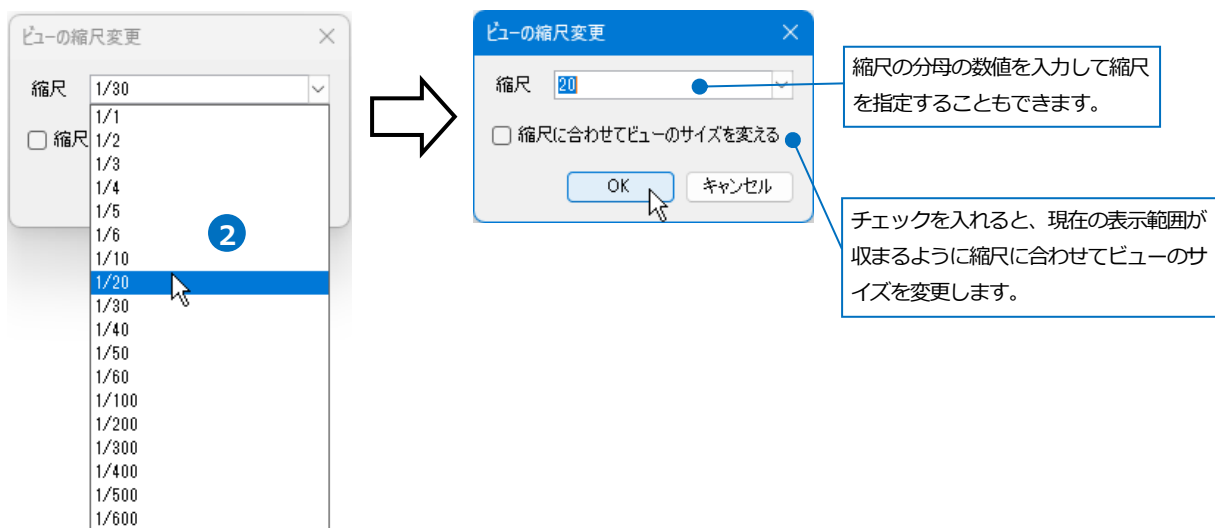
ビューの縮尺を変更します。



- 1 ビュー名横の[▼]-[縮尺の変更]または[縮尺の変更]-[数値指定]をクリックします。

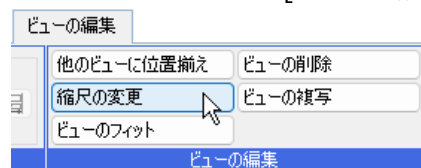


- 2 [ビューの縮尺変更]ダイアログで、変更後の縮尺を指定し、[OK]をクリックします。



● 補足説明

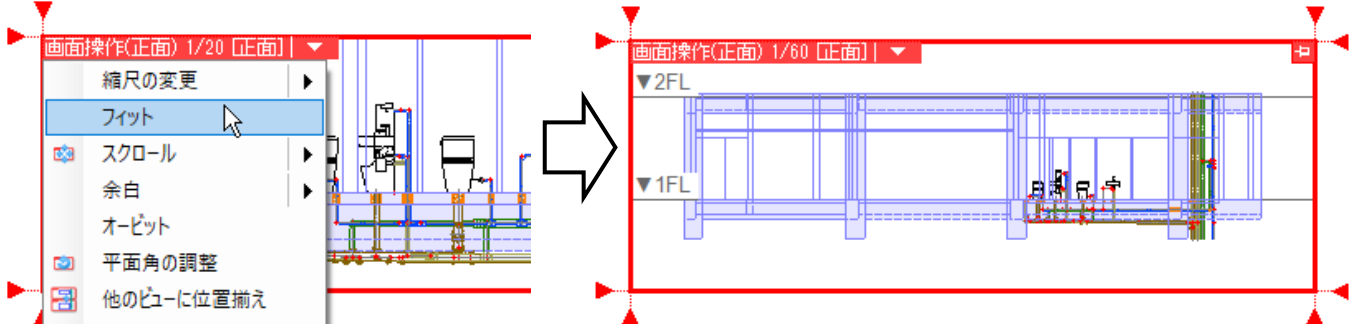
ビュー名をクリックし、[ビューの編集]の[縮尺の変更]からも同様の操作が行えます。



フィット

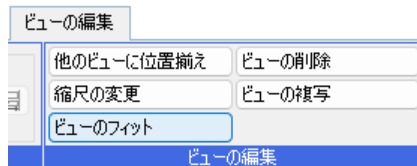
ビュー名横の[▼]-[フィット]をクリックすると、ビュー内に作図されている要素がビュー枠に収まるように縮尺や表示位置を自動調整します。

尺度の分母は、1/1～1/6(1桁単位)、1/10～1/60(10桁単位)、1/100～1/1000(100桁単位で丸められます)。

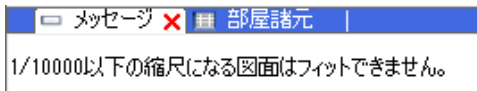


● 補足説明

ビュー名をクリックし、[ビューの編集]の[ビューのフィット]からも同様の操作が行えます。



1/10000 以下の縮尺になる場合は、フィットを行わず、メッセージが表示されます。

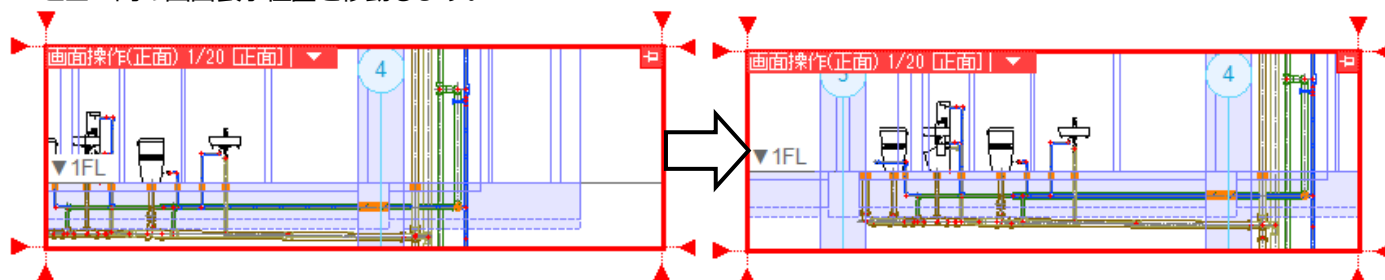


[縮尺の変更]で 1/10000 以下の縮尺に変更し、不要なデータが図面内にあるか確認してください。必要なデータが分かっている場合は、[図形]タブ-[範囲削除]で必要な範囲外の要素を一括で削除することができます。



ビュー内の図面表示位置の変更

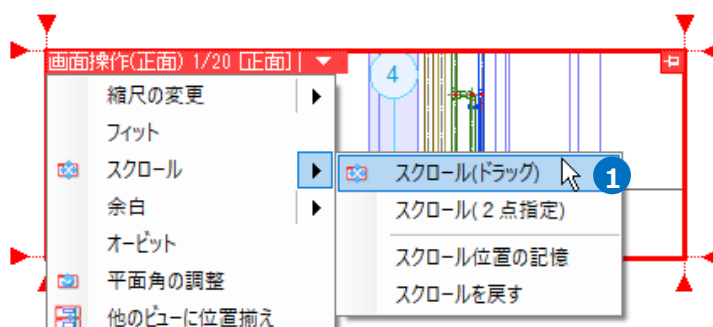
ビュー内の図面表示位置を移動します。



スクロール(ドラッグ)

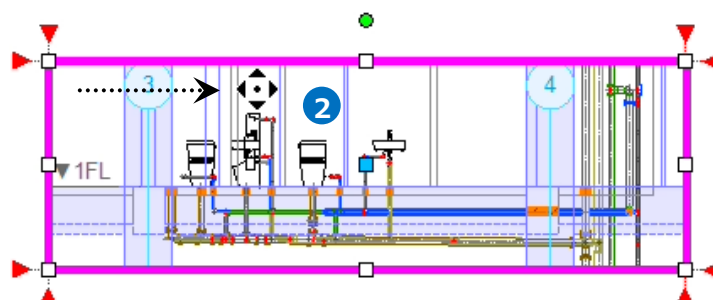
左ドラッグで移動します。

- 1 ビュー名横の[▼]-[スクロール]-[スクロール(ドラッグ)]をクリックします。



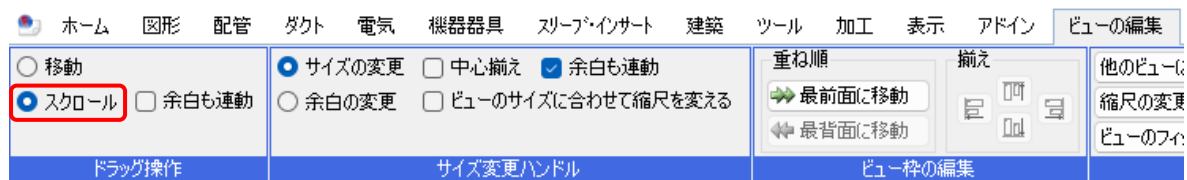
- 2 左ドラッグでビュー内の表示位置を変更し、Enter キーで確定します。

Memo
Ctrl キーを長押ししながらマウスホイールのドラッグでもビューのスクロールが可能です。



● 補足説明

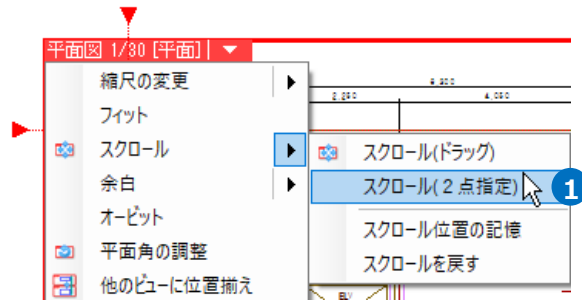
ビュー名をクリックし、[ビューの編集]の「スクロール」を選択しても同様の操作が行えます。



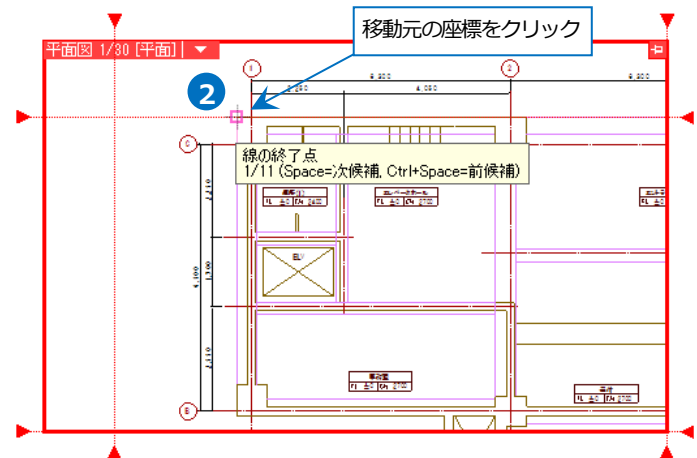
スクロール(2点指定)

移動元と移動先の座標を指定して移動します。縦横一方を固定して移動することができます。

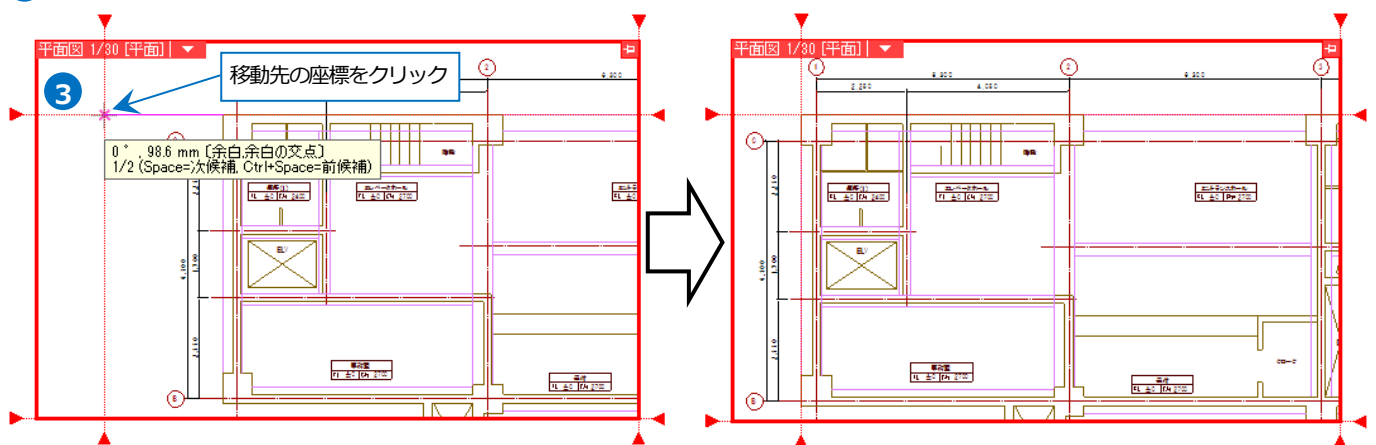
- 1 ビュー名横の[▼]-[スクロール]-[スクロール(2点指定)]をクリックします。



- 2 移動元の座標をクリックします。



- 3 移動先の座標をクリックします。

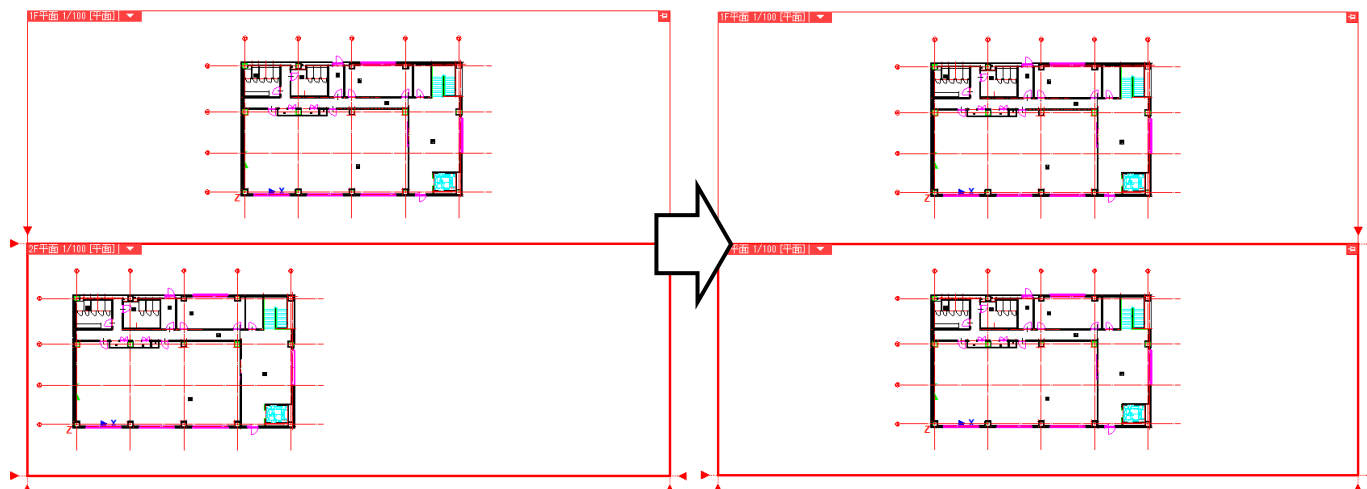


● 補足説明

指定する2点は、ビューの範囲外や他レイアウト上でも指定することができます。

表示位置の揃え

ビュー内の図面の表示位置を、他のビューの表示位置に合わせて移動します。

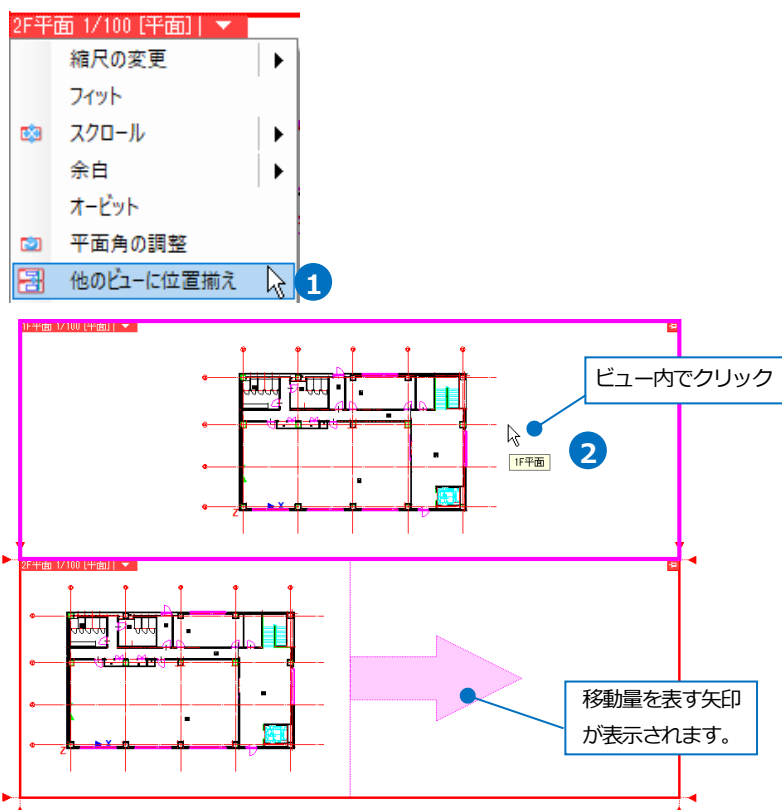


- 1 ビュー名横の[▼]-[他のビューに位置揃え]をクリックします。

- 2 揃えたいビューにカーソルを合わせてクリックし、Enter キーで確定します。

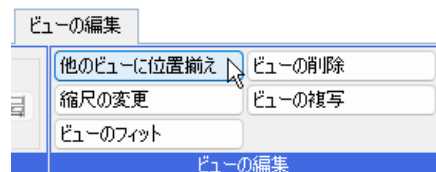
Memo

[他のビューに位置揃え]は、同じ縮尺のビューに対してのみ行えます。



● 補足説明

ビュー名をクリックし、[ビューの編集]の[他のビューに位置揃え]からも同様の操作が行えます。



- 補足説明

ビューの中心座標を合わせることで、複数ビューの図面表示位置を揃えることができます。

(例)[表示]タブ-[レイアウト・ビュー一覧]ダイアログで中心座標を編集

表示位置を変更するビューを選択し、
[編集]をクリックします。

ビューの編集

名前: 2F平面
縮尺: 1/100
中心座標: 13500, 8482.38, 0
枠の印刷: X 13500
ビュー名の印刷: Y 8482.38
Z 0

揃えたいビューと同じ値を入力し、
[OK]をクリックします。

レイアウト・ビュー一覧

名前	色	表示/非表示	用紙サイズ	縮尺	ビュー専用要素数	中心座標	枠の印刷	ビュー名の印刷
レイアウトグループ1							しない	しない
平面図	色なし	表示	A1(841mm×594mm)	1/100, 1/100			しない	しない
1F平面				1/100	0	13500, 8482.38, 0	しない	しない
2F平面				1/100	0	35593.48, 8482.38, 0	しない	しない

Excelに出力する

OK キャンセル

ビューのプロパティからも中心座標を変更することができます。

ビューポート

共通

表示

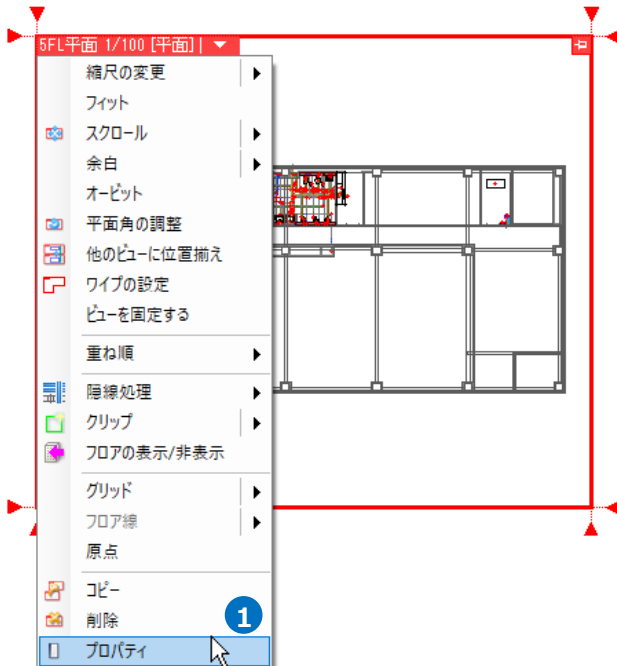
ビュー

名前: 2F平面
縮尺: 1/100
視点: 平面
方位角: 0°
仰角: 0°
回転角: 0°
中心座標: 35593.48, 8482.38, 0
基準面: X 13500
参照ビュー: Y 8482.38
固定: Z 0
背景:

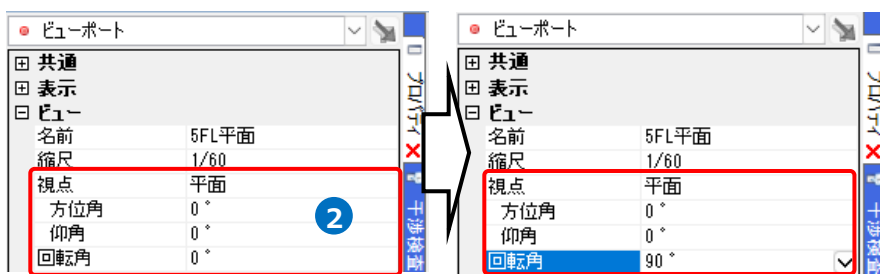
視点方向の変更と回転

ビューのプロパティで視点と角度の変更

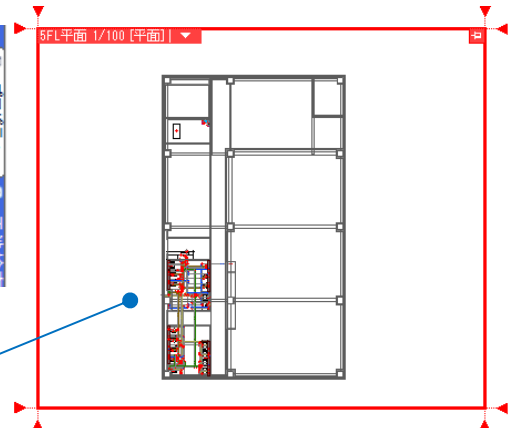
- 1 ビュー名横の[▼]-[プロパティ]をクリックし、ビューのプロパティを開きます。



- 2 ビューのプロパティ[ビュー]-[視点]、または[方位角][仰角][回転角]を変更します。

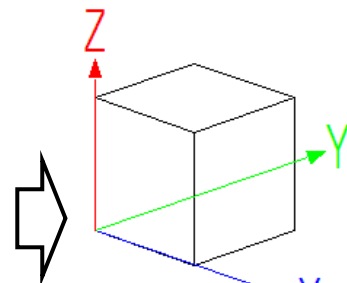


視点や角度を変更後、ビューのスクロールやビューのフィットなどを使用し、表示位置を調整します。



・視点と角度について

視点	平面、正面、右面、左面、背面、裏面、右前面、左前面、右後面、左後面から選択します。
方位角	Z 軸を軸として回転する角度 (+ 数値は時計回り、- は反時計回り)
仰角	X/Y 軸の位置を起点として、Z 軸を傾ける角度 (真上が 0°、正面、背面、右側面、左側面では 90°)
回転角	画面上の見た目を水平として回転する角度 (+ 数値は反時計回り、- は時計回り)

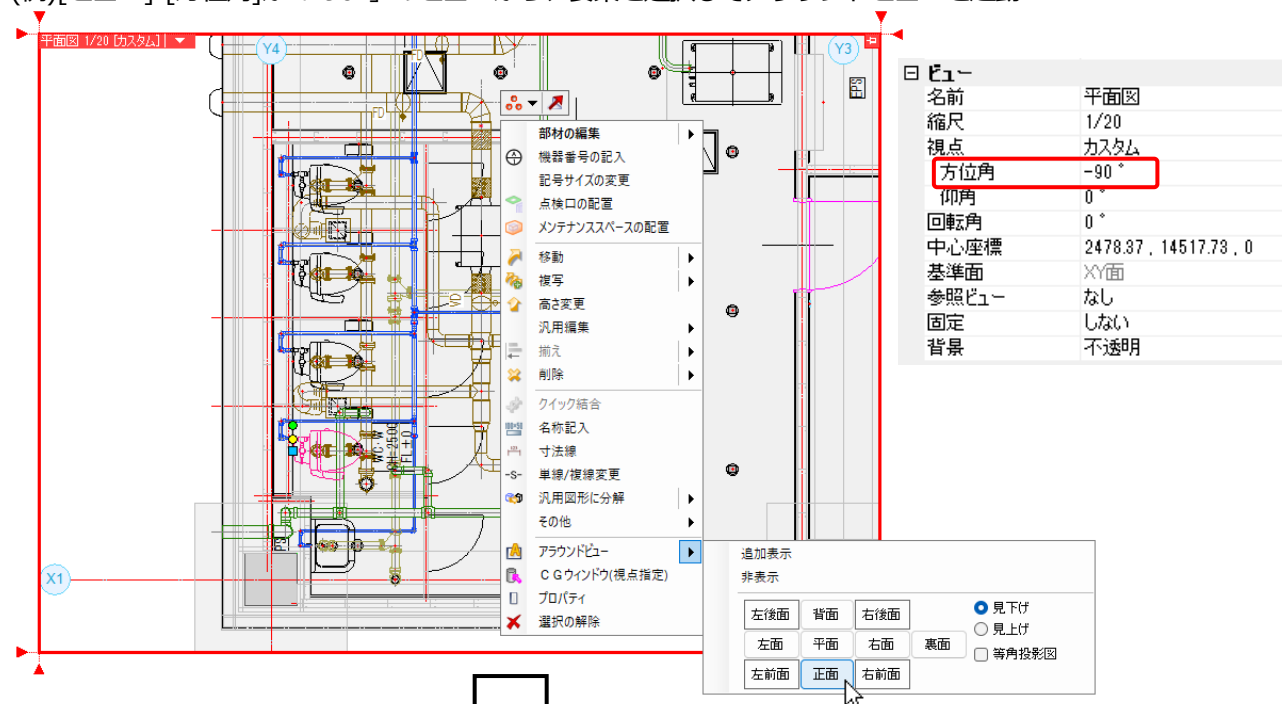


● 補足説明

ビューのプロパティ[ビュー]-[方位角]または[回転角]を設定しているビューで要素を選択してアラウンドビューを起動すると、要素を選択したビューと同じ角度でアラウンドビューを起動できます。

アラウンドビューの視点が[平面][正面][背面][右面][左面]の時が対象です。

(例)[ビュー]-[方位角]が「-90°」のビューから、要素を選択してアラウンドビューを起動

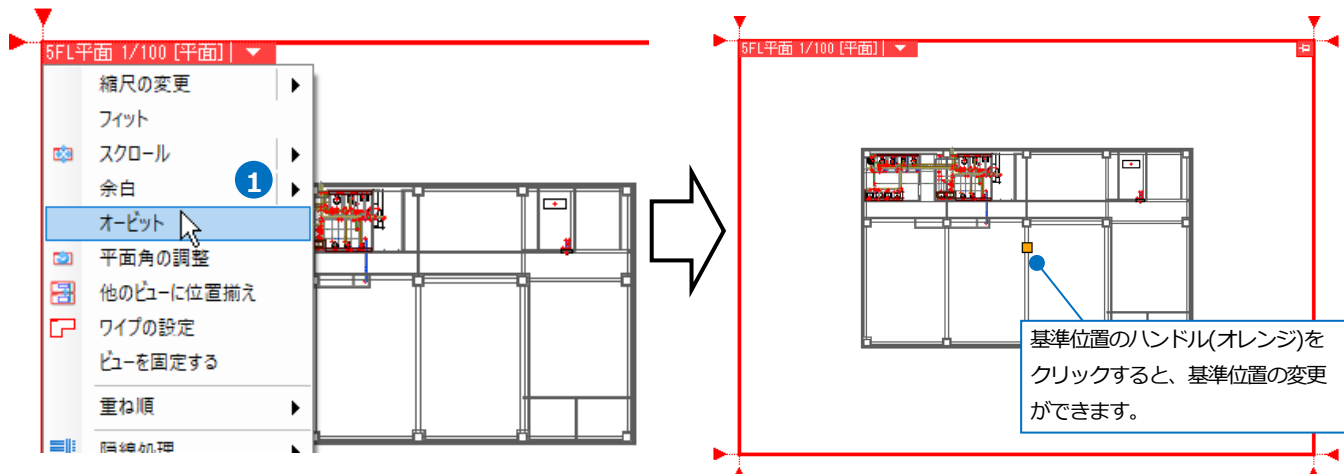


[基準の方位角]にビューのプロパティと同じ値が入り、同じ角度で表示されます。
チェックを外して視点を切り替えると、方位角が0°の状態が表示されます。

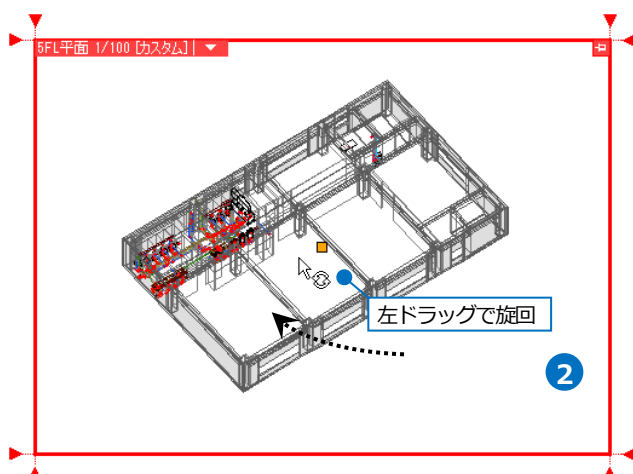
オービット

左ドラッグで視点を変更します。

- 1 ビュー名横の[▼]-[オービット]をクリックします。



- 2 左ドラッグで表示方向を変更し、Enter キーで確定します。

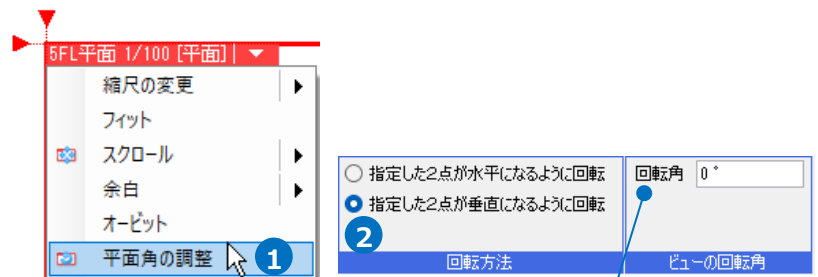


平面角の調整

ビュー内の図面の表示を回転します。

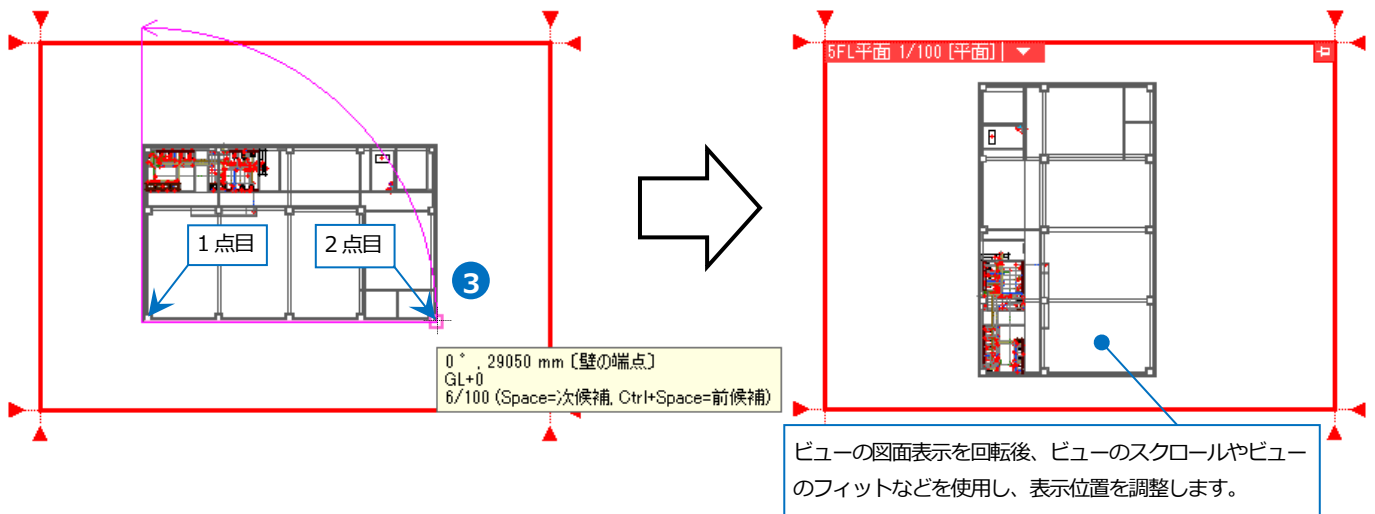
- 1 ビュー名横の[▼]-[平面角の調整]をクリックします。

- 2 指定した2点を「水平」にするか「垂直」にするか、回転方法を選択します。



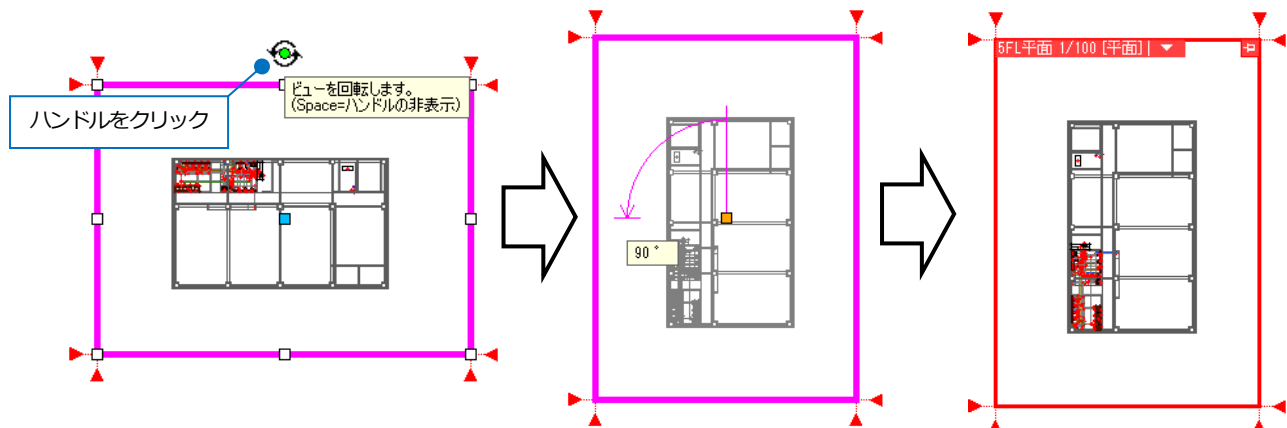
[回転角]に数値を入力し、Enter キーで確定することでも角度を変更することができます。[回転角]で回転する場合、ビューの中心座標を基準に回転します。

- 3 回転の基準位置を1点目、水平または垂直にする位置を2点目に座標指定します。



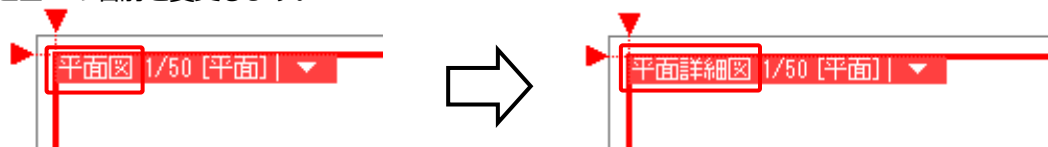
● 補足説明

ビュー名をクリックし、回転のハンドル(緑)でビューの枠ごと回転することも可能です。



ビュー名の変更

ビューの名前を変更します。



- 1 ビュー名横の[▼]-[プロパティ]をクリックし、ビューのプロパティを開きます。

- 2 ビューのプロパティ[ビュー]-[名前]を手入力または選択肢から既存のビュー名を選択して変更します。

Memo

「(レイアウト名と同じ)」を選択すると、ビュー名がレイアウト名と同じになります。レイアウト名を変更すると、連動してビュー名も変更されるようになります。

日 ビュー	
名前	平面図
縮尺	(レイアウト名と同じ)
視点	正面図
方位角	平面図
仰角	平面全体図
回転角	右面図
中心座標	右前面図

平面図 1/50 [平面] ▼

- 縮尺の変更 ▶
- フィット
- スクロール ▶
- 余白 ▶
- オービット
- 平面角の調整
- 他のビューに位置揃え
- ワイプの設定
- ビューを固定する
- 重ね順 ▶
- 隠線処理 ▶
- クリップ ▶
- フロアの表示/非表示 ▶
- グリッド ▶
- フロア線 ▶
- 原点
- コピー
- 削除
- プロパティ** 1

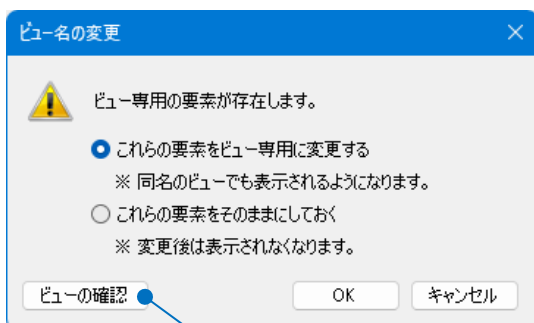
→

ビューポート

日 共通	
名称	平面図 1/50
注釈	
日 表示	
日 ビュー	
名前	平面全体図 2
縮尺	1/50
視点	平面
方位角	0°
仰角	0°
回転角	0°
中心座標	-30777.8, 7737.22, 0
基準面	XY面
参照ビュー	なし
固定	しない
背景	不透明

● 補足説明

ビュー専用要素が存在するビューの名前を変更すると、変更前の名前のビュー専用要素が非表示になるため、[ビュー名の変更]ダイアログが開きます。(ビュー専用については p.42 参照)



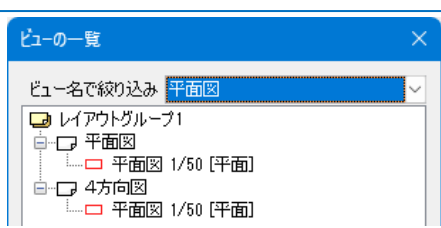
「これらの要素をビュー専用に変更する」:

変更後のビュー名のビュー専用要素に変更します。

「これらの要素をそのままにしておく」:

変更前のビュー名のビュー専用要素のままとします。

[ビューの確認]をクリックすると、変更前と同名のビューを一覧で確認できます。



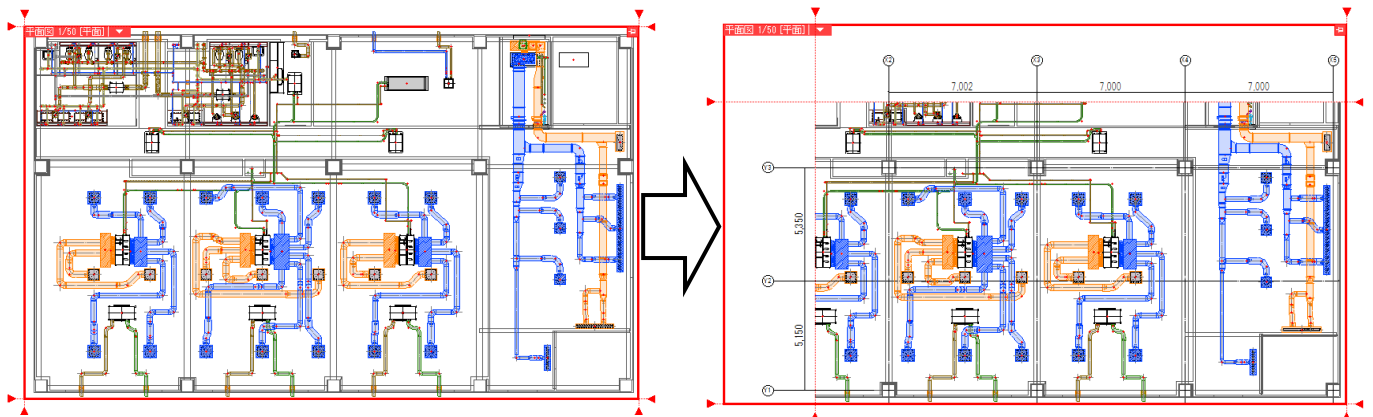
余白

ビューには、通り芯や寸法線などのビュー専用要素のみを表示するスペース(余白)を設定することができます。

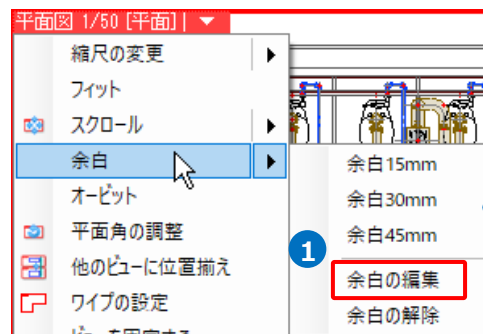
※参照ビューで表示しているビュー専用要素は、余白には表示されません。(参照ビューとビュー専用要素については p.42～43 参照)

余白の設定

ビューに余白の設定をします。



- 1 ビュー名横の[▼]-[余白]または[余白]-[余白の編集]をクリックします。

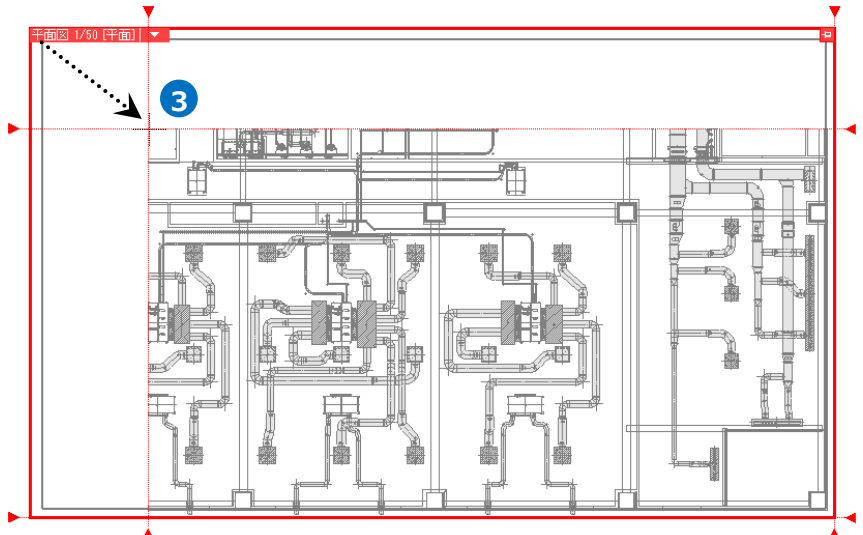


[余白 15mm][余白 30mm][余白 45mm]をクリックすると、ビュー枠からの離れ距離を「15mm」「30mm」「45mm」で指定して余白を設定します。
離れ距離は用紙上のサイズです。

- 2 サイズ変更のハンドル(白)をクリックします。

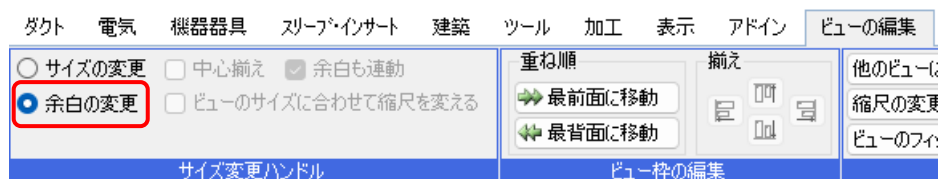


- 3 変更位置でクリックし、Enter キーで確定します。

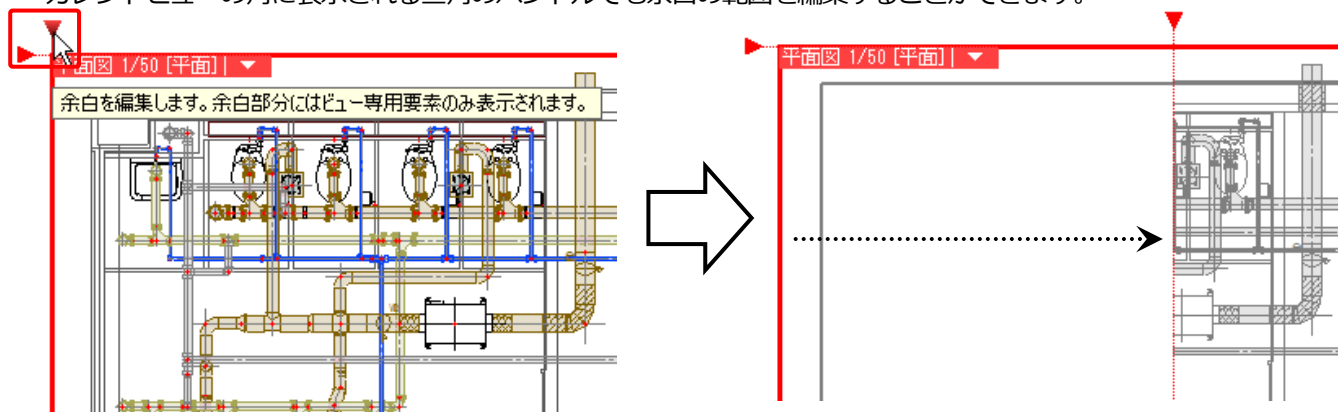


● 補足説明

ビュー名をクリックし、[ビューの編集]から「余白の変更」を選択しても同様の操作が行えます。

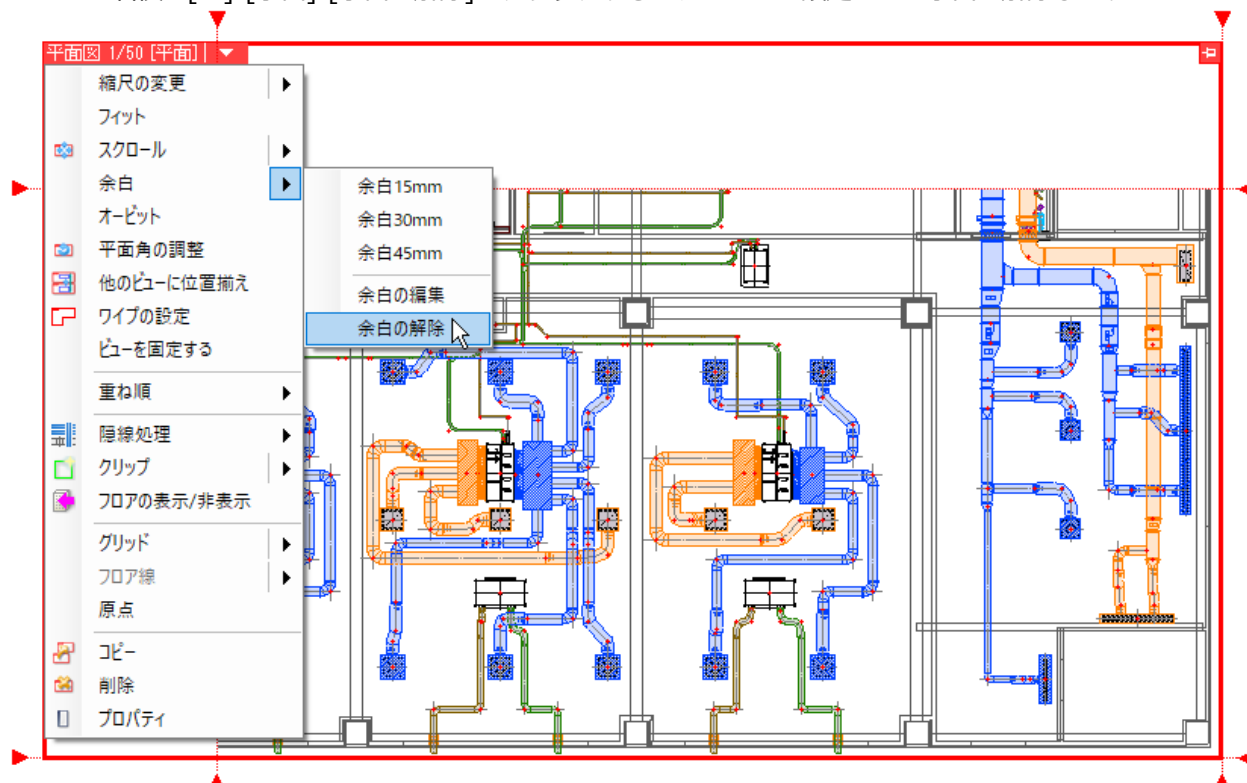


カレントビューの角に表示される三角のハンドルでも余白の範囲を編集することができます。



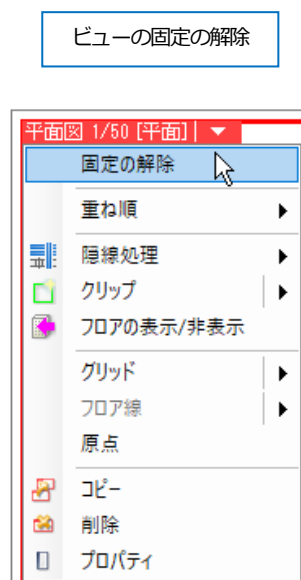
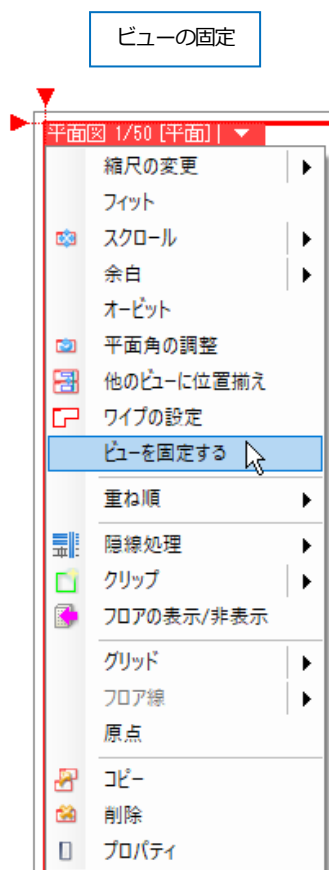
余白の解除

ビュー名横の[▼]-[余白]-[余白の解除]をクリックすると、ビューに設定された余白を解除します。



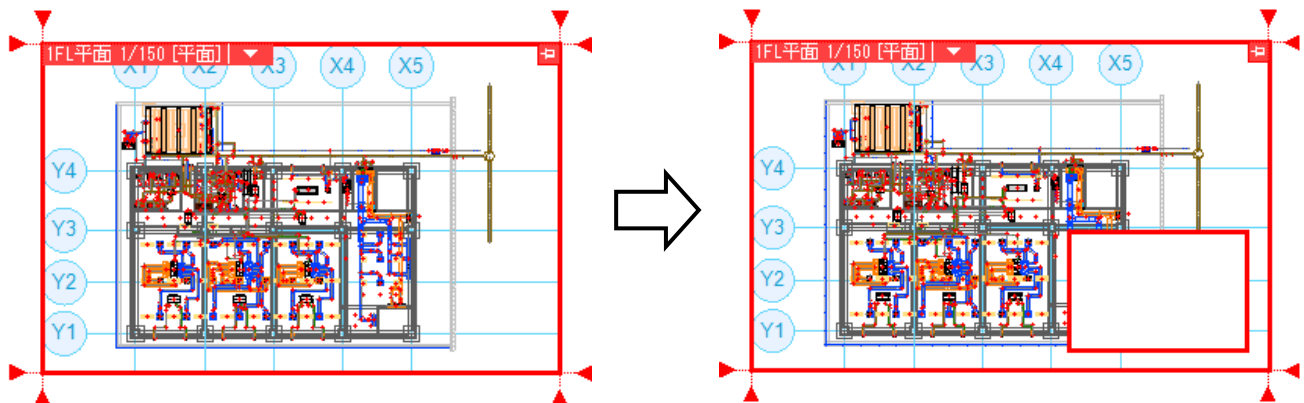
固定

ビューの表示状態を固定することができます。固定中は、縮尺の変更やスクロールなどのビューの表示に関する一部のコマンドが使用できなくなります。ビューの固定と解除はビューのメニューまたはビュー右上のピンのアイコンから行います。



ワイプ

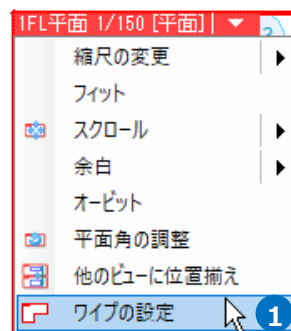
ビュー内の領域をくり抜くことができます。くり抜いた範囲(ワイプの範囲)では、モデル空間が非表示となり、ペーパー空間が表示されます。ワイプの枠は画面表示専用で、印刷はされません。



ワイプの設定

ビューにワイプを設定します。

- 1 ビュー名横の[▼]-[ワイプの設定]をクリックします。

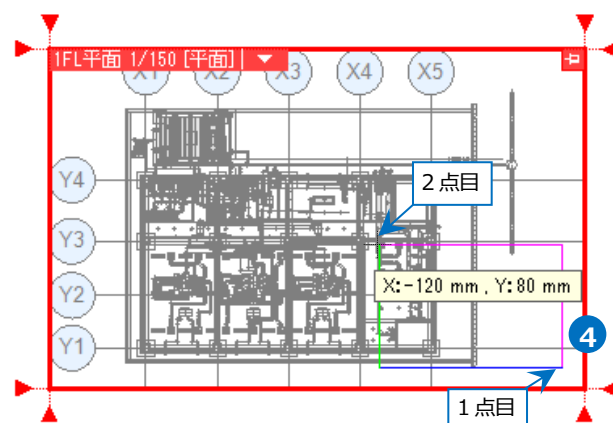


- 2 [ワイプの作図]を選択します。

- 3 ワイプのサイズの設定方法を選択します。ここでは「対角の2点を指定」を選択します。



- 4 ビュー内で、くり抜く範囲を対角2点で指定します。
→指定した範囲にワイプが設定されます。



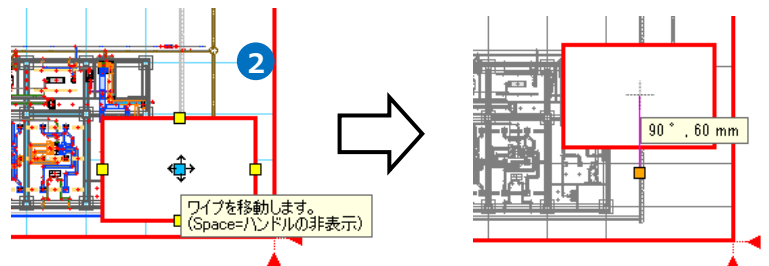
ワイプの編集

配置したワイプを移動したり、サイズを変更します。

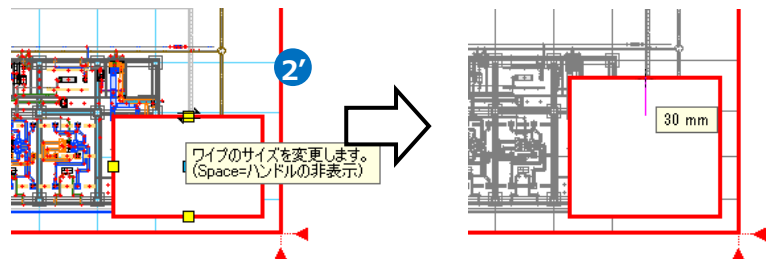
- 1 ビュー名横の[▼]-[ワイプの設定]をクリックし、[ワイプの編集]を選択します。



- 2 編集するワイプのハンドルをクリックします。
移動のハンドル(青)をクリックすると、ワイプの位置を移動します。



- 2' サイズ変更のハンドル(黄)をクリックすると、指定した辺が移動し、ワイプのサイズを変更します。



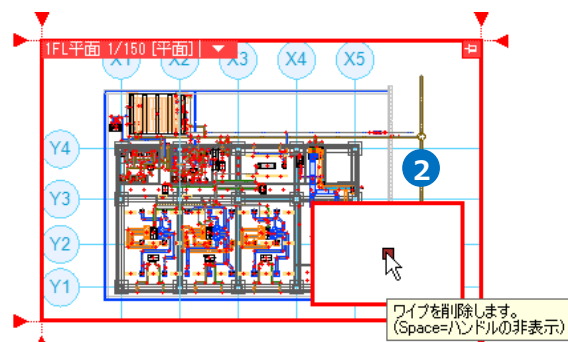
ワイプの削除

配置したワイプを削除します。

- 1 ビュー名横の[▼]-[ワイプの設定]をクリックし、[ワイプの削除]を選択します。



- 2 削除するワイプの中央にあるハンドル(茶)をクリックします。



ビューのプロパティ

ビュー名横の[▼]-[プロパティ]をクリックするとビューのプロパティが開き、プロパティからビューの編集をすることができます。

ビューポート

共通	
名称	5FL平面 1/100
注釈	
表示	
グリッド	非表示
ピッチスケール	実寸サイズ
ピッチ	1000 mm
原点	0, 0, 0
フロア	非表示
原点	非表示
ビュー	
名前	5FL平面
縮尺	1/100
視点	平面
方位角	0°
仰角	0°
回転角	0°
中心座標	525, 22838, 0
基準面	XY面
参照ビュー	なし
固定	しない
背景	不透明
印刷	
枠の印刷	しない
ビュー名の印刷	しない
配置	
基準位置	左下
X	-2278.87 mm
Y	536.48 mm
幅	502.57 mm
高さ	361.87 mm
余白	
上	0 mm
下	0 mm
左	0 mm
右	0 mm

説明:

- グリッド線、フロア線、原点の表示の切り替え
- 名前、縮尺、視点方向、図面表示位置の変更
- 参照ビューの設定
- 固定、背景の切り替え
- ビュー枠とビュー名の印刷
- 位置やサイズの変更
- 余白の変更

● 補足説明

[表示]タブ-[レイアウト・ビュー一覧]からもプロパティが開けます。複数のビューを選択して一括でプロパティ情報の確認や変更をすることができます。

レイアウト・ビュー一覧

名前	色	表示/非表示	用紙サイズ	縮尺	ビュー専用要素
レイアウトグループ1					
1FL	色なし	表示	A1(841mm×594mm)	1/50	
1F平面図				1/50	0
2FL	色なし	表示			
2F平面図					

ビューポート (2)

共通	
名称	
注釈	
表示	
グリッド	非表示
ピッチスケール	実寸サイズ
ピッチ	1000 mm
原点	0, 0, 0
フロア	表示
原点	非表示
ビュー	
名前	
縮尺	1/50
視点	平面
方位角	0°
仰角	0°
回転角	0°

説明:

- [編集]をクリックすると[ビューの編集]ダイアログが開き、[名前][縮尺][中心座標][枠の印刷][ビュー名の印刷]を変更できます。
- ビューの個数が表示されます。
- 値が一致しない項目は、値が空白で表示されます。

4.ビューに表示する要素の制御

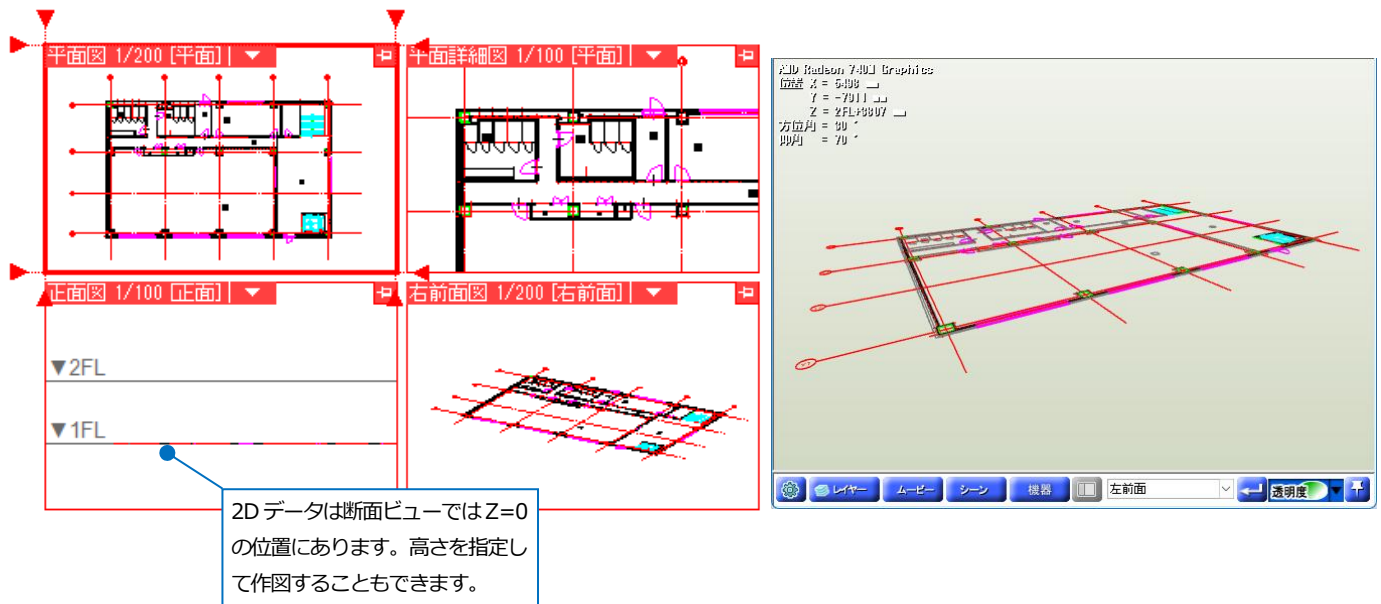
「ビュー共通」「平面ビュー共通」「ビュー専用」で表示を制御

2D 図形(インサート含む)、3D 汎用図形、鋼材の要素は、ビュー共通/平面ビュー共通/ビュー専用の3つの表示属性があります。建築、機器、配管・ダクト・電気などの設備要素は常に「ビュー共通」で固定です。

各属性の違い

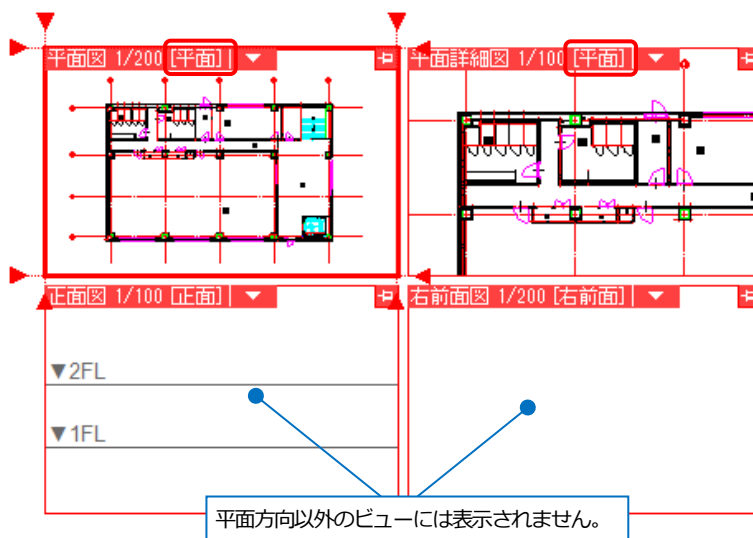
ビュー共通

すべてのビュー、CG に表示します。



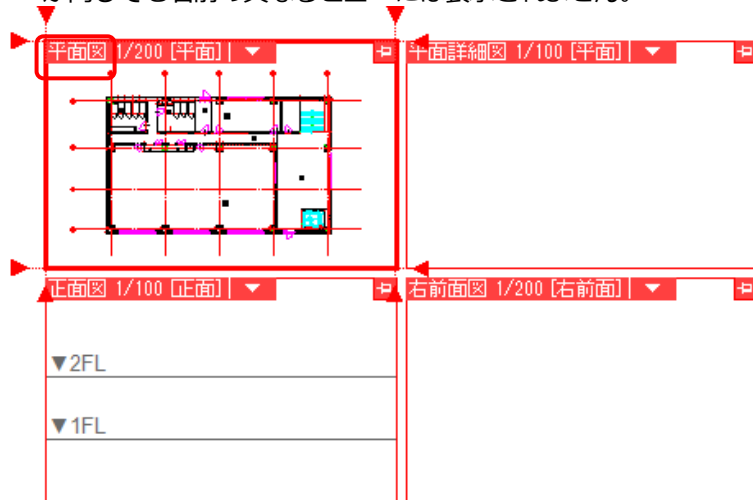
平面ビュー共通

視点方向が「平面」のビューすべてに表示します。



ビュー専用

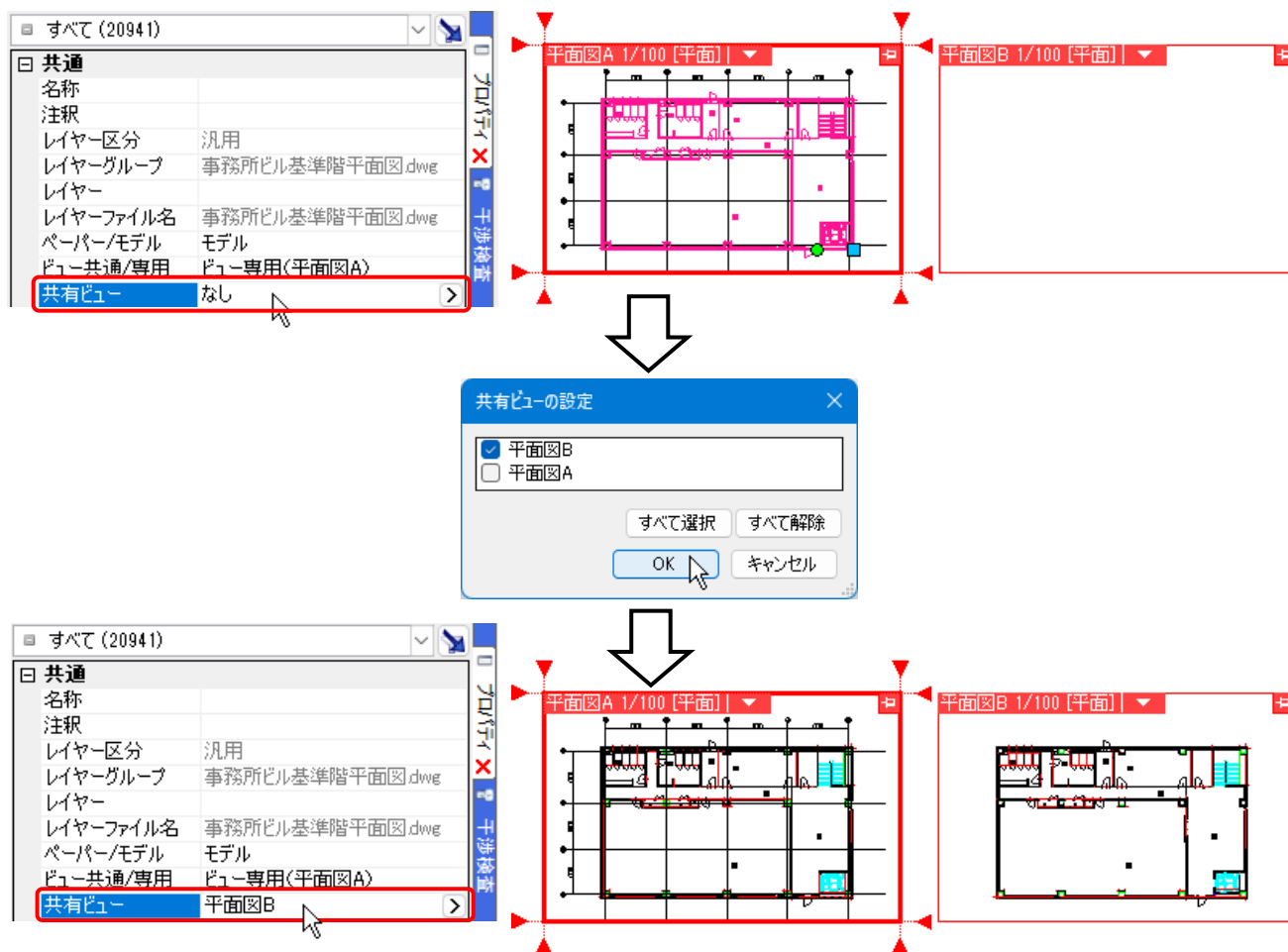
指定した名前のビューにのみ表示します。同名のビューが複数ある場合、複数のビューに表示されます。視点方向が同じでも名前の異なるビューには表示されません。



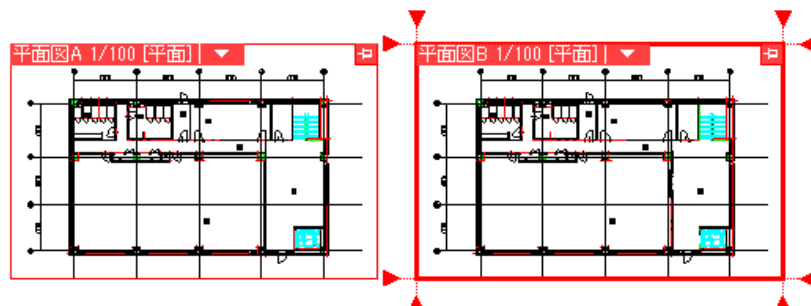
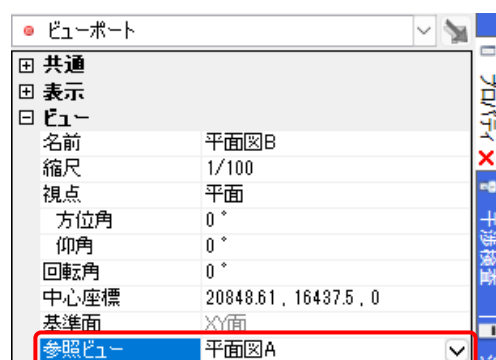
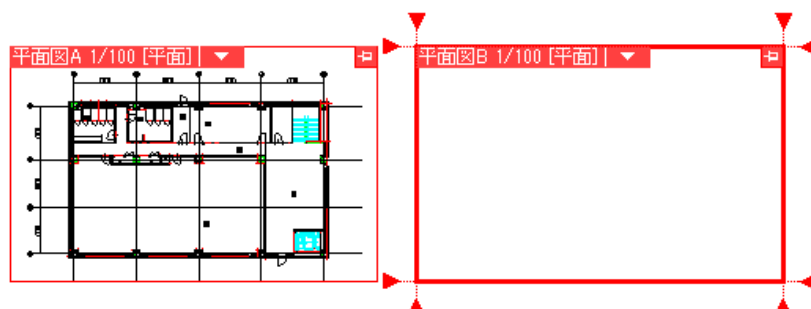
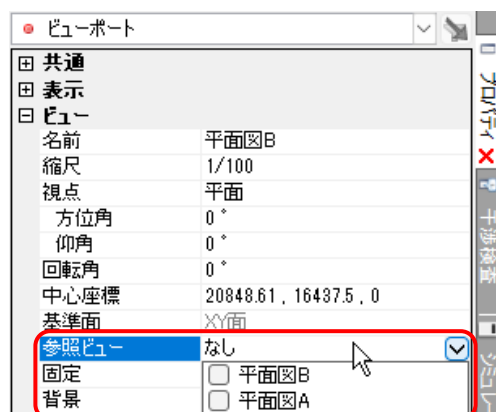
● 補足説明

「共有ビュー」や「参照ビュー」を設定すると、異なる名前のビューにも、ビュー専用要素を表示できます。

共有ビュー：ビュー専用要素のプロパティ[共通]-[共有ビュー]で、共有したいビュー名を指定します。要素ごとに複数のビューの専用要素とすることができます。共有ビューで表示したビュー専用要素は余白にも表示されます。



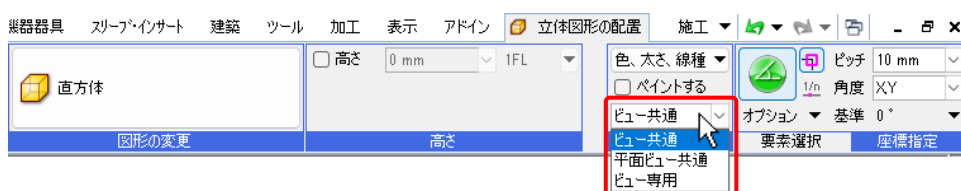
参照ビュー：ビューのプロパティ[ビュー]-[参照ビュー]で、表示させたいビュー名を指定します。指定したビュー名のビュー専用要素が、すべて表示されます。参照ビューで表示したビュー専用要素は余白には表示されません。



属性の設定方法

作図時に選択

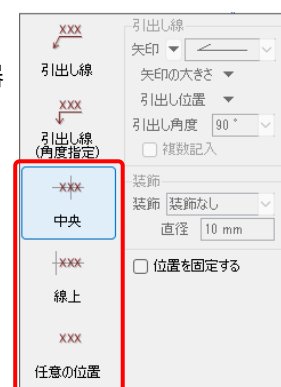
作図時にリボンで属性を選択します。(対象の要素作図時に限ります。)
「ビュー専用」を選択した場合、作図したビューのビュー専用要素となります。



● 補足説明

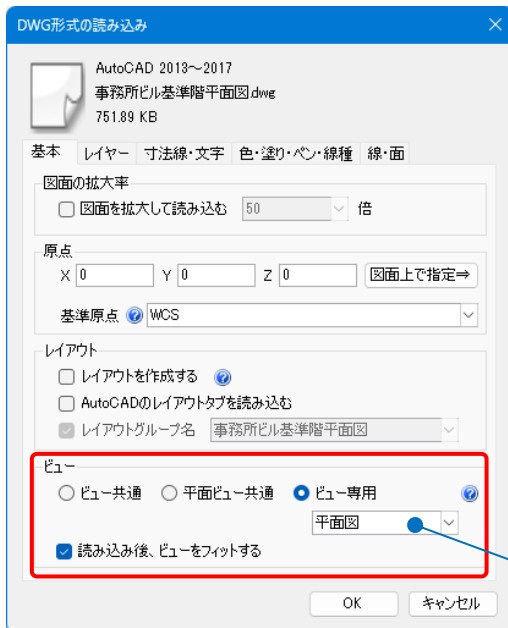
ア라운드ビュー内に作図する場合は、「ビュー共通」で作図されます。

ただし、[建築][配管][ダクト][電気]タブ-[サイズ記入]、[電気]タブ-[長さ記入]、[機器器具][スリーブ・インサート]タブ-[名称記入]、[加工]タブ-[番号記入]で、作図方法を「中央」「線上」「任意の位置」を選択した場合は除きます。



DXF/DWG、JWW ファイルの読み込み時に選択

DXF/DWG、JWW ファイルを読み込む際の設定ダイアログで属性を選択します。「ビュー専用」を選択した場合は、ビュー名の指定も可能です。外部ファイルの読み込みについての詳細はテクニカルガイド「[外部ファイルの読み込み・保存](#)」をご参照ください。



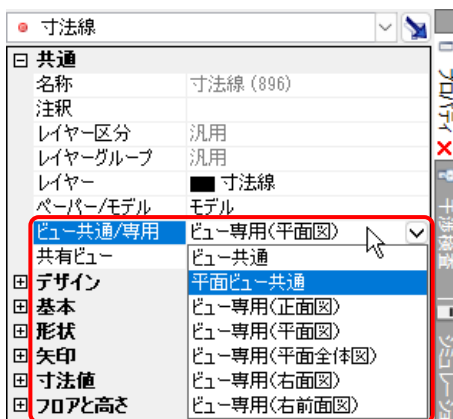
Memo

PDF ファイルも、[読み込み]-[PDF 読み込み(CAD データ)]で読み込む際の設定ダイアログで属性の選択ができます。

「ビュー専用」を選択した場合、ビュー名を指定できます。

プロパティで変更

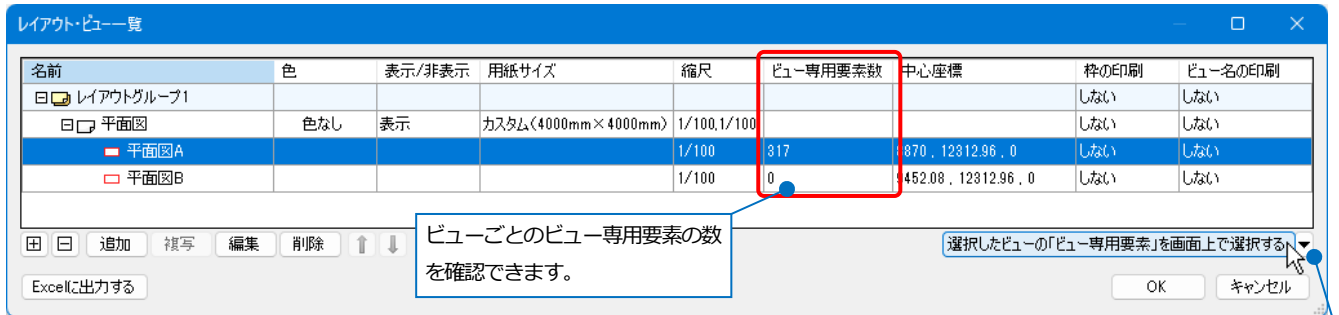
作図済みの要素は、プロパティの[共通]-[ビュー共通/専用]で属性を変更できます。



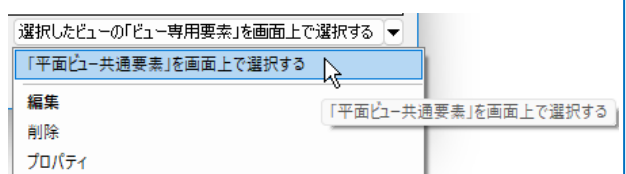
属性を使った要素選択

レイアウト・ビュー一覧

[表示]タブ-[レイアウト・ビュー一覧]でビューを選択し、[選択したビューの「ビュー専用要素」を画面上で選択する]をクリックすると、選択したビューの専用要素を一括で選択することができます。



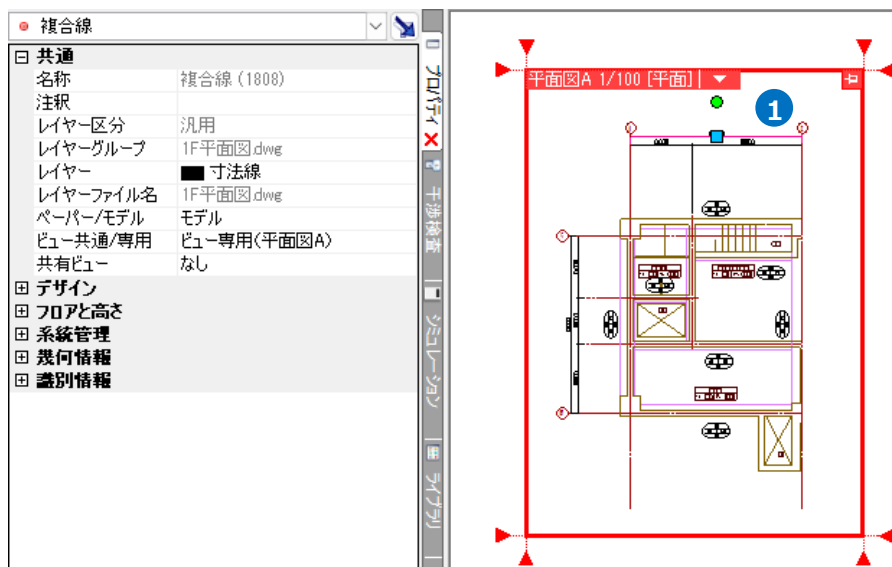
[選択したビューの「ビュー専用要素」を画面上で選択する]横の[▼]-[「平面ビュー共通要素」を画面上で選択する]をクリックすると、図面上のすべての平面ビュー共通要素を一括で選択することができます。



選択要素の拡張

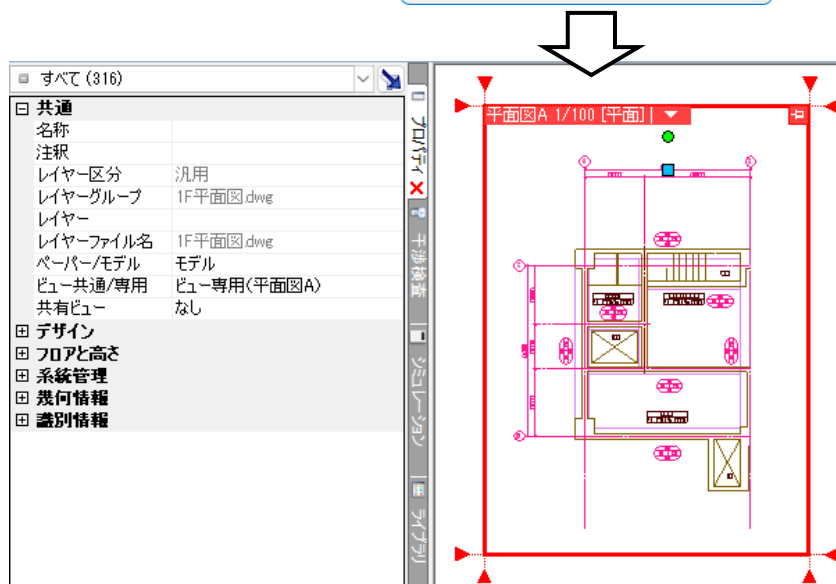
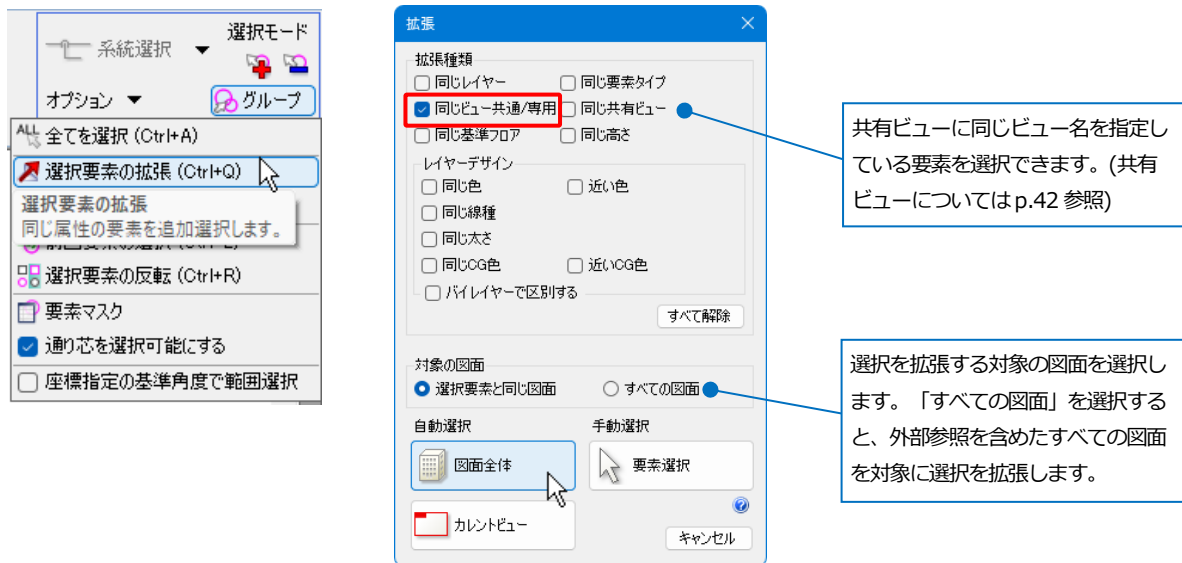
[オプション]-[選択要素の拡張]で、同じビュー共通/平面ビュー共通/ビュー専用の属性を持つ要素を一括で選択することができます。

- 1 ビュー共通/平面ビュー共通/ビュー専用の属性を持つ要素を1つ選択します。



- ② [オプション]-[選択要素の拡張]をクリックし、[拡張]ダイアログの[同じビュー共通/専用]にチェックを入れ、[図面全体]をクリックします。

→図面上の同じ属性の要素が一括で選択されます。



Memo

選択を拡張する範囲

[図面全体]：非表示や非検索の要素も含め図面上すべての要素を対象に、指定した条件で選択を拡張します。

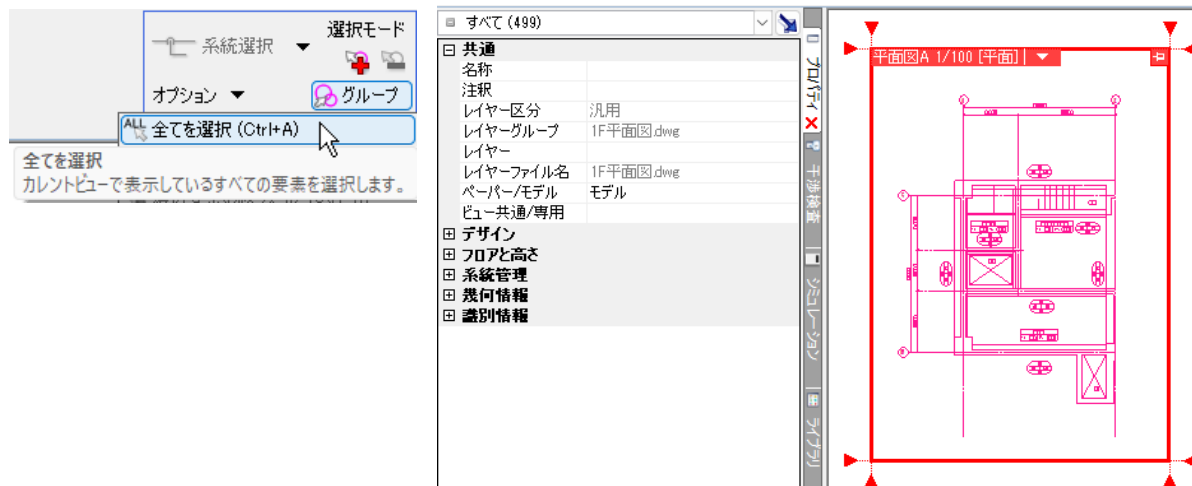
[カレントビュー]：カレントビューで表示されている検索可能な要素を対象に、指定した条件で選択を拡張します。ビューの範囲外でもスクロールして表示される要素は選択されます。

[要素選択]：範囲選択など手動で選択した要素を対象に、指定した条件に一致する要素のみを選択できます。

選択要素の絞り込み

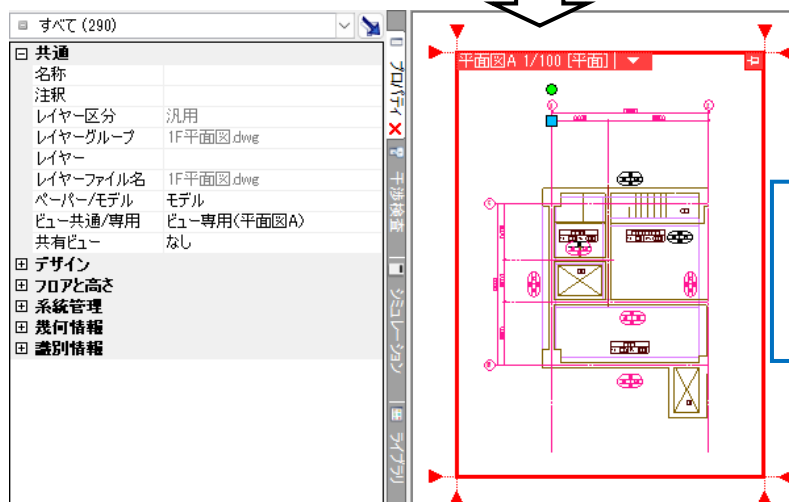
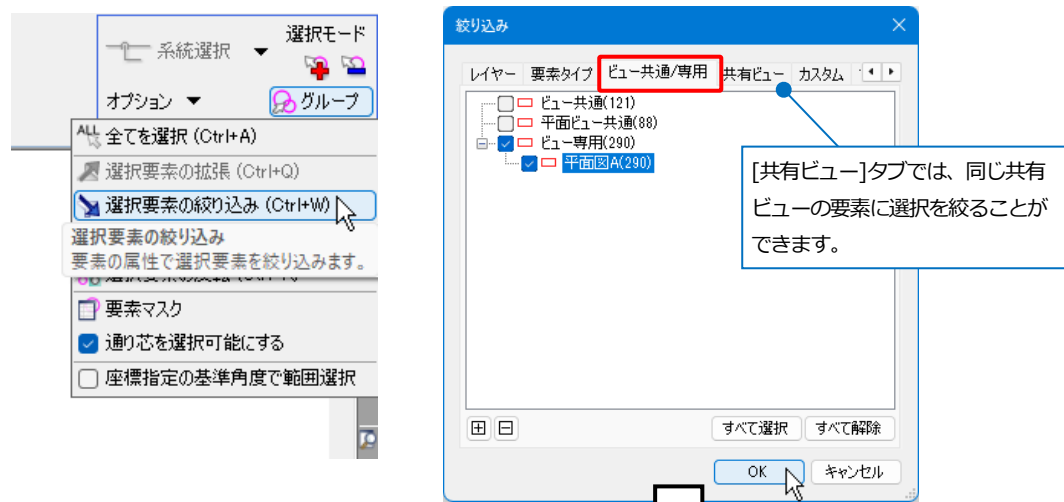
[オプション]-[選択要素の絞り込み]で、選択した要素の中から同じビュー共通/平面ビュー共通/ビュー専用の属性を持つ要素のみに絞ることができます。

- 1 [オプション]-[全てを選択]や左ドラッグの範囲選択などで複数の要素を選択します。



- 2 [オプション]-[選択要素の絞り込み]をクリックし、[絞り込み]ダイアログの[ビュー共通/専用]タブで必要な属性にのみチェックを入れ、[OK]をクリックします。

→指定した属性の要素のみに絞られます。

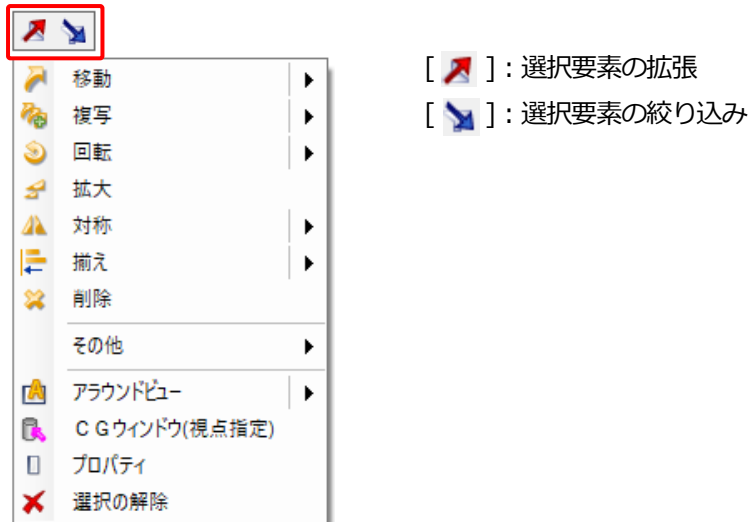


Memo

[ビュー共通]を選択すると、ビュー共通/専用の属性のない要素も対象となります。

- 補足説明

要素選択後のコンテキストメニュー[][]からも同様の操作が行えます。

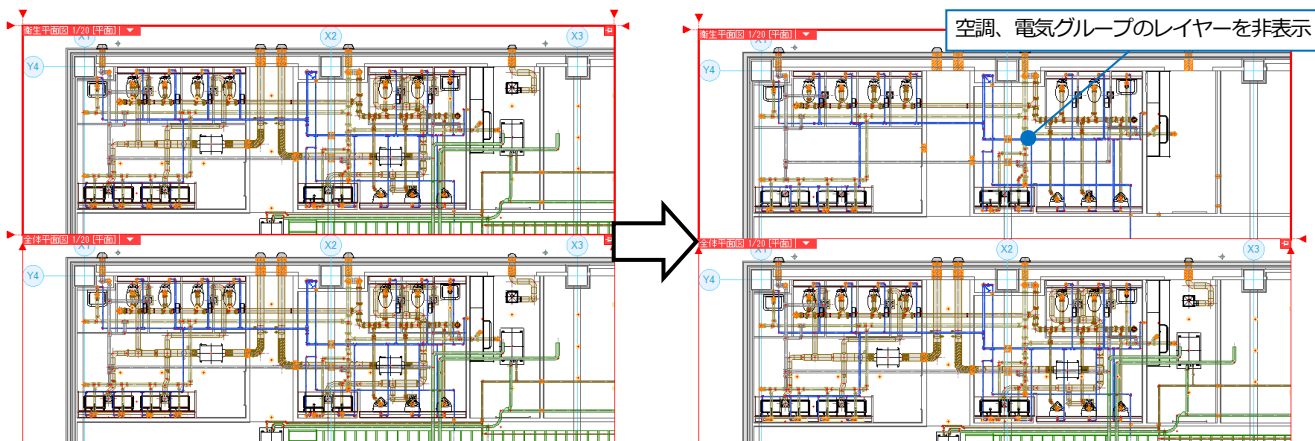


要素のプロパティの[]からも、[選択要素の絞り込み]が行えます。

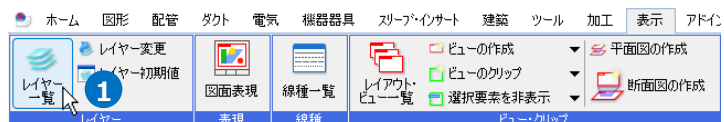


レイヤーで表示を制御

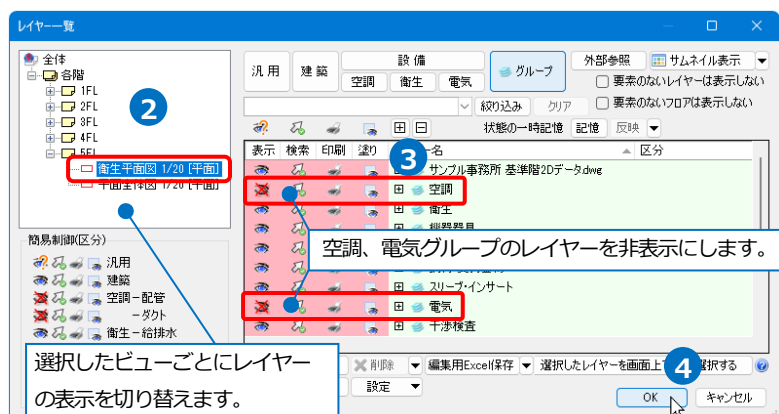
ビューごとにレイヤーの表示状態を設定することができます。



- 1 [表示]タブ-[レイヤー一覧]をクリックします。



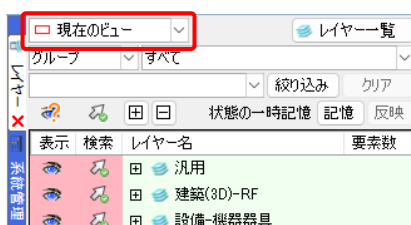
- 2 対象選択エリアから制御するビューを選択します。
→ビューを選択すると、レイヤー状態のアイコンの背景がピンク色になります。



- 3 非表示にするレイヤーの[表示]アイコンをクリックし、非表示にします。

- 4 [OK]をクリックします。
→指定したビューでのみ、レイヤーが非表示になります。

● 補足説明

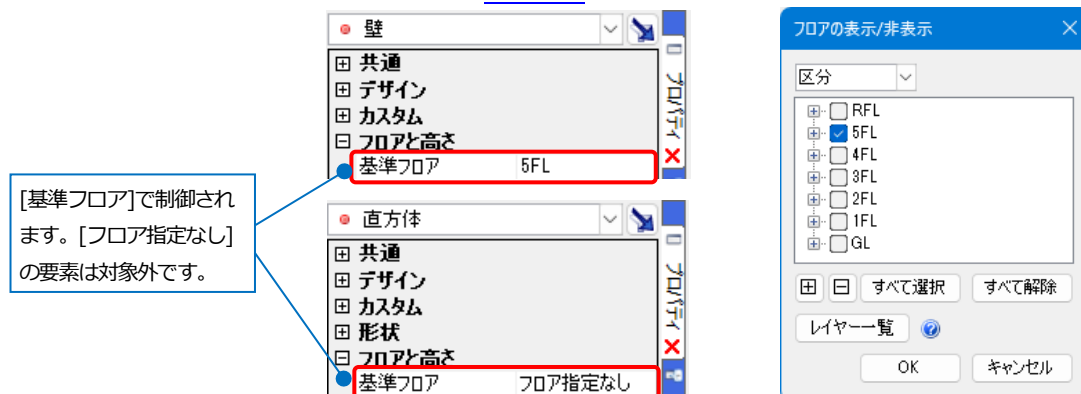


[表示]タブ-[パネル]-[レイヤー]より、レイヤーパネルを開くことができます。レイヤーパネルでは「現在のビュー」を選択すると、カレントビューのレイヤー状態を変更することができます。
レイヤーについての詳細はテクニカルガイド「[レイヤー](#)」をご参照ください。

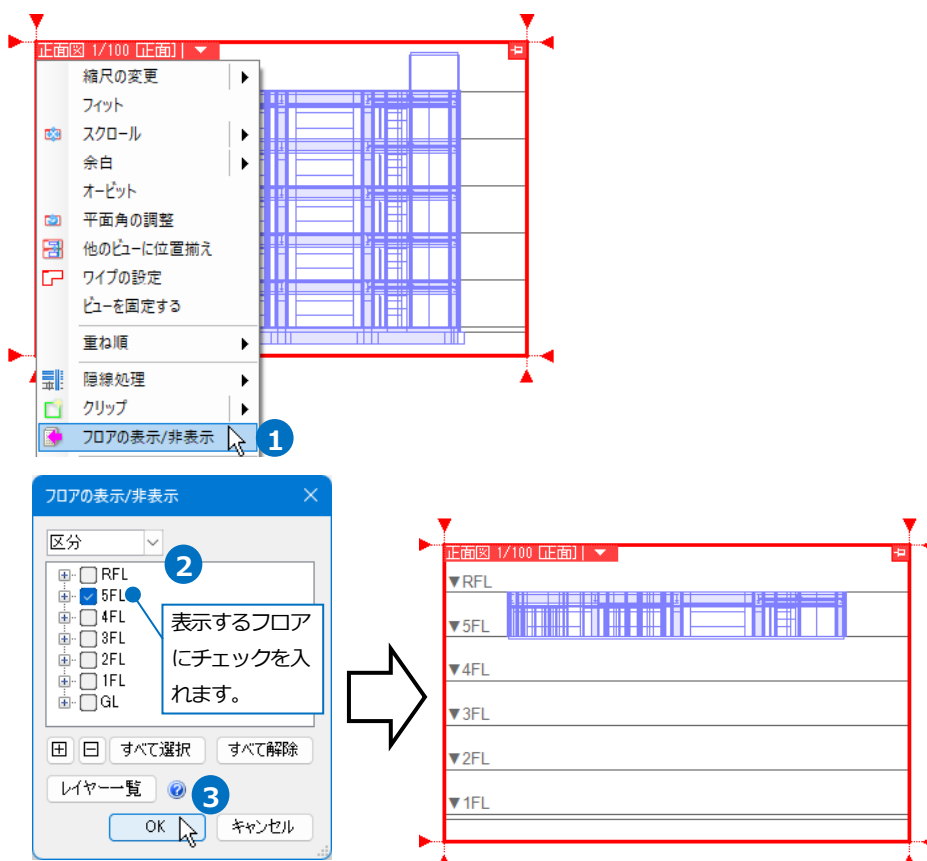
フロアで表示を制御

ビューに表示する要素を、ビューごとに要素の基準フロア単位で制御することができます。基準フロアを「フロア指定なし」にしている要素や、通り芯は制御の対象外です。また、外部参照の要素の場合、基準フロアが設定されていても、そのフロアが参照元図面の[建築]タブ-[フロアの設定]のフロアと一致しない場合、制御の対象外です。

(外部参照については、テクニカルガイド「[外部参照](#)」をご参照ください。)

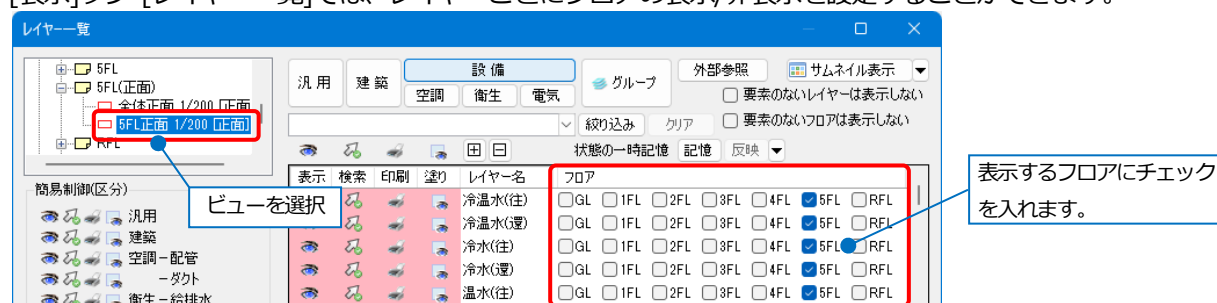


- 1 ビュー名横の[▼]-[フロアの表示/非表示]をクリックします。
- 2 表示する基準フロアにチェックを入れます。
- 3 [OK]をクリックします。
→チェックを入れた基準フロアで作図された要素のみ表示されます。



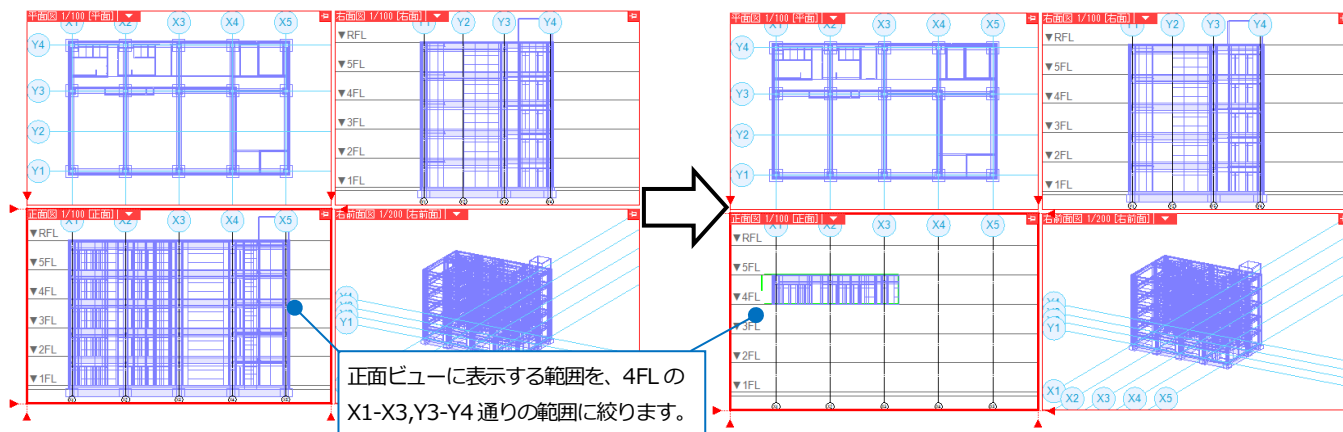
● 補足説明

[表示]タブ-[レイヤー一覧]では、レイヤーごとにフロアの表示/非表示を設定することができます。



クリップで表示を制御

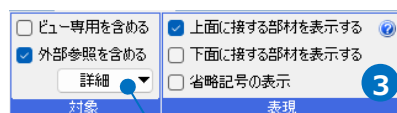
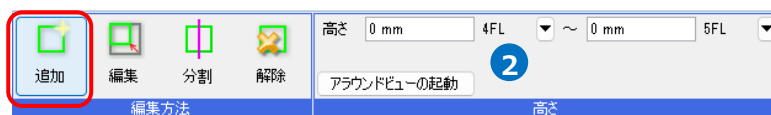
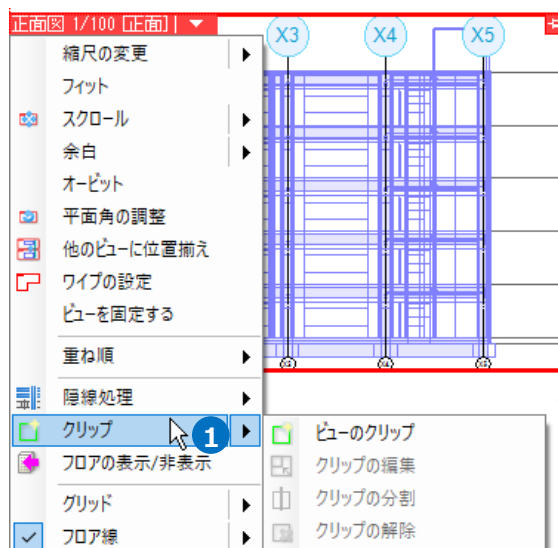
クリップを設定すると、設定したクリップの範囲内の要素のみを表示することができます。



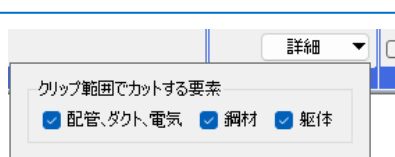
クリップを設定

ビューにクリップを設定します。

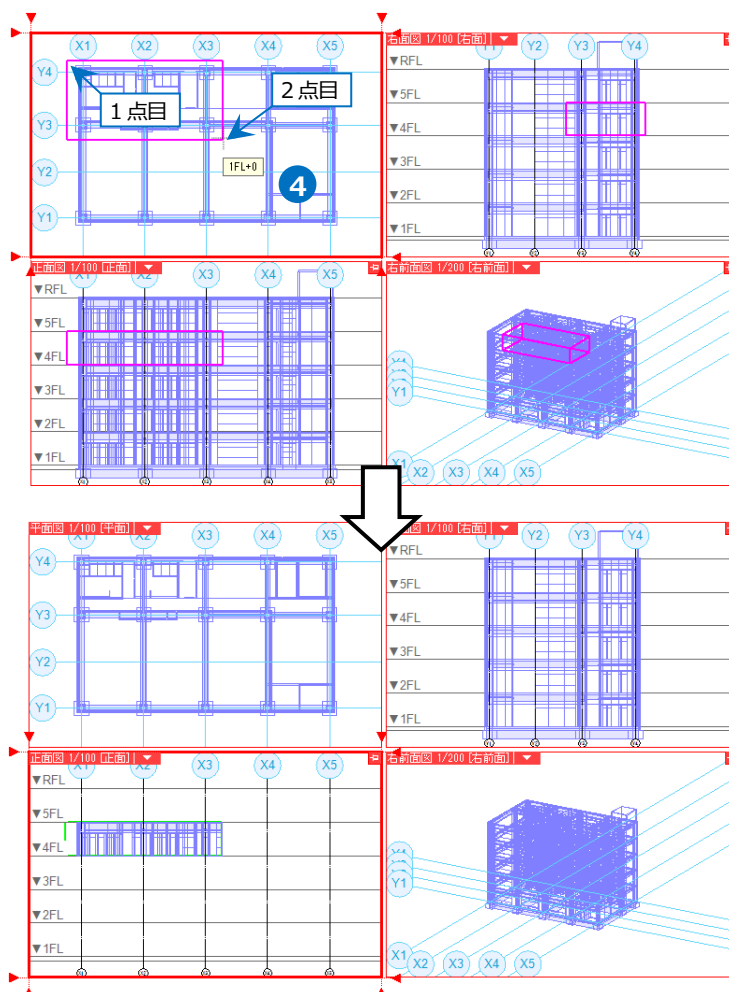
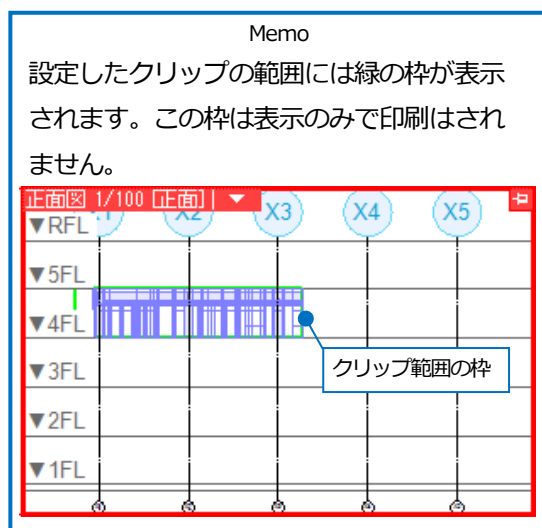
- 1 ビュー名横の[▼]-[クリップ]または[クリップ]-[ビューのクリップ]をクリックします。
- 2 「追加」を選択し、表示する範囲の高さを指定します。
- 3 クリップで表示を制御する対象や、表現の設定をします。(詳細は p.52 参照)



クリップ範囲でカットする要素を指定します。チェックを入れると、クリップ範囲でルートや要素の表示をカットします。



- ④ 平面ビューで対角2点をクリックして、クリップ範囲を指定します。
→ビューにクリップが設定され、クリップ範囲外の要素が非表示になります。



● 補足説明

☐ ビュー専用を含める	☒ 上面に接する部材を表示する
☒ 外部参照を含める	☐ 下面に接する部材を表示する
詳細	
対象	表現

[ビュー専用を含める]：

チェックを入れると、ビュー専用・平面ビュー共通の要素をクリップで表示を制御する対象に含めます。ビュー共通の要素はチェックの有無に関わらず、常に対象に含まれます。

[外部参照を含める]：

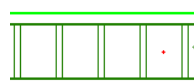
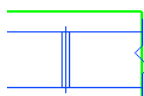
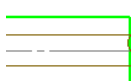
チェックを入れると、外部参照の要素をクリップで表示を制御する対象に含めます。

[上面/下面に接する部材を表示する]：

チェックを入れると、クリップ範囲の上面/下面に接する位置にある要素を表示します。

[省略記号の表示]：

チェックを入れると、クリップ範囲でカットした配管、ダクト、電気ルートに省略記号を表示します。



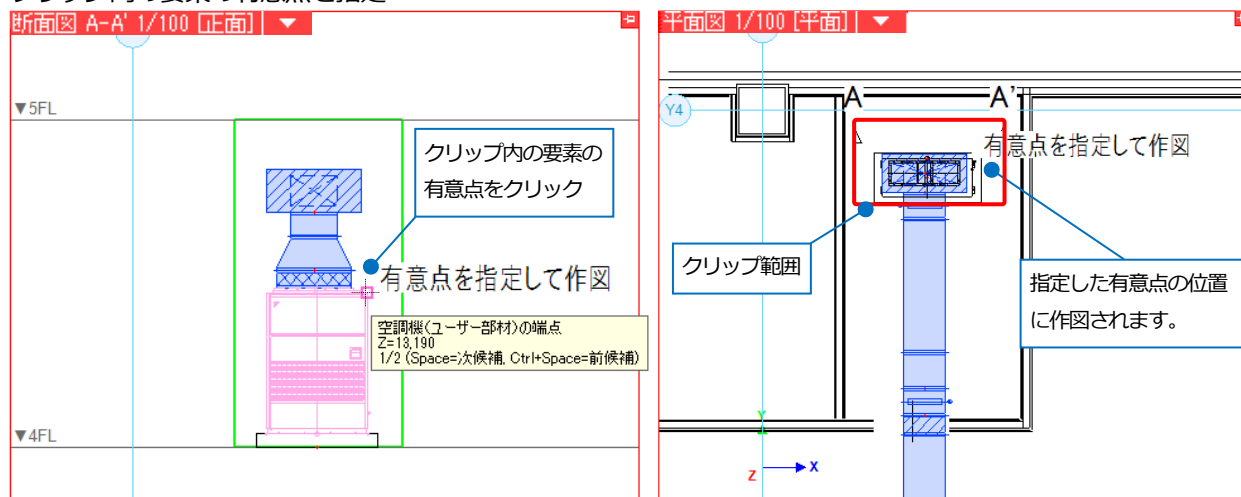
● 補足説明

クリップを設定した断面ビューに追加で要素を作図する場合、クリップで設定した平面の範囲(奥行き範囲)内に作図する必要があります。

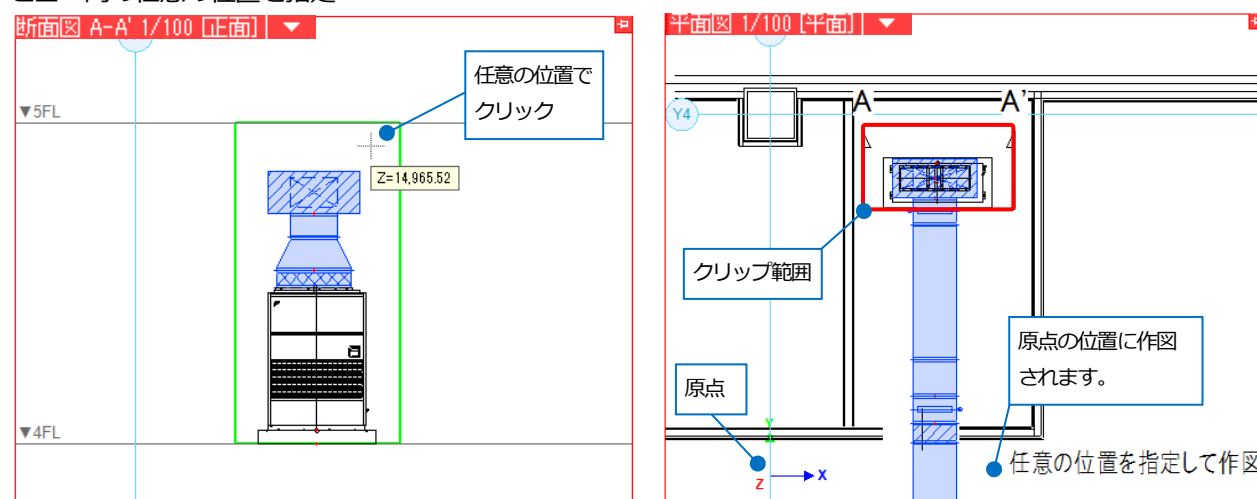
要素の作図時に、断面ビューに表示されている要素(クリップ内の要素)の有意点を指定すると、クリップ範囲内に作図することができます。作図時に任意の位置を指定すると、奥行きは原点の位置に作図されます。原点位置がクリップ範囲に含まれない場合、作図した要素が断面ビューで非表示になります。

(例)クリップを設定した断面ビューにビュー共通で文字を作図

クリップ内の要素の有意点を指定



ビュー内の任意の位置を指定



クリップ範囲に含まれるか否かの判定基準は、要素によって異なります。要素ごとの基準については、[ホーム]タブ-[ヘルプ]-[目次(C)]タブ-[ユーザーズガイド]-[クリップ]のページ下部、「要素ごとのクリップの基準」を参照ください。

クリップの編集

クリップ範囲を編集し、表示範囲を変更します。

- 1 ビュー名横の[▼]-[クリップ]-[クリップの編集]をクリックします。

→指定したクリップ範囲がすべてのビューでラバー表示され、編集ハンドルが表示されます。

Memo
クリップが複数設定されている場合、編集するクリップを選択します。



- 2 ラバー上のハンドルをクリックします。

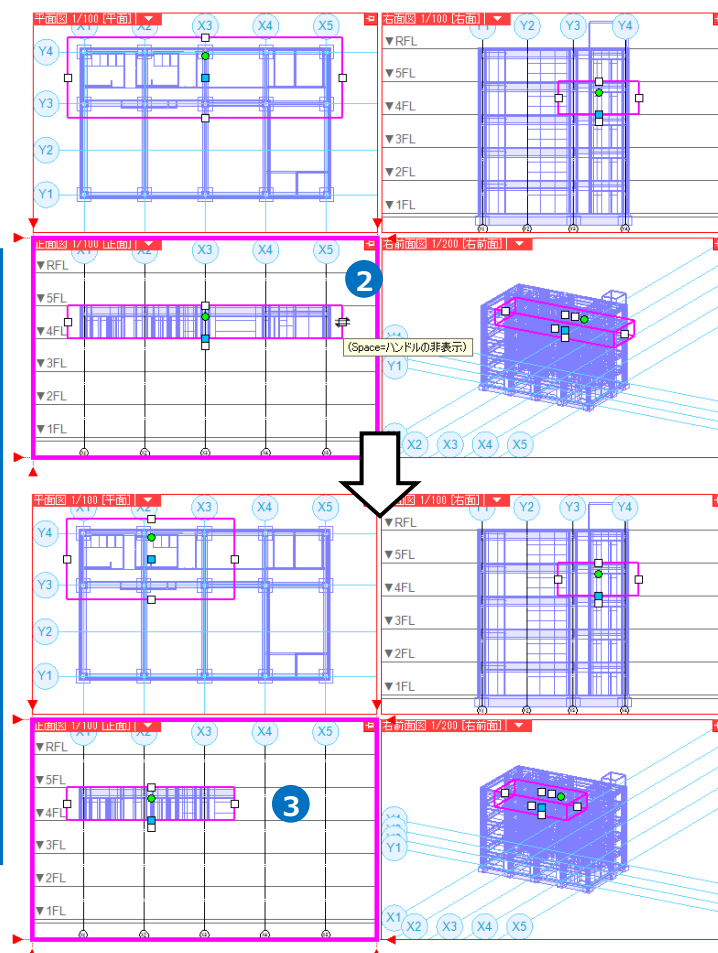
- 3 クリップ範囲を変更し、Enter キーで確定します。

Memo
リボンからクリップ範囲の高さを編集することができます。[数値入力]をクリックすると、クリップ範囲の大きさ、クリップの基準点を数値指定できます。

高さ	0 mm	4FL	~	0 mm	5FL
数値入力					
ア라운드ビュー	基準点				
縦	3800	X	22075		
横	4980 mm	Y	14510		
高さ	3130 mm	Z	13300		

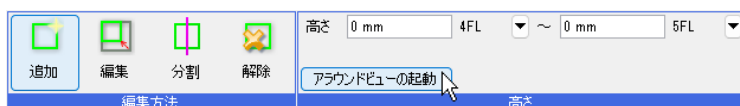
[対象][表現]の内容も編集することができます。

☐ ビュー専用を含める	☒ 上面に接する部材を表示する
☒ 外部参照を含める	☐ 下面に接する部材を表示する
詳細	
省略記号の表示	
対象	表現



● 補足説明

クリップの追加・編集の際、[ア라운드ビューの起動]をクリックすると、ア라운드ビューを起動し、ア라운드ビュー上で、クリップ範囲の確認・編集を行うことができます。



クリップの分割

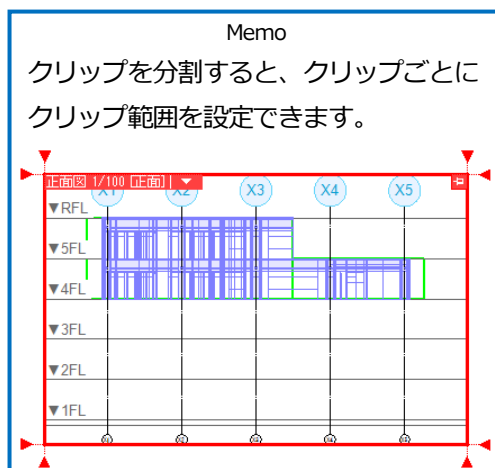
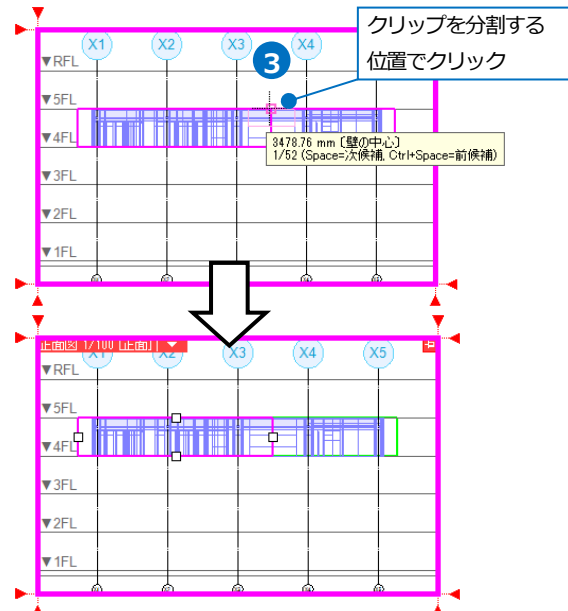
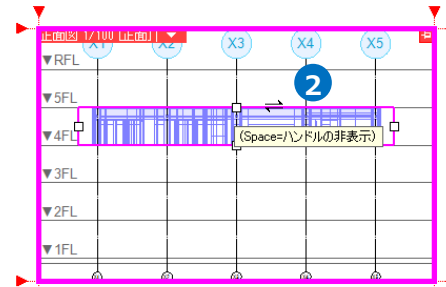
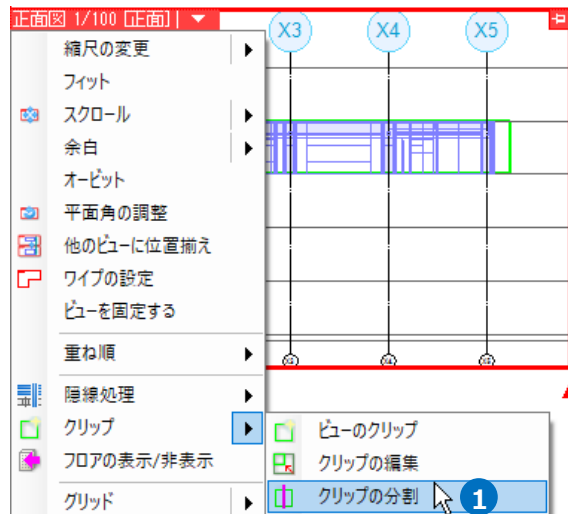
クリップ範囲を分割します。

- 1 ビュー名横の[▼]-[クリップ]-[クリップの分割]をクリックします。

Memo
クリップが複数設定されている場合、
分割するクリップを選択します。

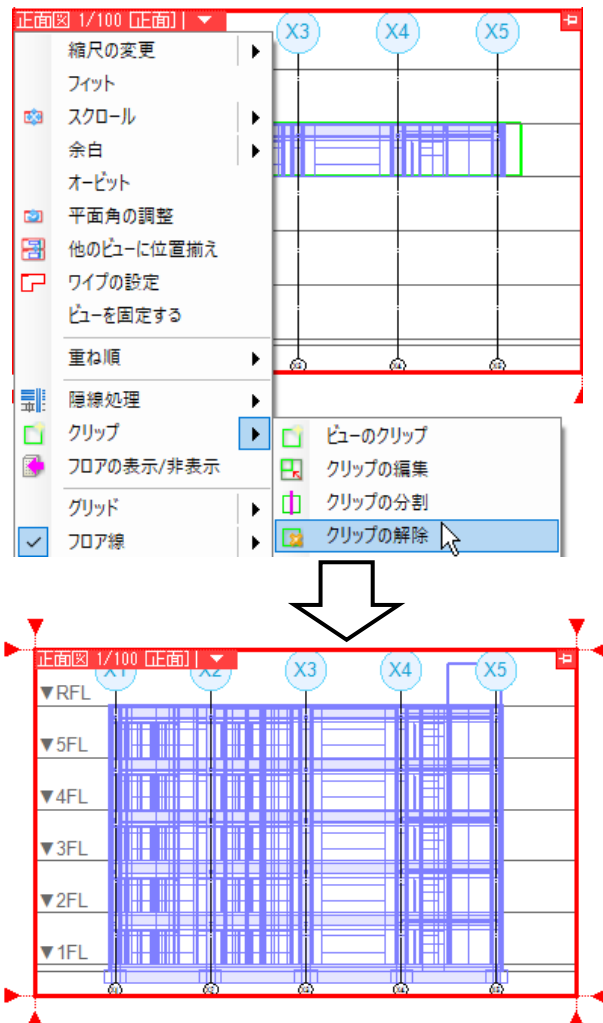
- 2 ラバー上のハンドルをクリックします。

- 3 分割する位置を指定し、Enter キーで確定します。



クリップの解除

ビュー名横の[▼]-[クリップ]-[クリップの解除]をクリックすると、クリップを解除します。



Memo
クリップが複数設定されている場合、
解除するクリップを選択します。

● 補足説明

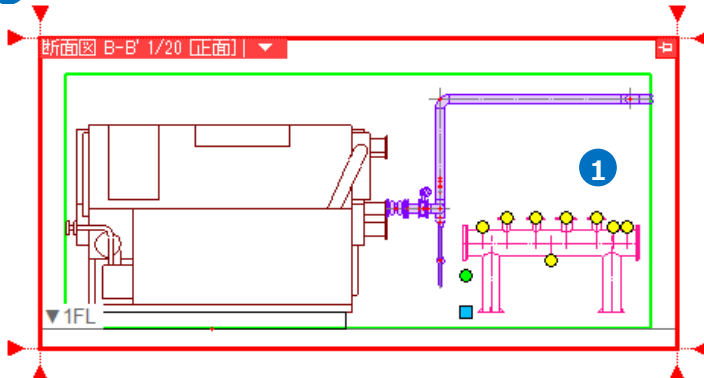
[表示]タブ-[ビューのクリップ]、[クリップの編集]、[クリップの分割]、[クリップの解除]からも同様の操作が行えます。[ビューのクリップ]は、クリップ範囲を指定後にクリップを設定するビューを選択します。その他は、コマンド起動後に編集を行うクリップ枠を選択します。



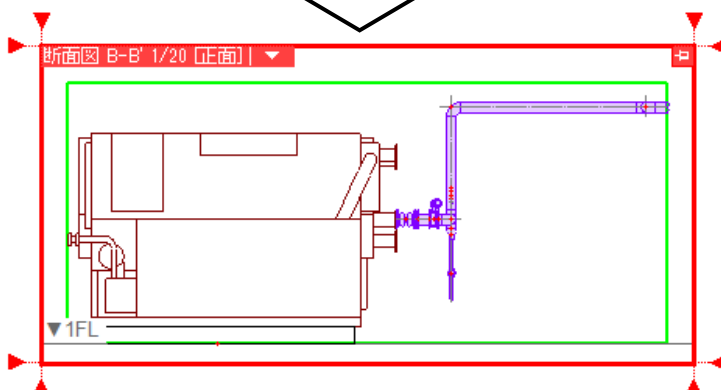
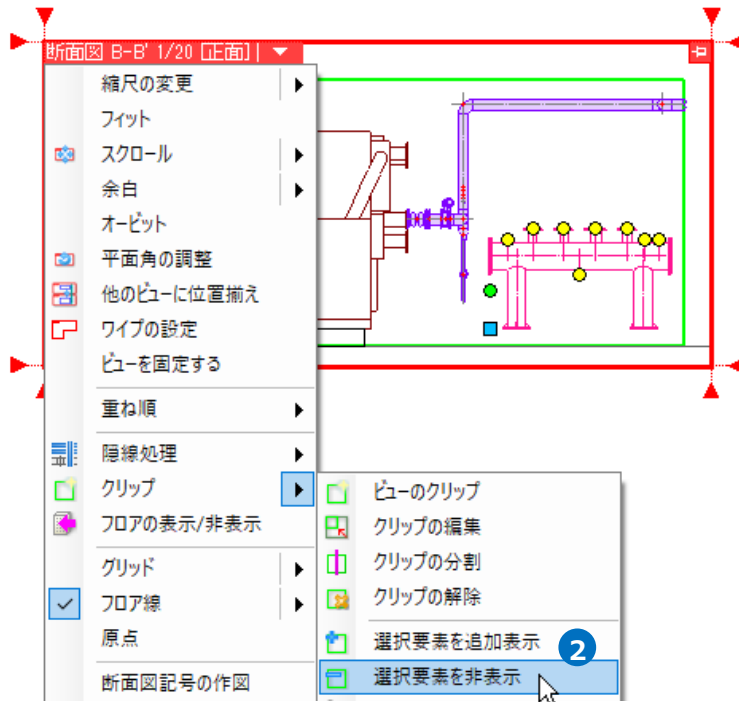
クリップの対象範囲から要素を非表示

設定したクリップ範囲から指定した要素を非表示にします。

- 1 非表示にする要素を選択します。



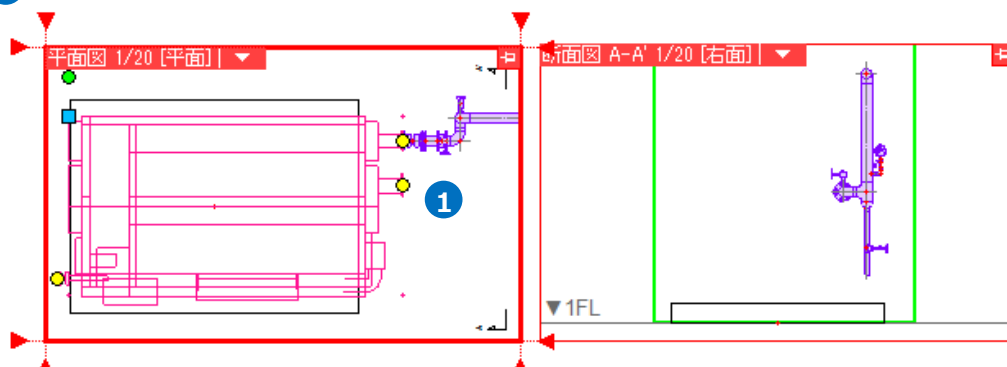
- 2 非表示にするビューのビュー名横の[▼]-[クリップ]-[選択要素を非表示]をクリックします。
→選択した要素が非表示になります。



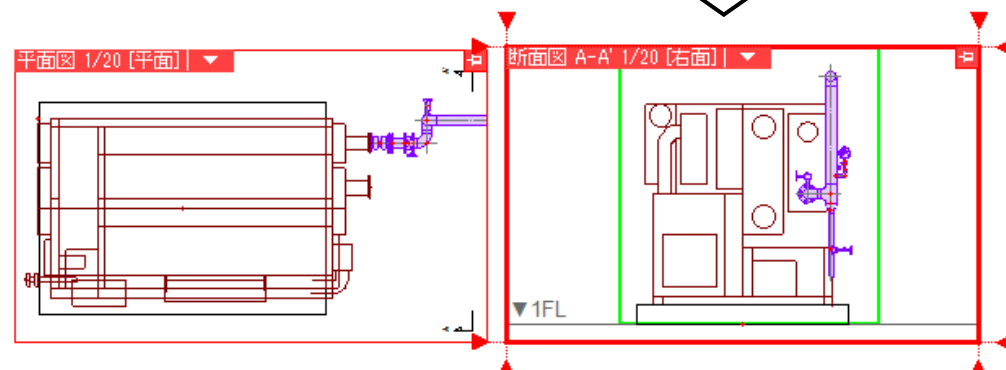
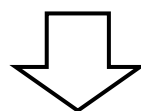
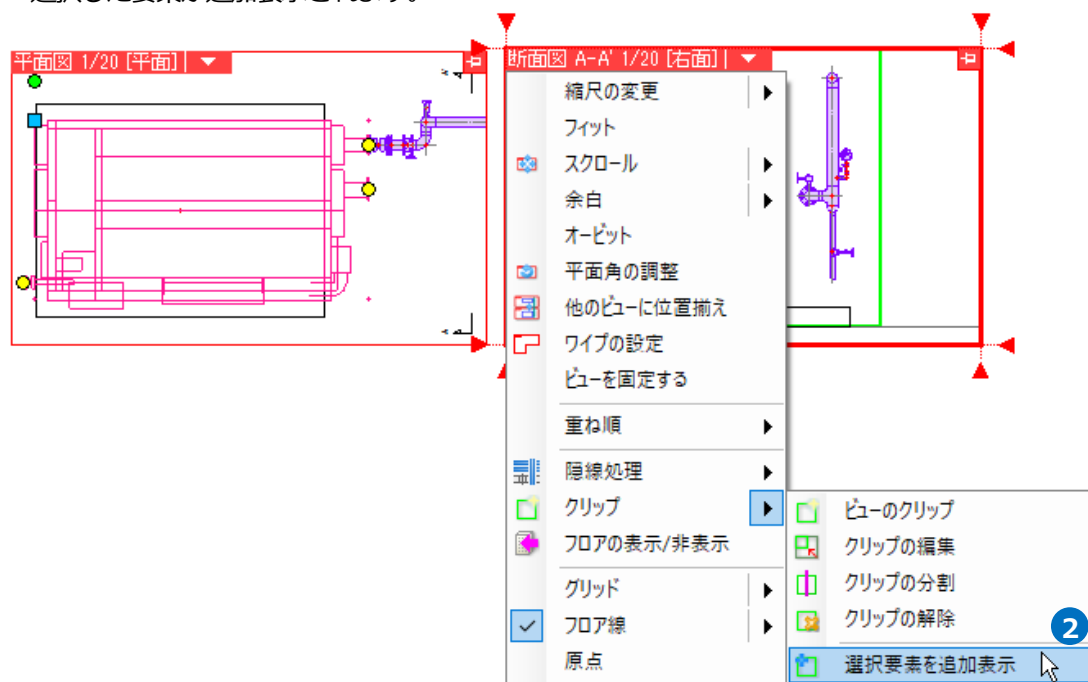
クリップの範囲外の要素を追加表示

クリップ範囲外の要素を表示します。

- 1 追加表示する要素を選択します。

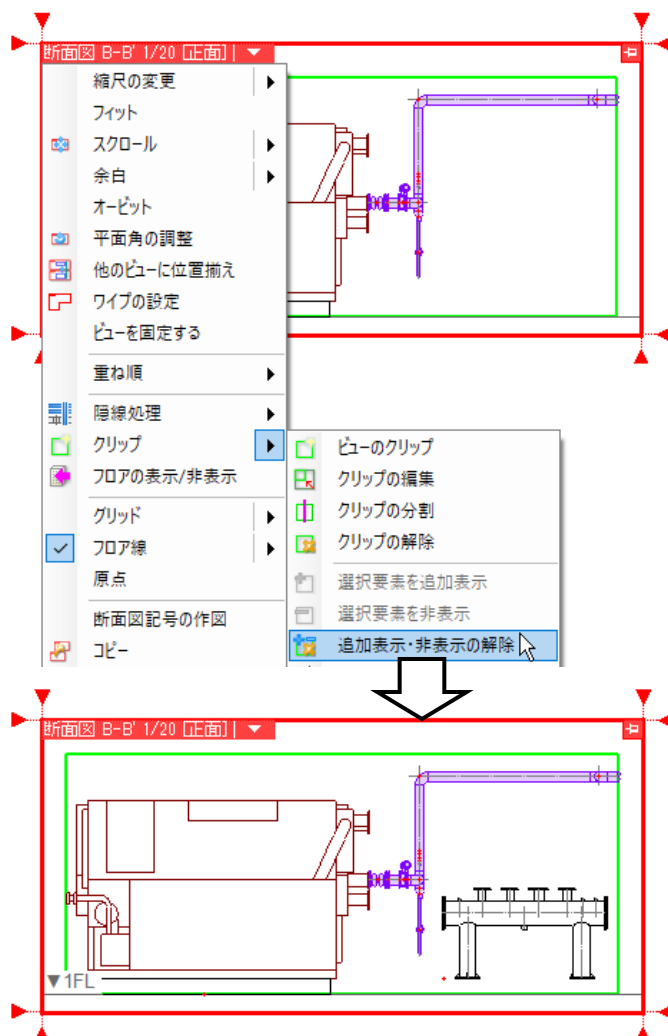


- 2 追加表示するビューのビュー名横の[▼]-[クリップ]-[選択要素を追加表示]をクリックします。
→選択した要素が追加表示されます。



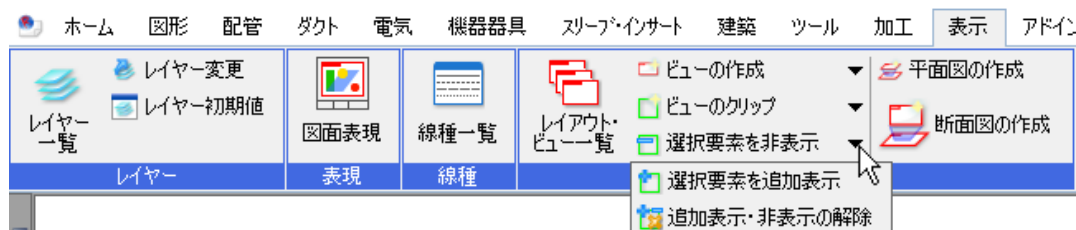
● 補足説明

ビュー名横の[▼]-[クリップ]-[追加表示・非表示の解除]をクリックすると、[選択要素を非表示]、[選択要素を追加表示]で非表示・表示にした要素を元の表示に戻すことができます。要素を選択した状態で[追加表示・非表示の解除]を行うと、選択した要素のみ元の表示に戻します。



● 補足説明

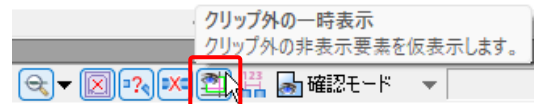
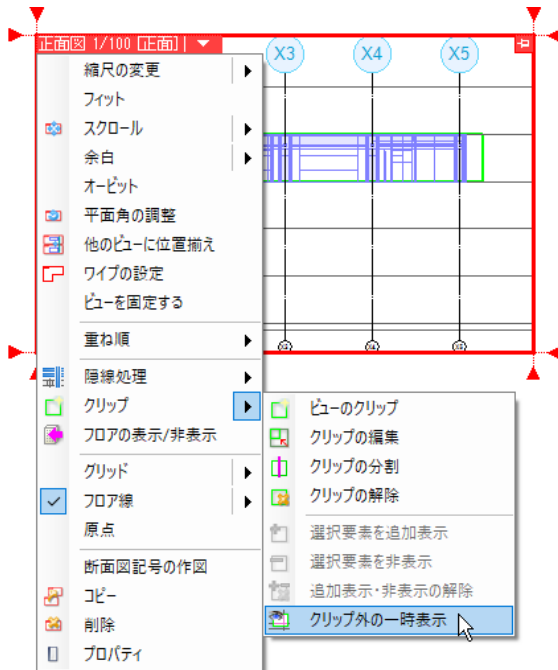
[表示]タブ-[選択要素を非表示]、[選択要素を追加表示]、[追加表示・非表示の解除]からも同様の操作が行えます。非表示または追加表示したい要素を選択し確定後、または[追加表示・非表示の解除]を起動後、該当のビューを選択します。



クリップで非表示にした要素の一時表示

クリップ範囲外の要素や、[選択要素を非表示]コマンドで非表示にした要素を一時的にグレーで仮表示し、選択できるようにします。

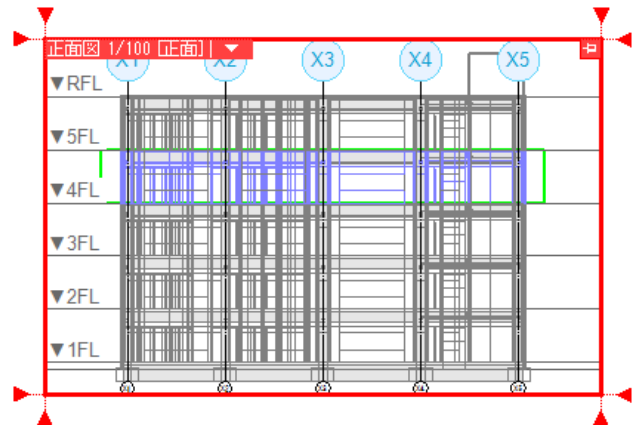
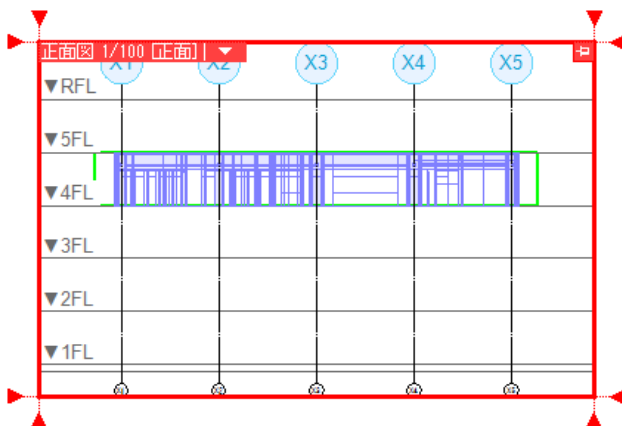
ビュー名横の[▼]-[クリップ]-[クリップ外の一時的表示]をクリックするか、画面右下ステータスバーの[クリップ外の一時的表示]()をクリックすると、一時表示がオンになります。



Memo
一時表示をオフにする場合は、再度ビューのメニューまたは画面右下のステータスバーの[クリップ外の一時的表示]をクリックしてオフにします。

オフ

オン



Memo
[クリップ外の一時的表示]をオンにすると、隠線処理も一時的に解除されます。